

目 次

巻 頭 言

1. 巻 頭 言	谷 徹	1
2. 巻 頭 言	平野 正満	2
3. 巻 頭 言	谷 眞至	4
4. 巻 頭 言	鈴木 友彰	6
5. 巻 頭 言	庄司 文裕	7
6. 巻 頭 言	小玉 正智	9
7. 巻 頭 言	浅井 徹	12
8. 巻 頭 言	木築野百合	14
9. 巻 頭 言	白石昭一郎	15
10. 巻 頭 言	浅田 佳邦	17
11. 巻 頭 言	梅田 朋子	18
12. 巻 頭 言	目片 英治	20
13. 巻 頭 言	花岡 淳	22

特集 外科学講座 50 年によせて

1. 座談会 「滋賀医科大学外科学講座の 50 年～次世代への継承と進化～」	25
2. 会員から 外科学講座 50 年によせる想い	42
3. 記念式典・講演会・祝賀会から	56
4. 50 周年記念 短期留学支援報告	神谷 賢一 60
5. 50 周年記念 短期留学支援報告	前平 博充 62

追悼

1. 白石 享 先生追悼	塩見 尚礼 65
--------------	----------

2024 年度 同門会各賞受賞者とそのことば

1. 同門会賞	川口 庸 67
2. 理事長賞	寺本 晃治 68
3. 奨励賞	神谷 賢一 69
4. 若手外科医賞	村本 圭史 72
5. 若手外科医賞	宮下 史寛 72

新入会員紹介

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）	岩崎利々佳	73
滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）	田中涼太郎	73
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）	齋藤 圭	74
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）	土田 迪貴	74
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）	徳持 裕己	75

教室業績

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）	76
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）	89
滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）	94
滋賀医科大学 総合外科学講座	99
滋賀医科大学 創発的研究センター先進医療研究開発部門	99

関連病院業績

1. 宇治徳洲会病院	101
2. ヴォーリズ記念病院 呼吸器外科	103
3. 近江八幡総合医療センター 心臓血管外科	103
4. 淡海医療センター 呼吸器外科	104
5. 淡海医療センター 消化器外科	105
6. 河北総合病院 消化器外科	108
7. 有明病院 大腸外科 直腸がん集学的治療センター	109
8. 岸和田徳洲会病院 心臓血管外科	117
9. 京都医療センター 呼吸器外科	117
10. 公立甲賀病院 外科	118
11. 新古賀病院 消化器外科	119
12. 滋賀病院 乳腺外科	119
滋賀病院 外科	120
13. 武田総合病院 呼吸器外科	121
14. 武田総合病院 救急医療センター	121
15. 暁生会脳外科病院	122
16. 長岡京病院 外科	122
17. 長浜赤十字病院 外科	123
18. のじまバスキュラーアクセスクリニック	125
19. 野崎徳洲会病院	126
20. 能登川記念病院 外科	127
21. 東近江総合医療センター 呼吸器外科	127
22. ベルランド総合病院 外科	128
23. ベルランド総合病院 乳腺センター	129
24. 南京都病院	129
25. 横浜総合病院 心臓血管外科	130
26. 洛和会音羽病院 呼吸器外科	131

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会

1. 役員一覧	132
2. 賛助会員一覧	133
3. 広告掲載ご協賛	134

卷 頭 言

- | | | |
|-----------------------|------|--------|
| 1. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事長 | 谷 徹 |
| 2. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 副理事長 | 平野 正満 |
| 3. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 谷 眞 至 |
| 4. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 鈴木 友彰 |
| 5. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 庄司 文裕 |
| 6. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 小玉 正智 |
| 7. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 浅井 徹 |
| 8. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 木築 野百合 |
| 9. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 白石 昭一郎 |
| 10. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 浅田 佳邦 |
| 11. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 梅田 朋子 |
| 12. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 目片 英治 |
| 13. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 | 理事 | 花岡 淳 |

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事長
滋賀医科大学 名誉教授
谷 徹



理事長として巻頭言を書くのは今回で5回目となる。加藤先生が理事長をお勤めの時に起こったCOVID-19のパンデミックで通常の年活動ができない状況下に私を理事長にさせていただきました。しかし3年のコロナ禍の末、2023年に通常の新年会が開け、会員が一堂に会する意義が皆さんの喜びようと安ど感から推し量れたことを鮮明に覚えています。

折しも外科学講座開講50周年と、外科同門会設立20周年記念年となるのを受けて、同門会執行部では記念活動を打ち出し、実行できました。

活動の最初は外科同門会設立を記念した同門会誌特別号としてコロナを経験した先生方のそれぞれの分野での経験や活躍を寄稿して頂き特別号としてまとめました。会員皆様の将来の参考にして頂けると期待しております。

滋賀医科大学外科学講座開講50周年記念事業は新規に寄付を募り、若手の先生方の留学支援を計画し、今までに3人の留学生支援を行い、本年度終了までの寄付で追加の支援を実施して完了となります。

最後に滋賀医科大学外科学講座開講50周年記念式典・講演会・祝賀会を6月に開くことができました。100数十名の参加者と本学執行部や現役教授、看護部等お世話になっている科の代表者、近隣大学の外科教授に加え、講演に現日本外科学会理事長と、外科学講座出身でアイオワ大学腫瘍外科教授を招くことができました。

講演の内容は、本同門会が基本としている外科学の振興と若手外科医の育成についてとなり、同門会活動の理念や目的を同じくし、我々の活動の方向性を確信することになったと考えています。

先の2年間はコロナ終息と記念会が重なって多くの催しがあり、会員の皆様には多大な経済的、時間的ご負担をおかけすることになりました。今後は通年事業に戻りつつ、新規の活動を展開して同門会をさらに会員の皆さんの誇りとなり、外科学の展開に寄与する会にして行く事が肝要です。今後とも同門会の活動にご理解とご支援をお願いいたします。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 副理事長
 淡海ふれあい病院 院長
平野 正満



外科学講座 50 周年に寄せて

日本における外科学は 100 年を越える歴史の中で大きな分岐点を迎えている。外科学は医学の進歩とともにその発展を主導し著しい功績を残してきた。知識の蓄積と技術の深化は外科学を専門的な領域に細分化させ、多様な外科治療が有機的につながり、時空を超えて拡大してきた。一方で、足元では消化器外科を中心に外科医の減少が加速している。最近の新聞報道ではこれからの 15 年間で消化器外科医は約 39% 減少し、約 5200 人不足するという。かつて医師の花形であった外科医が今や若手医師から選ばれなくなり、外科医不足から円滑に手術を受けることができず、さらに先人たちが積み上げてきた外科学の継承さえ困難になる時代が来るかもしれない。外科医の高齢化と現役世代の減少による外科治療の衰退は医学界だけの問題ではなく社会問題となっている。6 月 21 日に開催された滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年記念講演会で日本外科学会理事長の武富紹信先生は外科医減少の危機的状況に警鐘を鳴らされていた。日本から外科も外科医もなくなることはないが、外科医が元気で活躍できることが国民の健康と安心につながると。では、なぜ外科医が減っているのでしょうか。昨年 11 月に厚生労働省の医療部会で大変興味あるデータが示されている。日本専門医機構が報告した医師専門研修シーリングによる医師偏在対策の効果検証における専攻医アンケート調査結果である。設問は 1118 人の専攻医に元々希望していた基本領域を変更し希望しなかった理由を聞いている。外科志望であったにもかかわらず選択しなかった理由は、将来的に専門性を維持しづらいから、ワークライフバランスの確保が難しいから、医師が不足しており過酷なイメージがあるから、さらには給与などの処遇が悪いからの項目が突出して多く上がっていた。実際に現場を知る専攻医には外科は仕事の内容に比べ給与が低く、自己犠牲を強いられ、医師も少なく厳しい職場であると認識されているようである。新臨床研修制度が導入されて以来、外科の評価は低下する一方であった。ではこの外科に対する負のスパイラルを打開するためには、何が必要か。まずは外科の原点に立ち返り、生命に直結した尊い職種であることの魅力を知ってもらうこと、これがいわゆる内的動機に導く根幹的な対策であろう。さらに制度設計を変えていく。かつて医師不足で社会問題化された小児科や産婦人科と同様に、広く社会が危機感を持つ重要である。医学生採用の地域枠には新たに外科専攻枠を確保し外科医数の維持、拡大に努めるとともに、NA 導入による徹底したタスクシフトや生涯を通じたキャリアプランの可視化、女医の皆さんが選

扱できる出産・育児などの環境を整備することが必要である。さらに給与を上げるなどの処遇改善は外科医のモチベーションと地位向上に繋がるし、すぐに実施できる対策でもある。すでに日本外科学会も数々の対策を講じているように、厚労省や大学も歩調を合わせ国策として取り組んでいただくことを切に願っている。

滋賀医科大学外科学講座が発足して50年、半世紀が過ぎた。はや50年、いやまだ50年と捉え方は色々あろうが、この組織にとっては未来への歴史の通過点、そして一里塚を刻んだに過ぎない。これからもさらに長い外科学講座の歴史が脈々と繋がっていく。積み上げられてきた講座の歴史と優れた伝統を若き外科医に伝えるとともに、外科学講座と同門会とが一体となり、外科学の発展と社会貢献を果たす重要な役割を私たちは担っている。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）教授

谷 眞 至



—外科学講座開講 50 周年に寄せて—

平素は滋賀医科大学外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）の活動に対し、ご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

滋賀医科大学は 1974 年に滋賀県唯一の医科大学として開学しました。1974 年は私自身小学 6 年生でしたが、オイルショックの翌年ということで世間は重苦しい雰囲気にもまれていたことをなんとなく感じておりました。その翌年 1975 年 4 月に大同初代教授の薫陶の下、旧第 1 外科学講座が開講しました。滋賀医科大学は、前身の施設があったわけでもなく、何もなかった山の上に大学病院ができたこともあり、その当時のスタッフの先生方に大変なご負担をおかけしながらのスタートであったことは想像以上に大変であったと思います。大学病院は診療・教育・研究に加え社会貢献が責務とされている中で、全国的にも診療のウェイトが大きくなり他の業務を圧迫していますが、50 年前にゼロからのスタートであった先輩たちのご苦勞を鑑みると、診療で忙しいのは贅沢な悩みなのかもしれません。

この 50 年、医学とくに外科学を取り巻く環境は大きく変わりました。ロボット支援手術や鏡視下手術などの手術手技の発達、新規治療薬の開発、診断技術の革新という正の側面と、MRSA や VRE など耐性菌の出現、少子高齢化、働き方改革など、負の側面を経験しました。診断学の進歩、治療薬の進歩は驚愕に値するところがあります。造影 CT は helical scan が当たり前と若い先生は思っていますが、50 年前には存在しません。免疫チェックポイント阻害薬が保険適応で使用できますが、本当に免疫療法が可能な時代が来るとは 50 年前に誰が想像したのでしょうか。AI の普及や社会保険制度の変革など社会全体が変わっていく時代となり、医学以外にも眼を向けていく必要があるとともに柔軟に変化する力も必要です。そのような中で、逆に変わらないものをしっかり見つめる、いわゆる目利きの視点が大事な時代になってきたと思います。手術手技がいくら変わろうとも、診断技術がいくら向上しようとも、薬物が進歩しようとも、手術は侵襲の高い治療であることは変わりません。コスパやタイパが普通に言われる中で、やはり外科医は、外科医としてのプライドを捨てることなく患者さんに対する気持ち、患者さんに対する責任は不変であるべきだと思います。少なくとも、滋賀医科大学外科学講座の医師はそうであってほしいと思います。

「歴史と伝統」という言葉を聞くことがあります。滋賀医科大学外科学講座も 50 周年を迎え

ました。歴史はただ時間が経過するだけで積み重ねていくことができます。然しながら、伝統は作るものであり自然にできるものではありません。50年の歴史に見合う伝統の構築が必須です。50周年は単なる1通過点ですが、次の50年すなわち100周年に向けての折り返し点です。次の50年後にはどのようなになっているのか想像すらできません。今後の滋賀医科大学外科学講座を地域とともに背負って立つ人々のためにも、これまでの50年の歴史を振り返り、多くの方々が外科学講座の発展に尽力されてきた軌跡を知ることで、「五十にして天命を知る」機会かと思っています。そして、今回の50周年のこの瞬間に携われることに感謝したいと思います。

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）教授
鈴木 友彰

心臓血管外科にはありがたいことに新たに4人の入局がありました。齋藤圭（大分大）、土田迪貴（富山大）、徳持裕己（滋賀医）、木下萌（大阪医）です。2019年に現体制がスタートした時点で医局員は16人でした。それが6年経過し37名に増えました。

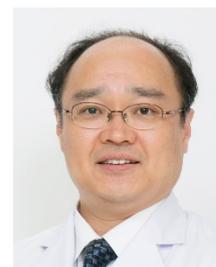
今後、外科のレベルは下がっていきます。時代の流れが外科のレベルを下げる方向に働いています。でも、仕方がないのかもしれない、と最近あきらめています。理由を簡単に説明できる事例として私自身をモデルとします。

約30年前、胸部外科に入局した私は、まず呼吸器外科の訓練を徹底的に受けました。自家麻酔だったので分離肺換気も心臓麻酔も当たり前でした。小児心臓麻酔もかけました。人工心肺を回しました。3kgの新生児も回した経験があります。人工心肺技師の第一回認定試験に合格した連中に回し方を教えたのは我々でした。消化器外科は一年ローテーションしました。最終的に胃切除まで執刀させてもらいました。手縫いでした。週に2-3日はICU当直、それ以外は胸外当直です。週に1日くらい家に帰りました。帰るといっても夜中1時か2時で、翌朝6時には出勤です。カテーテル検査は自科でやっていました。当時PTCAと呼ばれたバルーン冠拡張を外科でもやっていました。先天性の手術にも入りました。大血管転移やFallot、DORV、BTシャント、縮窄症などたくさん入りました。

呼吸器外科、先天性、心臓麻酔、人工心肺経験の上に、成人心臓外科5000例です。働き方改革、週1未満の当直、明けの有給、ハラスメント委員会、9時—5時勤務、960未満の超勤。私が積み重ねた上記のような臨床経験は、これからの若手外科医は絶対に不可能でしょう。

すいません、訂正します。時代遅れでした。外科のレベルは下がると言いましたが、間違っています。下がりません。「なんでもできるは、何にもできない」という言葉があるように、「心臓外科しかできません」と言えるようにすべきです。そして、チームで連携し、他者を敬い、知恵を絞って皆で協力することが最大の効果を生み出すということを人類は知っています。目標に向かって仲間と協力することができるかどうか、今後最も大切な外科医の資質です。

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）教授

庄司 文裕

2025年8月1日、外科学講座（呼吸器外科）に着任しました庄司文裕でございます。

この度は滋賀医科大学外科学講座開講50周年、誠にありがとうございます。

赴任前にもかかわらず、滋賀医科大学外科学講座開講50周年記念式典にお招きいただき、本当にありがとうございました。多くの同門の方々が一堂に会されている場を目の当たりにしながら、これまでの滋賀医科大学外科学講座の歩みを学ばせていただきました。

滋賀医科大学外科学講座の歴史と伝統を感じさせていただいた記念式典でした。

また次の50年に向かう記念すべき年に滋賀医科大学外科学講座の一員に加えていただけます栄誉を賜り、身の引き締まる思いです。

私は1972年生まれで長崎県の出身です。小学校教諭の両親の下、幼少期は五島列島の豊かな自然の中で育ちました。その後、高校卒業まで諫早市にて過ごし、1997年に九州大学医学部を卒業、以降九州大学病院及び関連病院にて研鑽を積んでまいりました。専門は肺癌を中心とした胸部悪性腫瘍に対する外科療法・集学的治療です。

臨床では低侵襲手術から拡大手術まで行ってきました。現在、低侵襲アプローチの代表格であるロボット支援手術に力を入れております。また外科療法のみならず、癌化学療法や放射線療法といった集学的治療も実践してきました。近年、免疫チェックポイント阻害薬を中心とした癌免疫療法により肺癌治療はまさにパラダイムシフトをきたしたと言っても過言ではありません。切除不能肺癌はもとより切除可能肺癌における周術期治療にも癌複合免疫療法治療効果のエビデンスは証明されています。従いまして、呼吸器外科医であっても癌化学療法/免疫療法/放射線療法にも十分に習熟し、正しく実践することが求められています。

研究では病理学的及び分子生物学的手法による基礎・臨床研究を行ってきました。大学院での肺癌病理並びに遺伝子治療研究に深く携わってきたことが、現在の研究推進力に繋がっていると思います。研究のための研究ではなく、発展的研究すなわち実臨床に役に立つような研究を行うことを目標としております。多くの大学院生の学位取得にも携わってまいりました。

教育では学生・研修医に参加型の教育を実践し、呼吸器外科の魅力を十分にアピールすることによって、入局者の増加に寄与してきました。外科離れが社会問題になっている昨今ですが、意欲に満ち溢れた若者の選択肢の1つになるように努力しています。若手医師にはスペシャリストとして将来を担うことができるような呼吸器外科医となれるよう、しっかりと教育してい

ます。

地域医療では肺癌手術のみならず呼吸器外科全般にも対応し、最後の砦となれるように日々精進しています。

このように、これまでに培った知識や経験を生かして、滋賀医科大学外科学講座の更なる発展に貢献できますよう、全力で邁進していく所存でございます。

今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 名誉教授

小玉 正智

外科学講座の50周年を迎えて

外科学講座が、創立50周年を迎えおめでとうございます。

医療体制の見直しにより、地域医療の充実のため各都道府県に医学部を置く新しい政策が施行され、国立滋賀医科大学が昭和49（1974）年に新設され、全国的に新しい医療体制が始まりました。滋賀医科大学は、滋賀県はじめ関係者の多大なサポートで、地域医療と社会への貢献する目標を掲げて誕生しました。

この機会に、外科学第一外科講座の創設期の歴史を紹介したいと思います。

初代の大同禮次郎教授は、京都府立医科大学外科学第一講座助教授から赴任され、消化器外科、特に食道外科の専門家で、講座として消化器外科、小児外科、内分泌外科を守備範囲として標榜されていました。大同教授は昭和55（1980）年2月に病気で逝去され、私が同年9月に二代目教授として赴任しました。私は、京都府立医大外科学第二講座の出身で、恩師が橋本勇教授で、先生は医大に入る前、陸軍士官学校のご出身で、戦時中は小隊長をされた経験を持たれ多才な方でした。先生のご専門は、心臓・血管外科の専門家で、講座は胸部外科、消化器外科、および移植・内分泌・乳腺外科の3つのグループがあり、若い外科医は6ヶ月ぐらい各グループで研修して、関連病院に出張し大学に帰学する時期に専門を決めるゆるい制度で育成されました。私は、消化器外科特に食道領域を専攻し、助手、講師、医局長、関連病院の外科部長、助教授の13年間を通じてご指導をいただき、人として、また外科医として成長できたと心から感謝しています。

教授就任時、私は45歳のまだ若輩で、新設医大の外科教室をまかされ、大きな責任を感じ全身全霊を投ずる決心をしました。当時大学は、1期生が6学年の学年進行中で、初めての医師国家試験と卒業を6か月後に控えており、また病院は、開院して2年目で、入院病棟が段階的に稼働している多忙ながらも緊張と希望に満ちた時期でした。

大学医学部は、教育、臨床、研究の3つの重要な役割をもっていますが、スタッフに余裕なく、当面教育と臨床に全力投球することにして、教育は‘心豊かな医師育成’を、臨床は‘合併症の少ない適切な手術’を目標に展開しました。

教室員スタッフは、全員私と初めて一緒に働くことになり、外科教室の方針策定にまずお互いを理解することや、手術法や治療方針を十分な討議をして決定する必要性があり、毎朝の連

絡会后、診療か手術を行い、夕方から術前・術後カンファレンスや、新しい規約作成などに夜遅くまで多忙な日々でしたが、教室員の協力と努力で順調に新しい教室作りが進みました。

昭和 56 (1981) 年春には、大学院がスタートして 3 名の大学院生、および第一期の卒業生 2 名と他学の卒業生の 5 名の新研修医を迎え、教室に活気が出てきました。昭和 57 (1982) 年 3 月、恵谷敏助教授が、国立神戸病院院長で栄転され、後任の助教授に私と同門の腎移植・内分泌外科の専門家の中根佳宏先生を迎えました。滋賀県では腎移植をする施設は最初で、泌尿科と共同で開始し順調に進展しました。

新設医大にはいくつもの課題がありますが、滋賀県における公立または大きな病院は、京都大学か京都府立医科大学のどちらかの関連病院であり、まず卒業後の研修する関連病院の確保が緊急の課題でした。若い医師には多くの臨床経験と良き指導者との出会いが必要で、そのために他の大学、医療センター、病院、および海外の大学等に積極的に研修派遣をしました。

昭和 58 (1983) 年、米国での学会出席の後、ボストンを訪ねハーバード大学の見学を計画し、長谷川俊彦先生に案内してもらい、医学状況や卒前・卒後医学教育のあり方など意見交換できました。当時長谷川俊彦先生は、米国で外科のレジデントを修了後、ハーバード大学公衆衛生大学院に在学中でしたが、縁があり大学院修了後、昭和 60 年に長谷川先生がスタッフとして参加し、卒前・卒後教育に新しいシステムを導入し、さらに昭和 63 (1988) 年に、米国の外科レジデントを修了した岸田明博先生の入局があり教育面でも一段と充実できました。

国際化は教室の発展に必要と考えていましたが、ミシガン大学アナーバーの外科の Turcotte 主任教授、後任の Greenfield 主任教授、またケンタッキー州レイビル大学の Polk 主任教授のご支援をいただき、教室と密接な交流をさせていただきました。両大学に数名の医師が留学して、そのなかで米国での外科レジデントを修了した星寿和先生がアイオワ大学腫瘍外科教授、と伊藤史人先生が南カリフォルニア大学外科准教授として現在活躍しています。

のちに、Greenfield 教授は副学長になられ、滋賀医科大学とミシガン大学アナーバー校医学部と姉妹校の誕生に尽力して下さり、佐野晴洋元学長ご夫妻が調印式に渡米され、私も加えていただき大変光栄でした。

また、教室は、平成 8 (1996) 年に設立された国際アフェレシス学会の事務局を預かり、歴代の事務局長 (小玉、谷徹先生、遠藤善裕先生) を務め、29 年間苦勞もありましたが現在も運営を継続して発展に貢献しています。

教室の人事の異動は、平成 2 (1990) 年中根佳宏准教授が、近江八幡市民病院副院長に栄転され、平成 3 (1991) 年に柴田純祐講師が准教授に、講師は寺田信國助教が昇格しました。平成 10 (1998) 年柴田准教授が、日野記念病院院長に、寺田講師が名古屋徳洲会病院副院長に就任され、後任に谷徹学内講師が准教授に、花澤一芳助教が講師に昇格し、それぞれの時代の教室員の努力で教室が発展してきました。

研究面では、昭和 56 年に大学院が創設され、がんに関する研究と、医工学の研究班を作り地元東レメディカル、ニプロ研究所等と共同研究を目的に研究会を開始しました。当時感染症とくにグラム陰性細菌感染で発生するエンドトキシンによる重症敗血症の治療に難渋していました。医工学研究班（班長：谷徹先生）が、東レメディカルと長年にわたる共同研究を継続していました。抗生物質ポリミキシン B はエンドトキシンと結合することは知られていましたが、毒性のため血中投与が出来ないので、ポリミキシン B を繊維に固定化しカラムにして体外循環する方法を考案しました。繊維への安定した固定化は、東レメディカルの小路久敬氏（後に滋賀医科大学医学博士取得）等が、いろいろと検討して試作し、エンドトキシン発生ショックの動物実験で素晴らしい治療成績（花澤一芳先生等）が得られ、臨床への治療の可能性をしめす成績が得られました。国内 8 大学の外科、および救急講座と東レ株式会社の後援で臨床治験を行い、数年かかり厚労省の認可後、保険採用をうけ、国内外で敗血症患者の治療の選択枝となり重症患者の救命に貢献しています。実験を始めてから臨床応用まで十数年がかかりましたが、思い出深い経験でした。

学会面では、教室の充実に伴いいくつかの学会のお世話をさせていただきましたが、平成 7（1995）年第 49 回日本食道疾患研究会会長、平成 8（1996）年の鍋谷欣市教授の会長のもと京都で開催された国際食道学会の事務局長を無事終了し安堵しました。とくに教室をあげて準備していた平成 11（1999）年日本消化器外科学会総会開催が、教室員全員の協力で盛会裡に終了し感激でした。

このようにして、私は平成 12（2000）年に退任しましたが、教室から育成された多くの外科医が、現在大学はじめ、病院、および診療所等広く活躍されていることは、私の人生の宝物と思っています。

21 世紀に入り、平成 13（2001）年に第 3 代目の谷徹教授が就任され、大腸がん特に直腸がんの治療成績の向上と機能温存、内視鏡下手術の発展と多方面の研究、また平成 26（2014）年第 4 代目の谷眞至教授が就任され肝胆膵の外科、特に膵臓癌の治療成績の向上、およびロボット手術の普及に貢献され、教室を一段と発展されていることに敬服しています。

最後に、当教室の 50 年の歩みが、未来への礎となり、次の 50 年にむけて、若い医師が外科教室をさらに発展させていただき、地域医療と世界に貢献されることを祈念しています。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事

滋賀医科大学 名誉教授

葉山ハートセンター 心臓血管外科 特別顧問

浅井 徹



2002年1月、私は心臓血管外科教授、そして旧第二外科の主任教授として滋賀医科大学に着任いたしました。当時のことを思い起こし、巻頭言とさせていただきます。

着任当時の情熱と挑戦

着任当時、特に滋賀県内で、「国立大学病院で満足のいく心臓手術が行えるのか」という疑問を持つ方が多かった時代でした。心臓手術の年間症例は20例以下。前任のグループ長は異動され、私は助手1名、医員1名という小規模なグループで心臓外科をスタートさせました。「ゼロからのスタート」という言葉がありますが、むしろマイナスからの出発であったかもしれません。また、旧第二外科内では、呼吸器外科、消化器外科の各グループが個別に活動しており、教室全体のベクトルは定まらない状態でした。さらに、当時の滋賀県内には、年間100例以上の開心術を行ってきた施設が文字通りゼロ、全国的にも滋賀県を含め2つしかないという状況でした。

困難の中で見えた可能性

若い私にとって、当時の滋賀医大病院は症例の少ない、ともすれば「取るに足らない施設」に見える一方で、実は大きな「伸びしろ」を秘めた場所に見えていました。

しかし、先代の森渥視教授が退職されてから約5年間も主任教授が選出されないという異常事態が常態化し、教室の連携を阻害する弊害は非常に大きいものでありました。各グループ、各個人が個別の利害を優先せざるを得ない状況です。加えて、外科学講座がナンバー講座制から臓器別再編の真ただ中であつたこと、そして医学部卒後初期臨床研修制度の開始前年であつたという時期的な要因も重なり、教室は空中分解しかねない状況でした。

そんな中、教室秘書の北村多美恵さんをはじめ、多くの好意ある方々が、教室を何とか支えようとしてくださったことは忘れることができません。一方、私たちには非協力的で、時に壁となる仕組みや人々がいたのも事実です。

揺るぎない目標と実践

私には、心臓外科医としての修練と臨床で獲得した手術技術と見識以外、何もありませんでした。だからこそ、まずは滋賀医科大学附属病院を「自他ともに認められる、良質な心臓手術が行える施設」にすることを第一の目標と決めました。

幸いにも学内外から応援してくださる方々は多く、私自身が人工心肺装置を使わない心拍動下冠動脈バイパス手術（オフポンプ CABG）のエキスパートであるという自負もあり、教室として実績を積み重ねることで、地域、そして全国にも次第に認知されるようになりました。

外科教室のあるべき姿

私は、大学の外科教室の役割を、「臨床問題を解決する研究を行い、その過程で人間性と技術を兼ね備えた信頼される医師を育て世に出すこと」だと考えていました。それは、研究、教育、臨床のすべてに満遍なく力を注ぐよりも、どれか一つ（私の場合は臨床、すなわち心臓病治療手術）を極め発展させる過程で、他の要素が自然に育まれるという信念からです。

この歩みは、ひとえについてきてくれた教室員たちの力で支えられました。また、地域の医師の方々、そして何よりも患者さんたちから必要とされたことが、大きな原動力となりました。

さらに、旧第一外科の歴代教授である小玉正智先生、谷徹先生、そして谷眞至先生の見識のもと、ともに未来を見据えて外科学講座同門会を発足し、円滑に運営できたことは、非常に幸運なことであり、心より感謝申し上げます。

未来への期待

大学の外科教室運営が難しい時代が続きますが、滋賀医科大学外科学講座が、未来を担う有意な若手外科医を育むというミッションを堅持し、同門会とともにさらなる発展を遂げることを心より祈念いたします。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
きづきクリニック 院長
木築 野百合



50年に寄せて—これから女性が外科を牽引すべし—

50年、あっというまのように思いますが、昭和、平成、令和と元号が三つも移り変わり、我々を取り巻く環境も、大きく変わってきているのを感じます。

私が入局したとき小玉教授から「女性として扱わないから」といわれ、今ではセクハラともとれるこのフレーズを私は最高の叱咤激励と受け止め、きづ川病院に赴任するときも、角田先生から「女性として扱わないでいいと教授から聞いているから」と言っていたが、頑張ってきました。でも実は、外科の先輩先生方は、後輩としての私をととても大事にしてくれていたことを痛感いたします。軍曹といわれて、とても厳しくご指導くださった上原先生、「飯食う時間があるのに、検査の用意ができてないのか！」と男子に言っているのを聞いていましたが、私には「ちゃんと、飯食べているか？」と聞いて下さったことがありました。

なにより、出産のときに、代診のお願いを、当時の来見医局長に相談に伺ったとき、「学会に行きたいといわれたら、それはみんな行きたいのだから、代診は出せないけれど、出産は君しかできない事業だからな。」と行ってくださったことを今でも忘れません。

女性が少ない大学のなかで、特に女性が少ない外科において、一人の女性医師に起きた出産や子育ての対応を考えていただけて大変助かりました。その後、後輩に女性が増えるたびに、みんながちゃんと結婚や、妊娠、出産のライフイベントを上手に乗り越えていけるかを案じて参りました。一人の女子を多数の男子でカバーする方が、複数の女子を、少数の男子でカバーするより、簡単だったろうと思います。今はいろいろ大変だろろうと思います。

多様性の時代とか、男女共同参画とか、平成、令和に向かって、我々が、対応すべき課題はより複雑になっているようです。

男性も結婚、妻の妊娠、妻の出産、子育て、において、女性に全てまかせるのではなく、参画し、権利としての産休取得や、子育て休暇を取得できる環境を作っていくべきと思います。

女性外科医の皆さん、前を走っていきましょう。知識や技術で、男性にひけをとると思う必要はありません。人生の経験値としての、出産や子育てのイベントは、人間形成に決して不要なものではないと思っています。その経験値をもって、自信をもって、走りましょう。私は滋賀県医師会の男女共同参画担当理事として、医師の働き方を見直しながら、男女がともに気持ちよく働ける環境づくりに貢献したいと思っています。滋賀医大の外科が、女性にも男性にも働きやすい現場になることを切に願います。

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
淡海医療センター 心臓血管外科 部長

白石 昭一郎

滋賀医科大学外科学講座 50 周年に寄せて — 心臓血管外科の歩みと展望 —

今年には昭和 100 年、戦後 80 年、そして滋賀医科大学外科学講座創設から 50 年の節目の年にあたる。先日、琵琶湖ホテルにて記念パーティーが開催され、多くの同門会員が一堂に会し、半世紀にわたる講座の発展を実感する会となった。しかしながら、心臓血管外科において私より先輩の医局員はすでにおらず、多くの心臓血管外科医局員は 2000 年以降の入局者である。すなわち、滋賀医科大学心臓血管外科の歴史を知る者は極めて少なくなっているのが現状である。

滋賀医科大学心臓血管外科は、外科学第二講座（第二外科）の一部門としてその歩みを始めた。第二外科は創設時より胸部外科、心臓血管外科、消化器外科の三グループ制を敷き、入局者は半年ごとに各グループや他診療科を研修し、その後所属を決める形態であった。

私は 1985 年に滋賀医科大学を卒業し、第二外科に入局した。心臓血管外科では 1979 年 2 月 27 日に第一例目の開心術が行われていた。当時は森渥視助教授（のち教授）を中心に 5～6 名の医局員で運営されていた。当時の心臓手術は時間が長く（短くても 6～8 時間）、術後も 1 週間は ICU に泊まり込みで対応していた。毎年 6～9 人の入局者のうち、心臓血管外科を志すのは 1 人程度にすぎなかった。1988 年 6 月に森渥視先生が教授に就任されたが、手術件数は年間 30 例前後にとどまり、症例数も医局員数も増えず、他大学への流出も少なくなかった。森教授は健康上の理由により 1999 年 1 月に任期途中で退官された。その頃には手術件数も減少し、医局員も私を含め 3～4 人にまで減少、他施設の協力を得て手術を行っていた。

2002 年 1 月、浅井徹先生が滋賀医科大学に着任し、本格的な心臓血管外科診療の立ち上げを目指された。医局員は私を含め 2 人しか残っていなかったが、初年度に 146 例の心臓手術を実施し、2008 年には年間 300 例（関連病院を含めると 350 例）にまで増加した。これは国立大学附属病院として全国トップクラスの症例数である。その後も安定した症例数を維持し、新規入局者や他施設からの入局者が徐々に加わり、関連施設も拡大していった。

2019 年には鈴木友彰教授の下でさらなる発展を目指し、新入局員も着実に増加、教室員は 30 名を超える規模に拡大した。TAVI や TEVAR など先進的低侵襲治療を定着させる一方、緊急症例にも迅速に対応する体制を維持し、地域住民の生命線としての役割を果たしている。診療成績の安定に加え、学術論文や国際学会発表も積極的に行い、研究・教育・地域医療を三位一体で推進している。毎年 2～4 名の新入局員があり、関連病院も着実に増加している。最高水

準の治療と研究を通じて地域および世界の医療に貢献するとともに、若手医師の育成に注力している現状を、心臓血管外科創設時から在籍する者として誇りに感じると同時に、今後のさらなる発展を確信している。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
浅田クリニック 理事長・甲賀湖南医師会

浅田 佳邦



私は昭和 62 年に卒業後、滋賀医科大学大学院、洛和会音羽病院、長浜赤十字病院、公立甲賀病院において呼吸器外科医として勤務し、肺癌を中心とした呼吸器外科手術に携わってまいりました。勤務の傍ら、自身の専門医・指導医資格の取得に励むとともに、各施設の基準整備や、がん診療連携拠点病院としての認定取得にも微力ながら貢献することができました。50 歳に至るまで、赴任先の医療機関に対し、一定の役割を果たせたものと考えております。

その後、甲賀の地で開業し、個人事業主として地域に根ざした医療に携わる立場となりました。地域医療の現場で日々診療を行うなかで、そして医師会活動に参画するなかで、我々開業医は、国民皆医療保険制度の末端を担う“実務者”であるという現実を、改めて深く認識することになりました。

ここからは個人の見解ではありますが、地域医師会、県医師会、さらには日本医師会の活動に参加するようになり、医師という職能団体を束ね、その最上位に位置するのは専門医学会ではなく日本医師会であることを理解いたしました。勤務医時代には、専門医資格こそが自身のキャリアアップの中心であり、それを得ることで“一人前”の医師になるのだと考えておりました。しかし現在では、専門医学会は必ずしも医師の処遇改善、特に賃金の向上や専門医・指導医への適切な評価体系の構築といった課題に対し、現状では実効的な機能を十分に備えていないことも明らかになってきています。

これからの外科医が安心して誇りをもって働ける環境を整えることは、我々の責務です。すでに臨床・研究両面で卓越した実績をお持ちの同門会の先生方には、次世代の外科医が明るい未来を描けるよう、待遇改善を含めた持続可能な職場環境の実現に向け、ぜひとも力強い行動を起こしていただきたいと願っております。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事

滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点 准教授

滋賀病院 乳腺外科 部長

梅田 朋子



滋賀医科大学外科学講座 50 周年で思うこと

滋賀医科大学外科学講座が50周年を迎え、多くの同志とともに記念祝賀会の場を共有できたことを、大変幸せに思います。

記念講演では、星先生や武富先生より、現代の医学生や若手外科医の志向や傾向についてのご示唆をいただきました。彼らの講演は、これからの若手外科医を育成していく上での貴重なヒントに満ちており、今後の教育や人材確保に活かしていきたいと感じました。

振り返ってみますと、私が入局した当時の「旧第一外科」は、小玉教授が率いる消化器外科と中根助教授の内分泌外科が共存しており、現在のような臓器別診療体制ではありませんでした。しかし、各分野におけるエキスパートが揃っており、診療・教育・研究のいずれにも余裕を持って取り組める、非常に恵まれた環境だったと記憶しています。「旧第二外科」においても、乳腺外科領域は胸部外科の先生がたが研究も含めて熱心に携わられていました。

現在、乳がんは8人に1人が罹患するとされ、その患者数は年々増加傾向にあります。治療は高度に専門化され、エビデンスに基づく診療を継続するためには、常に最新の知見を学び続ける必要があります。特に外科的治療は乳がん治療の中核をなすものであり、形成外科との連携による乳房再建を含めた治療は、患者さんのQOL（生活の質）向上においても重要です。現在では、内分泌療法・化学療法・分子標的療法・免疫療法などの全身治療と組み合わせ、整容性・根治性の両立が求められる時代となりました。

昨年以降、予後不良とされるトリプルネガティブ乳がんや、再発・進行性ER陽性乳がんに対する新たな治療薬が多数登場しています。さらに、新たな経口ホルモン剤も発売されると聞いています。これらは臨床効果が期待される一方で、副作用のマネジメントも重要で、安全な治療体制の構築が不可欠です。

また、昨年からはロボット支援手術(ダヴィンチ)による「皮下乳腺全摘+インプラント再建術」の臨床試験も開始されています。実施されている先生からは、「視野が格段に良くなり、従来の術式には戻りにくい」との声もあり、今後の乳腺外科領域における新たなスタンダードとなる可能性を感じています。このような最先端医療を、滋賀県内で安全かつ安心して提供できる体制を整えることこそ、滋賀医科大学の大きな使命だと考えています。同時に、滋賀県内の乳腺診療を担う医師の育成・確保も緊急の課題です。地域による診療格差をなくし、どの地域でも

質の高い乳がん治療が受けられるように、取り組まなくてはなりません。

最後に、中根准教授の退官に合わせて大学を離れられた恩師・沖野講師の最後のご挨拶の言葉が、今も心に残っています。

「我々は漂流者なのだ、いまだどこに辿り着くのかわからない。」

これは、まさに今の私が抱く、滋賀医科大学の乳腺外科への思いそのものです。しかし、たとえ漂流しているとしても、その行き先を信じて努力していきたいと思います。乳腺外科を志す後輩たちが、滋賀医科大学で最高の研修を受け、研究に励み、留学も経験し、最終的に滋賀県の医療を支える一員として活躍できるよう、これからも同門会の皆様のご支援をいただけますと幸いです。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
東近江総合医療センター 副院長・滋賀医科大学 総合外科学講座 教授

目片 英治



東近江の地に勤務して10年が経過しました。

自己紹介をさせていただく時、私は「当院に来て…年、外科医師として…専門は消化器で、大腸で、肛門で…」と話すわけですが、専門性は重要ですが、なんでも屋さん、幅広く対応できないと、地域医療は担えないと日々痛感しています。

外科医の働き方改革、皆さんの病院では進んでいますか？予定外の手術や診療をどのようにこなされていますか？経営分析では、救急の受け入れが重要、入院患者数を増やすこと、手術件数を増やすことといった当たり前のことをアドバイスされます。病院の現状をみると、当直対応できない診療科があることから、当直可能な医師は一人でも重要となります。外科医としてもう少し頑張ろうかと考えています。

医師の倫理感と経営のプレッシャーなどなど、緊急手術に対して断る事なく対応しようとしています。手術が重なることも度々です。患者にとって不利益となると判断した場合には、近隣の病院に遠慮なく依頼するようにしています。当院で抱え込まないことも私の大切な役割と考えています。近隣の病院の方々には本当に感謝しております。

「東近江総合医療センターの外科医の役割って何？」ってAIに聞いてみました。手術の実施という項目で、「外科医の中心的な業務は、手術の執刀です。センターでは、緊急手術から予定手術まで幅広い症例に対応しています。…」ホームページを引用したであろうと思われる文を書いてくれましたが、執刀は一部の業務、その他の診療行為が非常に多いのである、とは書いてくれませんが、教育研究では「東近江総合医療センターは、研修医や医学生の教育にも力を入れています。外科医は、手術技術や診療知識の指導を通じて、次世代医療人の育成に貢献しています。また、学会発表や論文執筆、臨床研究の推進など、医療技術の発展にも積極的に取り組んでいます。」と記載してくれて、その通りと私も納得いたします。さらに今後の展望に「患者中心の医療と医療安全、地域との連携を重視し、さらなる発展」と締めくくってくれました。医療安全室長、地域連携室長を兼務している私としては当たり前過ぎる回答と思う次第です。患者中心は当然ではあるが、時間外や夜間当直帯に、当然のように受診される方がおられる事から、カスタマーハラスメント対応が重要な課題であり、弁護士に依頼せざるを得ない案件も経験するところでは。

病院の機能を保つために必要なことは優秀な若い医師の存在です。当院の指導医達は、若い

医師に執刀していただく為の時間を惜しみません。是非とも当院に来ていただける事を希望いたします。

同門会の病院、どこも上記事態に大なり小なり直面されているのではないのでしょうか。年齢を重ねても第一線に身をおき臨床に携わり続けること、若い外科医を多く育てていくことが私たちの目標と考えています。よろしく願いいたします。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）准教授

花 岡 淳



外科学講座 50 周年に寄せて

昨年 10 月、滋賀医科大学は開学 50 周年を迎え、外科学講座としても記念すべき半世紀の節目を刻みました。

呼吸器外科の歩みを振り返りますと、1976 年に初代教授・岡田慶夫元学長のもと、外科学第二講座の一分野として胸部乳腺外科が開設されたことに始まります。その後、2002 年に大講座制へ移行し、外科学講座呼吸器外科として再編されました。この間、滋賀・京都を中心とした関連病院に多くの指導医・専門医を派遣し、地域医療に貢献するとともに、次世代の育成にも尽力してまいりました。

呼吸器外科学の黎明期は、がん研究の世界的進展と手術・周術期管理の向上が重なった 1970 年代にあります。我々は、1984 年に発足した呼吸器外科研究会が学会へと発展する流れとともに歩み、肺癌治療の歴史を現場で見続けてきました。当初は大開胸下での積極的切除が主流でしたが、その後は根治性と安全性に加え、低侵襲性を追求する方向へと進化しました。胸腔鏡下手術の導入に始まり、単孔式手術やロボット支援下手術へと展開し、肺機能温存を目的とする区域切除術や気管支・肺血管形成術も広く実施されるようになりました。加えて、2,000 例を超える肺癌手術の経験をはじめ、縦隔腫瘍や嚢胞性肺疾患を含む幅広い外科治療の知識と技術も継承してきました。

薬物療法の進歩も、外科治療の枠組みを大きく変えました。分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、進行肺癌における長期予後の改善が可能となったのみならず、術前・術後補助療法として外科治療と併用することで、手術成績のさらなる向上が期待される時代となりました。

研究面では、1990 年代より腫瘍免疫学の基礎研究に取り組み、活性化リンパ球移入療法や樹状細胞ワクチン療法を高度先進医療として臨床に導入しました。外科学講座でありながら独自の研究室を備え、近年では腫瘍微小環境研究へと展開し、基礎から臨床に至る一貫した体制を整えてきました。これらの活動は学位取得を通じて多くの若手医師を育て、次世代への継承にもつながっています。

現在、医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。外科医の減少や「医師の働き方改革」に伴う技術継承の困難など課題は多くありますが、限られた時間の中でも効率的かつ体

系的に知識と技術を継承する仕組みを築くことが急務です。自由と多様性が尊重される時代においても、礼節や常識といった普遍的価値を忘れず、互いを尊重する姿勢こそが医療の信頼を支えるものと確信しています。

本年8月、呼吸器外科講座が独立を果たしたことは、未来を見据えた大きな一歩です。先達が築き上げた精神と志は確かに我々の中に息づいておりますが、創設期を直接知る世代は少なくなりつつあります。だからこそ、現役世代には、新教授のもと過去にとらわれず新しい時代への進化と飛躍を志し、挑戦を続けていただきたいと願います。

半世紀の歩みに感謝し、次の50年への期待を胸に本稿を締めくくります。

滋賀医科大学外科学講座 開講50年によせて

1. 座談会 滋賀医科大学外科学講座の50年～次世代への継承と進化～
2. 会員から 外科学講座50年によせる思い
3. 記念式典・講演会・祝賀会から
4. 50周年記念 短期留学支援報告

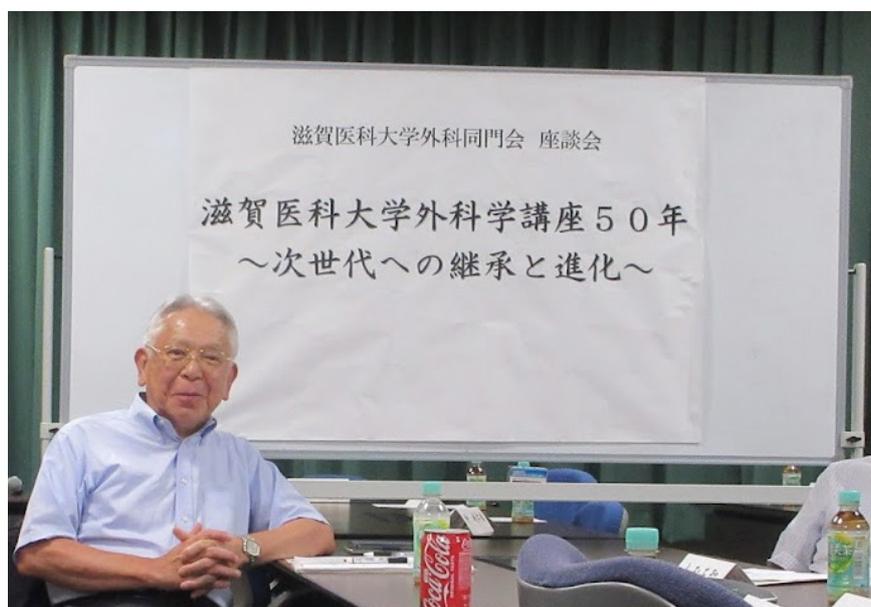


同門会座談会

滋賀医科大学外科学講座の50年 ～次世代への継承と進化～

座長：	滋賀医科大学外科同門会	副理事長	平野 正満
参加者：	滋賀医科大学外科同門会	理事	小玉 正智
	滋賀医科大学外科同門会	監事	加藤 弘文
	滋賀医科大学外科同門会	理事長	谷 徹
	滋賀医科大学外科同門会	理事	浅井 徹

平野：「滋賀医科大学外科学講座の50年～次世代への継承と進化～」と題しまして、外科学講座を牽引されてきた先生方にお集まりいただき、座談会を開催する運びとなりました。まずは、外科学講座の創成期について、小玉先生からお話を伺いたいと思います。



ゼロからの挑戦 ― 外科学講座の夜明け

小玉：平野先生には、今回はこのような開講 50 年周年に相応しい企画を考えてくださってありがとうございます。先日は滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年の記念式典がございましたので、いろいろと皆さんの事を、そしてこれまでのことを大変懐かしく思い返しておりました。是非、創世期の外科学講座、第一外科学講座の当時のお話を少しさせていただきたいと思います。



旧第一外科 1970 年代 初代教授 大同禮次郎先生（左）と

大同禮次郎の先生は 1975（昭和 50）年の外科学講座の創設前からご準備をされておられ、初代の外科第一講座の教授に就任されました。そして 1978（昭和 53）年から、滋賀医科大学医学部附属病院第一外科が診療開始いたしました。大変残念ながら、ご病気で、1980（昭和 55）年の 2 月に亡くなられて、その後、私が 2 代目教授として選考されまして、1980（昭和 55）年 5 月から就任させていただきました。

初代の大同先生は、京都府立医科大学の私の先輩です。第一外科学講座の助教授をされていまして、消化器全般、特に食道外科、癌を専門に取り組んでおられました。関連病院でも食道癌の手術を多く取り組んでおられたり、食道癌の実験をされたりと、非常に手術のお上手な先生でした。実績を重ねられ、関連病院から京都府立医大に助教授で戻られていらっしゃいました。手術のお上手な大同先生の噂をたくさん聞いておりましたが、残念ながら、私は大同先生の手術を直接拝見する機会はありませんでした。大同先生は大学で食道の研究を更に深められ実績を重ねられたのちに、滋賀医科大学の教授に就任されました。

私も滋賀医科大学に赴任する前は京都府立医科大学の第二外科の助教授をしておりました。昭和55年にこちらに教授として赴任しましたが、当時の滋賀医科大学は、京都府立医科大学の第一外科講座ご出身の先生が多かったように思います。ですから滋賀医大で初めて出会う方が多かったですね。当時は、谷徹先生が助教授でいらっしゃいました。ちょうど海外に出張中でしたが、私の就任後に色々と企画していただきました。創設期の教室作りもご院慮いただきました。懐かしく思い出されます。

大同教授は、滋賀医科大学附属病院の診療科開設時は消化器外科、小児外科、内分泌外科を標榜されておりましたので、そのまま私もその標榜科を引き継いで進めさせていただきました。

その頃は、滋賀医科大学第二外科は、初代岡田慶夫教授の時代でした。岡田先生や先輩方からご指導いただきながらやりました。当時は、消化器外科では両方の科でやっておりましたので、いずれは一緒にという話も出てきてはおりましたが、統合はされずに、第一外科、第二外科として、それぞれ教授の代を重ねながら歩みを進め、谷徹教授、浅井徹教授の代に大講座制が実現したというわけです。

滋賀医科大学外科学講座の創成期、私の教授就任当時は、学年進行中で、一期生が6学年で、6ヶ月後に国家試験と卒業を控えていました。また、大学附属病院は、開院3年目で、入院病棟が段階的に稼働している、多忙ながらも希望に満ちた時期でした。入院病棟では600床が段階的に稼働しており、多忙ながらも希望に満ちた時期でした。大学、病院を含めて、新しい大学、新しい病院、新しい教室という意味で、すべての場面で新しい規定をこれから作っていくという、まさに創成期という段階でした。いろいろな苦労がありましたが、講座のスタッフの連中ともいろいろと協力してもらって順調にスタートしたという感じでしたね。

平野：小玉先生が教授として赴任された昭和55（1980）年は、私が滋賀医科大学第二外科に入局した年でもありました。その時、教授であった岡田先生から「君はゼロ期生だよ」という言葉を言われたのを覚えています。一期生が入ってきたのは翌年の昭和56（1981）年でした。当時の外科は非常に人気があり、毎年10名を超える学生が入局している時代でもありました。外科医というものの魅力を、小玉先生や岡田先生はじめ、現場の先生方が大学教育の段階で、しっかりにご指導されたのだろうなと感じています。一方で、多くの医局員を迎えることにそれなりにご苦労もあったとお察しいたします。

自由と闘志 — 第二外科に息づく DNA

平野：旧第二外科の当時を思い出してみますと、初代の教授の岡田先生は自由で風通しの良い教室運営を心がけておられたと思います。第二外科は3つのグループから構成され、呼吸器外科、心臓血管外科、そして消化器外科からなっていました。扱う臓器や専門性が違うものですから、3つのグループが常に独立性をもって、自由に競い合いながら、結果として旧第二外科全体として成長していくことを岡田先生は理想とされていたように思います。



旧第2外科 1983年頃 初代教授 岡田慶夫先生（中央）と

私もそうでしたが、旧第二外科の新入局の医師は研修医と呼ばれ、最初の2年間は各グループのローテーションが必須でした。半年間ごと呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科を回り、プラス半年間は麻酔などを選択する仕組みです。この2年間で外科の基礎的な知識や技術を身に着けた後に、関連病院に赴任し、あるいは医局に残り自分が専門とするグループに属しながら活躍し成長してくれることを期待されていました。旧第二外



1987年に台北で開催された第10回 ACCPにて
旧第二外科 加藤弘文先生・森渥視先生・藤野昇三先生・岡田慶夫先生

科は、「個々のグループが特色と独自性を発揮しながら責任を持って運営して下さい」というのが特徴だったと感じています。もちろん、その中での対立もありましたし、人事などの問題もありましたが、岡田先生が厚い人望と強力な統率力をもって運営されていたからこそ、旧第二外科がまとまりを持ってしっかりと成長できたのだと思います。

岡田先生は若手医師の教育にも熱心で、学ぶことが多かったと思います。思い出すのは研修医のための外科医の心得です。先生は口頭だけでなく、研修医に対し直筆で書かれた資料を配布したり、医局や外来にも貼っておられました。心得には5か条があり、その最後には「手術は神聖な行事であり、準備（予習）と術後処理、検討を細心にすべし」と書かれていました。基本的なことから研修医は守りなさい、しっかりと2年間で学んで、それから一人前になって活躍してほしい、そういった教育者としての姿勢だったと私は感じています。

礎を築く — 第一外科がまず取り組んだもの

小玉:新しい大学、新しい教室ですから、医局も当然教室も、新しい教室づくりという意味では理想がそれぞれあったと思うんですね。

私の第一講座としても、もちろん教室づくりというのは一番大きな課題です。大学医学部の役割は、教育、研究、臨床の3つの大事な柱を持っています。私が就任したばかりの頃は、創成期ですので、スタッフに余裕がなく、教育と臨床に焦点を絞り、教育は「心豊かな医師」、臨床は「合併症の少ない手術」を目標に展開しました。当時の医局は、早朝会議のあと、診療、手術をして、夕方から術前・術後カンファレンスなどと夜遅くまで多忙でしたが、教室員の努力と協力で順調に教室作りが進みました。

若い医師は、多くの臨床経験が必要であります。関連病院が少ないこともあり、他の大学や医療センター、病院、海外へ積極的に研修派遣をしました。赴任してから退官まで、元気であれば20年あるだろうと考え、20年計画の中で5年ごとに見直しこう



旧第1外科 1983年頃2代目教授 小玉正智先生（中央）と

と考え、教室運営をしておりました。私が着任したのは昭和 55 年で、その翌年の昭和 56 年にはもう大学院がスタートしました。教室は助教授、講師、助手、それに医員がいて、私を含めて 10 名位がいろんな業務もやっていた。その体制でまずこの 5 年間どうしようかという計画で私は進めていきました。もちろん立派な医師を作るための教育、それには心豊かな医師の育成ということと、生涯教育も必要です。また臨床では外科医の腕と知識と、心技体を揃えるというのが理想ですが、それを実践するための教室を皆で作っていくのがやはり大事だと思いました。そういった意味で最初の 5 年間は臨床教育を中心にやりたいということが私のまずテーマでございました。

関連病院ゼロからの船出 — 現在につながる関連病院との連携

小玉：大学の創成期も一番困ったのは、新設医大には関連病院が全くないということでした。

関連病院と連携を作り上げるのは、それにはもう長年もの時間がかかりました。第一外科、第二外科がどういった関連病院をもっているか、現在は滋賀県のかなりいい病院が滋賀医大の関連病院になっているのですが、それは各時代の教授が頑張っていただけでこれだけになってきているのだと思います。そういった、やはり生涯をサポートしてあげられる体制といいますか、生涯教育ができる体制を滋賀医大として作っていく必要がありましたね。

私の就任 5 年目に、縁があり米国での外科レジデントを修了し、さらにハーバード大学院を修了した長谷川俊彦先生（日本医科大学名誉教授）を迎え、また 8 年目に米国の外科レジデントを修了した岸田明博先生（元聖路加国際大学教育センター長）が入局してくれて、卒前・卒後教育に米国の教育を参考にしたシステムを導入しました。

私の念願の教室のグローバル化には、ミシガン大学外科の Turcotte 主任教授、また後任の Greenfield 主任教授、またケンタッキー州レイビル大学の Polk 主任教授のご支援をいただき、教室と密接な交流をさせていただきました。

のちに、Greenfield 教授は副学長になられ、当時佐野晴洋学長時代でしたが、滋賀医科大学とミシガン大学（医学部）との姉妹校の誕生に貢献していただきました。これらの交流の成果で、アイオワ大学の星寿和教授、と南カリフォルニア大学外科で伊藤史人準教授が誕生して、米国で活躍しております。

このように教室から多くの外科医が育成されて、現在大学、病院、および診療所と広く活躍されていることは、私の人生の宝物と思っています。私の教授時代は、優秀な教室員で支えられて、運営でき発展したことを感謝しています

外科学講座の成長期、発展期

平野：小玉先生の後を引き継がれたのが、三代目の谷徹先生です。谷先生と浅井先生の時代では、大講座制への移行という大きな改革がなされました。外科学講座の成長期、発展期という時代を支えられた先生方です。苦労話も含めて、お話を伺いましょう。

谷：50年間4代に渡った外科学講座の中で、私は第一外科学講座の3代目の教授をさせていただきました。外科学講座の成長期、発展期にあたる時期でした。

開設当時は、医局員人数も少なく、地元のニーズに応じて全症例を診るところまではとても手が回らなかった。それを解決するのが私の責任だと考え、大部分の疾患に対して外科的対応ができる外科を目指しました。そして地域医療の牽引役になるというのも、また一つの大きな目標でした。結果として移植を除いた外科治療に専門グループを立ち上げ、対処できる体制が出来あがりました。

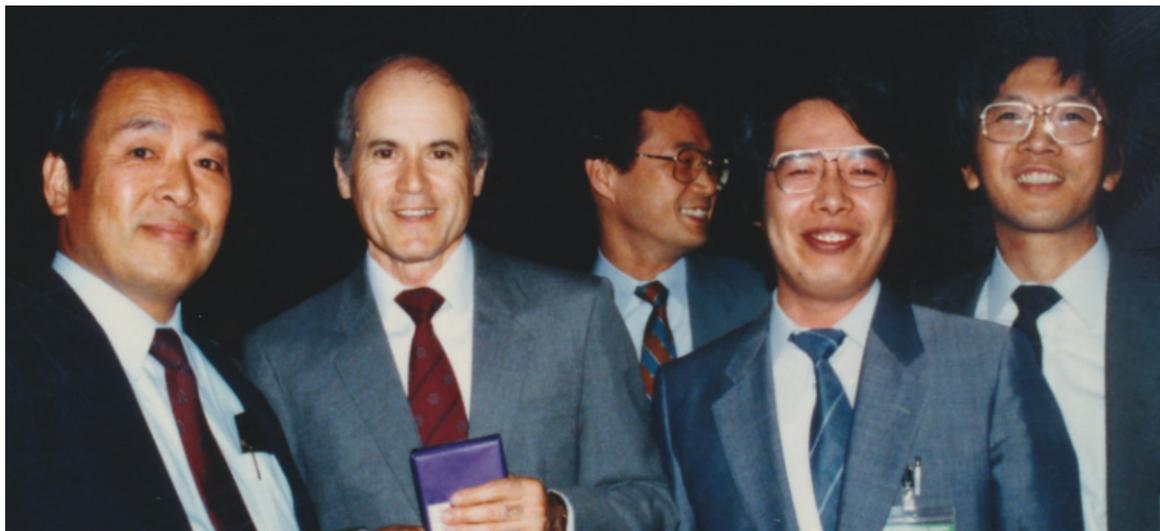
教育・研究面では、世界に問えるような新しい診断や治療と開発ができればいいなと考えておりました。臨床症例を重ねていくうちに、結果として新しい発見や治療の開発に結びつくのですが、歴史のある古い大学は我々より先に何十年もの臨床経験や症例を持っているわけですから、彼らの症例数に追いつくことはできないので、臨床以外や、臨床例を問わず他大に伍すものが何か作れないかというのが、私の思いでした。

医師としての教育についてはその頃に在籍してくれた若い先生方は、あんまり労苦を厭わないタフな働き方をする先生方が多い、そんな時代でしたので、特別な苦労はしなかったですね。ですが、何もかも自分たちでやらなきゃならない、そんな時代だったと思います。唯々目の前の仕事をこなし、前に述べた三つの基本となるテーマを押さえながら成長してゆく日々を追われました。実行体制を堅固にするべきでしたが、完全には作れなかったように思います。

世界へ飛び出せ — 国際舞台への挑戦状

谷：大学の一講座としては、これは皆さんもそうだと思いますが、できるなら国際的に、名の知られた大学にしたいとの思いがありました。小玉先生にリードしていただいて国際アフレスリス学会（ISFA）設立を手伝ったのもそんな思いからです。アフレスリスという分野に参画したばかりの時は、O大の教授がたくさんの医局員を連れて国際学会会場を闊歩していらっしゃるのを柱の陰から見しておりました。そんな状況下に海外との活動が始まりました。ケンタッキー州ルイビル大学 Polk 教授との連携は小玉先生後も努力なさってきたと思います。

海外との交流経験は私一人ではできなかった。小玉先生に海外へ出ることの大切さを教えていただき、海外への扉を開いていただいたと思っています。それまでは海外へ出る事、海外の研究者と交流することなんて考えてもみなかった。それを小玉先生が教え、



昭和 60 年 World Apheresis Association
左から小玉正智先生、一人おいて、谷 徹先生、花澤一芳先生、吉岡豊一先生

背中を押してくださった。ベトナムのホーチミン市の大学やチョーライ病院外科とは留学生を計 10 人受け入れ 6 人が学位をとれました。ハーバード大学との研究連携は MR 画像下のリアルタイム 3 次元画像下の手術法についてでした。テーマは中断しましたが、工学部の山田篤史先生を本学に招き、医科単科大学に医工連携の体制を構築できました。

平野：隣の医局にいますと、成長著しい旧第一外科には 2 つの特徴があると感じていました。第一に、教授の優れた指導力で非常にまとまりのいい医局運営をされていること。そして 2 つ目は、谷先生をはじめ皆さんで新しい領域、しかも非常に特徴ある治療法をしつかりと研究されて産学共同で立ち上げ、それを新たな治療法として確立して社会に発信する。そういう取り組みは私たちにはとてもできないな、というふうに思っておりました。



2002 年大講座制スタート
左より 花澤一芳先生、谷 徹先生、森田陸司先生（当時 病院長）、浅井徹先生、藤野昇三先生

飛躍と発展のターニングポイント — 大講座制への道

谷：外科学講座のひとつの大きな流れとして先程紹介がありましたように、第一外科学講座と第二外科学講座の統合を経験しました。名前を一緒にするのは簡単だったのですが、それぞれの講座の先生方の活動域や体制が異なり、専門とされる臓器が入り組んでいました。先生方のご専門と連携病院との関係を加味して、皆さんに納得していただく形で統合しなくてはならない、それが最も難しい点でした。自分たちの力ではとても無理でしたがそんな中、当時の滋賀医科大学附属病院長であった森田陸司先生が両講座の中に入って大きな役割を果たしてくださり、我々両講座が一緒になってやっていこうということになって外科が統合することができ、2002（平成14）年、大講座制のスタートとなりました。

外科同門会の設立 — 未来志向で二つの流れを統合

谷：同じような統合が20年前に外科同門会でも起こりました。その時は、小玉先生が両講座に将来の活動を考え資金を合法的に扱える公的体制にすべきと説かれ、同門会の統合と法人格取得を進めました。

こうして第一外科と第二外科という二つの講座は、「専門性の統合」と「同門会の統合」の2つを成し遂げて、体制上安定し、活動も広がっているように思います。

浅井：私は滋賀医科大学に2002（平成14）年に参りまして、その時第一外科は谷徹教授が師事しておられましたね。ちょうど日本の研修医制度の大改革の中でしたので、その時すぐに立ち向かわなければならなかったのが、医師臨床研修制度という新しい仕組みでした。これは大変な改革で、大学も医局も大騒ぎでした、これで果たして人が残るのであるかと。とんでもない改革だとか、改悪だとかで、日本中が騒然としているところだった。世間の医師臨床研修制度改悪に対する喧騒の中で、我々外科は力を合わせて向かっていこうとしたのです。私は滋賀医科大学外科学講座の強みを実感しました。小玉名誉教授と谷徹教授が中心となって、第二外科をいい形で入れていただき、大講座制に移行し、未来志向で外科学講座の基盤を作り、そして講座を盛り立てる同門会を統合する。この仕組みを、早い時期からしっかりとした構想で始めようとしてくださった。私はそういう経験がありませんでしたから、学ばせていただいた。もちろん、第二外科は、先ほど平野先生がおっしゃっていたように、第二外科内は独立性を保っていましたので中には入らなかった方もいらっしゃったのですが、平野先生や他の先生方がいい形で第二外科のリーダーとしてその流れに入っていていただき、結果としてこの同門会組織ができた。簡単なようですがとんでもなく難しいことなのです。私の出身の金沢大学では無理ですし、他の大学でも無理でしょう。2019（平成31）年1月滋賀医大の教室を去り、その前とその後いくつかの施設に所属した経験から客観的に振り返ってみますと、この滋賀医科

大学外科学講座の強みは、まさにここにあると言える。他の大学では人と人の結びつきはもっと薄く「効率的」なんです。滋賀医科大学の外科学講座は、強固な人と人の結びつき、教室で人を作ろう、育てようとする雰囲気、他の大きな大学に負けないぞという気概、若手が研究に専念できるような場を作ってあげようという親心というか、「兄心」のような温かい集まり、そんな醸成された結束力があるんですね。我々の強みです。素晴らしいことです。今でも、新たに入局される若い先生にとってはいい環境だと自信をもって言えます。

谷：現役の教授当時のことを今考えてみると、専門とする臓器を中心にしか話ができない事に段々気がついてきました。当初は統合すれば何でもできるだろう、すべての疾患で外科的な処置ができるだろうと思っていました。しかし結果として自分の専門性をしっかりと発展させるだけでなく、教室の歴代の先生方が専門とし、成果を上げてきたそれぞれの流れをさらに個々に発展させていかねばならないと思っています。

同門会と医局の今後ですが、これまでは、同門会関係の仕事を大学の医局に全てやっていただいていた。しかし、年数を重ね卒業生が増えるにつれ、大学外に出られて地域社会でご活躍される先生方が増えました。それに伴い同門会の活動も、同門会の先生方の活躍も多くの分野で見られるようになってきて、色んな先生方の意見が出るようになってきています。今後は同門会と組織の実行力と、大学の講座のアクティビティを合わせ、互いに協力して新しい仕事をこなしていく時代が来るのではないかと期待しております。

苦難を力に — 第二外科 新時代の軌跡

平野：大講座制に向かってく中でいろんな矛盾や問題点を抱えながら、旧第二外科が今後どうなっていくのか意識され始めた時に、心臓血管外科の教授として赴任されたのが浅井徹先生でした。浅井先生の登場で医局が大きく変わると誰もが期待を持って感じていたと思います。時を同じくして私は旧第二外科を去ることになりましたが、私の送別会に赴任されて間もない浅井先生が来ていただき叱咤激励を受けたことを鮮明に覚えております。

浅井先生にとっては苦難の歴史から始まる教室運営だったと私は感じていましたが、その後心臓血管外科を大きく発展させられた軌跡を是非ご紹介ください。

浅井：私は滋賀医科大学に2002（平成14）年に参りまして、その時第二外科は、私の先代の教授 森渥視先生が長くご病気で、他にもいろんな事情がありまして教室はかなり危機的な状況が続いていたというように認識しておりました。その中で、非常にありがたかったのは、何のバックグラウンドもなく着任した私に、大変いろんな方に協力的に御力を

いただいた事だと思えます。

私が来た時の目標は一つだけ、「滋賀でも心臓血管もしっかりやっているぞ」といえるような教室、恥ずかしくない教室ができたらいいなと考えてやっておりました。年間3、40症例できればいいですよと、おっしゃっていた先生方もおられましたからね。我々心臓血管外科は、地域に難しい心臓血管疾患は受け皿がなかったですから。圧倒的な地域のニーズに応えようと奮闘しながら、支えられながら新しい治療法を研究し、そして若い研究者たちが発信してくれました。関連病院を含めれば今はもう300例から600例になる。またそういった経験から生まれる臨床研究・臨床教育も頑張っているという意味では今、心臓血管外科の鈴木友彰教授をはじめとする心臓血管グループは非常に勢いがあって素晴らしいと思います。最近教室に入局される先生は僕目から見ると、非常にまじめで優秀です。今後も滋賀医科大学から世界にむけて研究に邁進してほしい。私は僧帽弁の治療法でバタフライ法を開発したのですが、それが今世界を席巻しているのですが、そういうところに滋賀医科大学第二外科のスピリットを感じているところもある。

逆に私があんまり力を注げなかった、直接の指導ができなかった呼吸器外科は、独自に独立心を持って立派な研究進めています。同門会各賞の論文でも毎回素晴らしい論文が出ている。脈々とそれぞれのラインで受け継いでやっている。頼もしい、次の世代が楽しみです。

これらがすべて外科学講座の大事ないくつかの柱となって次世代に受け継がれていくのを、私は確信しているのです。

平野：浅井先生にはお会いしてお話を伺うたびに、心臓血管外科に対する熱い情熱と教室運営への使命感に圧倒されておりました。先生は赴任された5年後、さらに10年後には何か新しいものを生みだすぞという、そういった将来構想を描いていらしたのだなと思えますがいかがですか。

浅井：そんな将来構想は何もなかったですよ。ただ幸いなことに、皆さんに求めていただいた、私が働いたり研究したり頑張るべきところをいい形で周りの他の先生方やほかの科の先生方が必要としていただいたからだと思えます。必要としていただいたから、そしたら私は一心不乱に頑張るしかない、という思いでした。ですが、



第二外科を復活させるために身を粉にしてきてくださった方が実は何人もいる、今いる人もいない方も含めて。本当はお名前を全部出したいのですが、第二外科を復活させられたのは、そういう人たちの功績だと思うのです。

外科医の魅力とその使命感

平野：外科医の仕事の魅力や外科学の魅力はなんでしょう？ 若い先生方には外科でしか経験できない魅力をもっと知っていただきながら外科を発展させていくということが必要になっていくのではないかなと思っています。

小玉：悩んでいる患者さんを我々外科の手術で治療してあげられるということだと思いますね。そして全身管理がしてあげられる。医者であっても全身管理ができないと外科医はできないわけです。そういった2つのプロフェッションに特徴があると思います。だから、学生とか若い先生を育てていく際もそれを教えていく、という事だと思うのです。

平野：50周年記念講演会では、アイオワ大学の星寿和先生が「内的動機」について語っておられました。外科医というのは命に直結する仕事です。しかも、自分の力で、自分の持つ知識や技術、経験をフルに発揮して病気を治していく。この仕事の魅力というのは他の診療科ではなかなか得られないものだと私は思っています。学生を教育し、外科医を育成する過程では、しっかりと外科の魅力を発信し浸透させていくことが大切ではないでしょうか。

谷：自分のスキル、手に持つ技術で患者さんを助けるのが外科医の魅力である、それは大変大きな魅力です。しかし同時に、この年になってみると分かるのですが、非常に怖いことでもある。「患者さんの体に傷をつけて、治す」というのは大変な重圧で、すごい責任感がかかってくるのです。それを乗り越えていく勇気があってこそ、外科医の良さがわかる。若い先生方に外科医になってほしいけどそこまで要求していいのか、という思いが頭をよぎることがあります。思いを委ねられる良い外科医とは、ふさわしい人格素質を持つ人を探し出し育成することになります。先程私が申した「労苦を厭わない人材」、そして星先生が同門会での講演でおっしゃった「内的動機」、これは外科医の資質について実は同じことを意味しているのだらうと思います。

私の年になると患者の立場になって感じる事があります。患者さんは、痔核が痛いのを痛くなくしてあげるだけで涙を流して喜んでくれます。それはそれで大変な事なのですが、お腹を切って臓器を取って繋いで治すという手術は、もっと大変な事なのです。けどその差が患者さんにはほとんど理解していただけないように思います。学生だけでなく患者さんにも分かってもらえるようになればいいかなと思っています。

私は信条として「私の患者さん」を認めません。専門性の無い疾患が見つければ即座

に専門の先生に紹介します。しかし自分が新人の医者として虎ノ門病院にいた頃受け持ち医となった患者さんの中には、私が滋賀医科大学に赴任してきた後十年以上もお手紙をくれる方が20人近くいました。外科医としての喜びでした。

我々腹部外科医の魅力というのは、すぐに結果が出せないもどかしさがありますが、患者さんの全人格と生涯をかけた経験を共有できるというところにあると思います。腹部外科は心臓血管外科のように手術が終わった時自信をもって「手術は成功しました」と言えないのです、予後を確認するだけで、5年かかります。このような特徴を含めて理解し、評価してくれる学生を育てたいと思います。

加藤：開業して言えることは、外科をやっていたことによって、もう一歩深く病気の本体に迫れる、病気の本体に迫ることのできる手段も持っていたし、そういうことをしようとする考え方をもつことができた。これが一番大事で、一歩踏み込んでその患者の病態を掴んであげる。又、分からないところ



はどうアプローチしたらいいか、といった考え方を基本的にできるのは、やっぱり外科医だろうと私は思うのです。もちろん、内科でも一歩踏み込んだ理論的な考え方をされる先生もいるのですが、外科医はよりたやすくそういう考え方に到達できるのではないか、と思う。それが外科医の一番大きな魅力であり、今後の医療をやっていく上での絶対に必要な意志だと思います。

平野：皆さんのお話を聞いていますと、外科医の魅力は一言で簡単に語れるのでもないし、一人前になるまでどれほどの苦勞と努力を重ねてきたかも重要なのでしょう。そこを一足飛びに越えていきなり、外科医は素晴らしいよ、皆さん外科医になりましょうとは言えないとも思います。

谷：細かいことなのですが、鏡視下手術やロボット手術がないと次世代にいけないように言われるのですよね。しかしこれらの手術は経営的に成り立っていない、このままでは続くはずがないのです。それを成り立つ治療に変えていただくか、違う対策を取っていないと教育だけ受けて実際の治療ができなくなってしまう医者が増えてしまう可能性も危惧しなきゃならないと思われます。この部分は国だけでなく我々も考えなきゃならないかと思ひます。

加藤：私は内視鏡手術というものができて、私の年代のする仕事ではないと思いやめました。内視鏡手術って便利になって良くなっているのだけど、内視鏡になると、できる手術者も少なくなるし、視野の展開と色々な問題もありますから。私たちの時代は拡大手術の一線ですと進んでいました。近年は、治療したことによる効果というものの視点から、治る治療を低侵襲でやろうというメディカルエコノミーという考えが出てきました。そういう視線はいいでしょうが、両面からアプローチしていくことが必要です。それでその中で、できてない事、わからない事は問題点の糸口になってくるわけで、それを深めていけば、我々の研究のテーマにもなる。基礎系の先生にはこうした視点は出てこないと思います。外科的な視点をもって基礎系の先生方を巻き込んでやっていくのが外科医だと私は思います。機能分化的にやる、そして問題点を出してそれを解決するために基礎研究の人たちをブレンに入れてやる、そういうことを定期的に我々がやっていかねばならないと思います。

平野：50周年記念講演会で日本外科学会の理事長、武富紹信先生もおっしゃっておられました。外科は医学の本道であり、「切った、縫った」から医療は始まっているとお話をされました。外科医の目指すものはロボット手術や内視鏡手術がすべてではない、基本の部分は日々取り組んでいる小さな外科治療の積み重ね、その上に最先端医療も成り立っている、それをしっかりと若い先生方に教え込んでいくということがとても重要になってくるのだらうと思います。

教科書にない現場力 — 外科の底力

平野：最近の若い先生は、文字を読み解いて理解するより動画などの視覚から勉強することに慣れていきます。素晴らしい手術を動画に取り、視覚を通して身近なものとして手軽に紹介することは非常に効果的かもしれません。浅井先生は自分が行う心臓外科手術をビデオに録り、自ら編集し、さらに解説を加えて若い先生方、さらには地域の先生方にも発信されていました。時代を先取りする素晴らしい試みだと思いました。あるクリニックの先生はこれが心臓血管外科の実際の手術なのかと驚きをもって感動されていました。一方、浅井先生の手術手技に憧れと外科医としての目標をおく心臓血管外科の医師も少なくない聞いています。

浅井：そんな格好いいものじゃないですけどね。

僕は若い頃の修行でラッキーなことに ECFMG を取ってニューヨーク大学に行きました。隣にはシティホスピタルがあった。一晩のうちに10件の患者さんが近く運ばれてくる。現場は格好いいどころじゃなく医者みんなドロドロなんです。ですが先輩たちが格好いいんですね。覚悟をもってやる姿、何とか患者さんを助けてやるっていう覚悟が

格好いいい。

現代の医療は、学会などでも標準化された医療をみせる、患者さんがこっちから来て綺麗な形でよくなっていく、綺麗なところだけを見せるような気がする。外科の格好良さというのは、冠動脈がどうか、そういうのも外科の花形の部分ではあるけど、本当の格好良さは違うと思う。若い頃、能登半島にアルバイトに行くと出くわしたような、大学の定型の教科書に載ってないような疾患でも、でも何とかして患者さんを良くしてあげたい、全部ひっくるめて助けるまでの道筋を作るところまでが外科なんじゃないかなと思うのです。

あるいは、谷先生が取り組んできたイノベーション、これも外科だからこそ作り出せたと思っている。循環器内科も色んなことしていますが、ほとんど外科でやれたことを更にもうちょっとカテーテルでリファインするとかであって、全く新しい発想とまではいかない。内科でもいろんなイノベーションがありましたけどもでもそれを超えるイノベーションを作り出せるのは多くの場合は内科ではなく、外科なのです。何か外科医的な発想が必要なのではないかと思います。

外科医の魅力というのは、綺麗な手術も一つの華ですけど、「もうちょっと、何とかいたしましょう」というスピリット、それを体験できるのは、やっぱり外科医じゃないとできない。臓器を超えた統括的なところ、イノベーティングな分野、いろんな側面が外科医らしいと言えます。

次世代への継承と進化

平野：今回のテーマは次世代への継承と進化となっています。医局の在り方や医療の教育制度を含めて皆さんが日頃からお考えになっているところをご紹介下さい。

小玉：大講座制になっておりますがこれは本当に良かったと思います。外科分野として将来的には大講座制の中を修練しながら、つまり消化器外科も心臓血管外科も胸部外科も若い医師の時代に交代しながら経験し、ある学年の間に技術をマスターしておく、その後自分の専門を決めるようなコースが作っていけるという大学が理想的です。それが、我々滋賀医大が世界に羽ばたいていける道になると思います。外科医になる魅力を大学が作っていくことができるし、地域にも同時に貢献していけます。大学は最高レベルの治療ができるという目標・理想・現実をやっぱり考えていくべきだと思います。浅井先生の功績で心臓血管外科は世界に負けないレベルになっています。新しく呼吸器外科学講座もできて教授が就任されたので、こういったバランスの取れた外科医教育ができるというのが今後の理想だと期待をこめて願っております。

平野：医学生を教育し、医師を育成する大学は、まさに人を育てる場でもあります。若い先生方に優秀な外科医として羽ばたいてもらうために大学の先生方は日頃から苦勞や試行錯誤を重ねながら一人ひとりにあった教育体制、指導体制をとってこられたのだと改めて思います。

我々の念願であった呼吸器外科学講座

小玉：現役の谷眞至教授、鈴木友彰教授、そして、外科同門一同が長年熱望していました呼吸器外科講座が誕生し、着任された庄司文裕教授には、将来の外科教室の作り方を含めて、滋賀医科大学の外科学講座が発展していくようお願いしたいと思います。大講座制になって、浅井先生、谷先生と相談して外科同門会ができて、一般社団法人にしたいということで進めてきたわけです。人格を持った社団法人の団体が外から外科の教室をサポートして、同時に会員の生涯教育をやっていく、現役の先生たちがもっと世界に飛躍できるような体制にしてやりたいということで実現したわけです。是非これを大事にしていきたいと思います。

21世紀に入り、私の後任の3代目の谷徹教授は大腸がん特に直腸がんの治療向上、内視鏡下手術の発展および研究に、第4代目 谷眞至現教授は肝胆膵の外科治療、特に膵癌治療の向上、ロボット手術の普及等のそれぞれの特徴を生かされて教室を一段と発展されていることに敬服しています。将来に関しては現役の先生たち、若い先生が作っていくのですが、これまでの教室の50年の築かれた伝統、やっとなんかと言えものができてきた「今」です。今からまだ変わっていくと思います。外科学を引っ張っていく基礎を築いてきたと思うので、それを引き継いで地域と社会に貢献されることを祈念しております。

谷：外科医は、メスを患者の体に向けて使い、侵襲を与えます、それに対して患者さんが体全体に起こす生体反応を、理解し、精神的反応も含め、全人格を診る能力が必要です。

その事を自覚してやっていただきたい。外科のリーダーになられた先生方は、自分達の方だけじゃなくて同門会という組織力を使って、システム構築し、さらに展開し、新しい事業をも進めていただきたいと思います。

直近の課題として、外科医の、特に消化器外科医のなり手が少ない、この人的状況を乗り越えるにはどうすれば良いかというのも、我々が考えていかなければならないと思うのです。

浅井：外科医というのは色々働くわけですよ、大体同じ領域の内科医よりもっと色々働くわけです。ですがね、おそらく外科医はなくならないし外科医になりたいという気持ちの若い医師や研修医学生はいなくならないと思うのです。いつも若手や学生を教えていると外科は

圧倒的な人気ですよ。本当に外科に残ってほしい、あるいは外科に残る人というのは根っこの部分でやっぱり本当の医療、医学、高い志、大きなビジョンをもって、開業をなさる人も含めて、そういう外科医に育っていくようにしたいですね。

ロボットとか内視鏡、結構なことです。また新しい研究もいろんな道もありますけど、こんなアトラクティブなオプションも選べる、高い志をもつにはロールモデルが必要です。やっぱり素晴らしいものを見て、いいビジョンを持ったそういう若手に育つようなチャンスは与えることができるそういった空気が、外科学講座にあることが、他の大学の外科に勝てる滋賀医科大学であると思っています。

平野：今の若い人たちは多様な価値観を持ち、想像を超える発想で主張し行動します。しかし、医療の原点は変わることはありません。私たちは外科医という仕事に生きがいを見出しながら、病気を治し、人を救い、医療に貢献するという大きなミッションがあることを忘れてはならないと思います。それは患者さんから得られるものであって、患者さんの笑顔や感謝の言葉が私たちを成長させているのです。今日の皆さんのお話を聞きながら、外科学の偉大さやすばらしさを改めて実感することができました。そして、開講 50 周年を迎え、滋賀医科大学外科学講座を支え、築き上げてきた諸先輩、現在も活躍されている医局員や関連病院の先生方、さらには関係する皆様に心から御礼申し上げるとともに、この揺るがない伝統を次世代にしっかりと繋いでいかなければならないと思います。

結びにかえて

平野：一般社団法人である外科同門会は、自律的な法人運営が可能なことから外科学講座の発展や若き外科医の育成に環境整備や積極的な財政支援を行ってきました。徐々にではありますが、その取り組みは確実に結実しつつあります。外科学講座の発展は関連病院に派遣できる人材と病院数の増加をもたらし、滋賀県のみならず全国の地域医療に大きな貢献を遂げています。海外で活躍する仲間も増えています。今年度には新設された呼吸器外科に庄司文裕先生が着任され、外科学講座に新しい 1 ページが刻まれました。同門会の設立趣旨の中には人材を確保するとともに、人材育成という大きな目標があります。優秀な外科医を育成するために、外科学講座と外科同門会が両輪となり、お互いに発展と飛躍を遂げることが大きな目標の達成に繋がると確信しています。同門会の皆様におかれましては従来と変わらぬ温かいご協力と強力なご支援を心からお願い申し上げます。

開講 50 周年ということですがこれは単なる通過点です。同門会の皆様が医療を通して患者のため、社会のために日々ご尽力され、滋賀医科大学外科学講座、そして外科学が大きく発展することを祈念し、最後のまとめとさせていただきます。

仲 成幸：座談会企画していただきありがとうございます。旧第一外科、旧第二外科の歴史と想いがしっかり改めて我々に伝わる素晴らしい座談会となりました。お忙しい中ご参加いただいた先生方には深く感謝申し上げます。

50 年によせて

長岡京病院 理事長

水黒 知行（昭和 49 年卒）

滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年おめでとうございます。50 年と一言でいっても歴代の教授を務められた先生方をはじめ多くの先生方の苦勞と努力と忍耐と、支えて頂いた歴代の事務員の方、研究助手の方々のおかげで成し遂げられた事と思います。滋賀医大外科学講座開講 50 年の一時期を旧第一外科の小玉教授をはじめ多くの先生方と過ごさせて頂きました。

私ごとですが、1974 年京都府立医科大学を卒業後多くの先生方の様に大学研修医になる事をせず就職先を探しておりました。私のいところが小玉先生（後の滋賀医大第一外科教授）と同級生という事で紹介して頂き、明石市民病院外科に就職しました。5 年間明石市民病院にお世話になった後、小玉先生の研究グループの研究生として府立医大に在籍しておりました。1975 年滋賀医科大学創立時外科学第一講座教授に就任されていた大同禮次郎教授が 1980 年 2 月、第一期生入局を待たず急逝され、後任として小玉先生が同年に滋賀医大第一外科教授として転出されました。1981 年橋本教授（当時府立医大第 2 外科教授）から滋賀医大に行く気持ちはないか（当時としては行けとゆう事？）と聞かれ研究グループのヘッドで研究テーマも小玉先生から与えられていたので 1981 年 7 月に、1 歳前の娘、妻とともに赴任し、すぐ近くの官舎に引っ越しました。その時の旧第一外科は小玉教授、恵谷助教授、塩貝、岡両講師、角田、宮下、橋本助手がおられて、上原先生、水黒が同時に助手として赴任し、岡、堀沢両先生と大学院生として谷徹先生とが講座のメンバーでした。1981 年 4 月に待望の第一期生、青木、来見、小杉、福谷、松田、吉岡、西原、土増の各先生たちを迎え、総勢 20 名の出来たてほやほやの教室でした。

臨床は上部消化管、肝・胆・膵、下部消化管、乳腺・内分泌・甲状腺、小児外科の大きく 5 つのグループに分かれていましたが、緩やかなグループ分けでした。患者さんの受け持ちは助手以下のメンバーと研修医が二人で担当し、手術もこのメンバーに加えて教授または各グループヘッドが加わり行っていました。カンファレンスも人数が少なくグループ毎ではなく全体として医局会で行っていました。カンファレンスでは小玉教授はじめ他のメンバーからも厳しい質問があり、発表をしている研修医がしばしば立ち往生して、チームを組んでいる指導医が替わって答えることも多々ありました。質問の中には、研修医の先生方に対する教育的質問も多くあり、その場合は指導医が答えて終わりなのですが、指導医も答えに窮する場合もしばしばありました。従って医局会前には研修医の先生と指導医の二人でレントゲン情報、生理検査情報、内視鏡検査情報等をもう一度十分にチェックし、カンファレンスでの質問に備える為に論文等を読むなど、多くの準備時間を要しました。もちろん術後の患者さん、癌末期患者さんに対するケアも二人手分けして行っていました。こういう生活をしていると研修医の先生と指導医

とは遅くなって食事をする事が頻繁になりました。多くの場合研修医の先生方は独身でしたので、二人又は他のグループと一緒に夕食をしておりました。私の場合は官舎に住んでいて家が近いので、自宅で何人かの研修医の先生と一緒に食事をして、又病院に帰るという生活をしていました。今では考えられない事ですが、大変濃密な人間関係を築けたとは思いますが。研修医の先生方にとってどうだったのか？ちなみに私の妻、娘にとってはどうだったのか？（怖くていまだ聞いていません）。

研究面では元々小玉先生に提示して頂いた研究テーマでして、研究用の培養癌細胞も府立医大第二外科の承諾を得て持ってきておりました。細胞培養を行うための設備、実験に使用するマウスの動物舎等など府立医大と比較すると、比較してはいけないほど整っており、しかもあまり使用されておらないのかマウスのゲージの使用枠もほぼ制限なく、クリーン・ベンチも好きな時間に自由に使用でき大変助かりました。臨床の時間が空いた時に癌細胞の培養液の交換や、マウスへの癌細胞の接種などが自由に出来ました。おかげで滋賀医大赴任後府立医大から引き継いでいた研究がまとまり、府立医大にて学位授与をうけました。その後、東京世田谷にあります国立小児病院（現小児センター）に国内留学をさせて頂き、小児外科の勉強もさせて頂きました。恵谷助教授が退官され、後任に中根助教授、沖野、迫助手が赴任され新たに腎移植グループが新設されました。卒業生もたくさん入力され、1987年までに約40名の先生方が加わり、大学院生も増え、関連病院も出来、旧第一外科は研究、臨床、教育と力強く発展しつつありました。

私は1987年大学を退任し、京都府長岡京にあります、(医)長岡京病院に赴任し以後約40年間、院長、理事長として勤務しておりますが、この間、旧第一外科の小玉正智、谷徹、谷眞至教授始め、多くの医局員の先生に助けていただいております。原稿を書きながら三十代前半から後半の滋賀医大在職中の事を懐かしく改めて思い出しながら、滋賀医大外科学講座の歴史の一コマに加えて頂いたことを大変うれしく、誇りに思っております。滋賀医科大学外科学講座は今後も多くの方々の努力によりさらに50年、100年と続き伝統ある歴史を刻み、医学の発展に寄与し、優秀な医師の養成、地域医療での中心的役割を果たして行かれる事と思っております。改めて滋賀医科大学外科学講座開講50周年おめでとうございます。今後ますますの発展お祈りして、稿を終えたいと思っております。有り難うございます。

滋賀医科大学第 2 外科と岡田先生の思い出

淡海ふれあい病院 介護医療院 呼吸器内科 部長

山中 晃（昭和 51 年卒）

昭和 57 年 6 月から昭和 61 年 6 月まで滋賀医科大学第 2 外科でお世話になりました。開学が昭和 49 年でしたが、開院は昭和 53 年秋だったように思います。滋賀医科大学附属病院開院の最初の 10 年の黎明期に在籍させていただきました。当時、スタッフは岡田慶夫教授、森渥視助教授、肥後昌五郎講師後に藤村昌樹講師、加藤弘文講師、他、助手の先生方がおられました。

第 2 外科では胸部外科（呼吸器外科、心臓血管外科）と一般・消化器外科の両方が行われていました。乳腺手術は呼吸器外科で、食道手術は呼吸器 / 消化器の合同で行われていたように思います。この区分けは岡田先生が在籍しておられた愛知がんセンター方式により、癌の臓器区分を頸部と横隔膜で 3 領域に分類していたことによるものでした。呼吸器外科学以外に乳腺外科にも携わることができました。

岡田先生は医師の心構えや医学教育に以下の哲学を持っておられました。1) 外科医にとって形態学は重要な基礎的知識である。2) 臨床医でアカデミックな施設で仕事に従事するものは、何か基礎医学的な方法論を身に着けておくべき。3) 一般教養は物事を多角的に観察、批判、判断できる能力となるもので、専門医学を前倒しにすることによって犠牲すべきではない。これらのことは何回か会話や誌上で伺いました。他に、既存のものを鵜呑みにするのではなく疑ってかかれという教育姿勢もあったように思います。

岡田先生は言葉や文章と視覚芸術にこだわりのある方でした。抄録や学会予演で誤字や言葉遣いには細かく注意されました。当時はまだワープロが普及しておらず、抄録も印刷所に依頼して作成しておりました。私は抄録の表題の一字を誤ったことがありましたが、岡田先生に指摘され、「誤字をする人に対しては尊敬の念が失せるものだ」と言われました。予演では「ら」抜き言葉をよく修正されていました。例えば「耐えられない」を「耐えれない」と表現してしまうようなことです。

スライドの図もご自身で描かれたもので作成されたものがありました。豊富な解剖図や病理組織図が挿入された図説「肺のリンパ系と肺癌」が 1989 年金芳堂から発行され、1 冊いただきました。A4 版 111 ページの書物で表紙裏には「医学と美との調和を求めて」という文章と署名が記載されていました。先生の人生哲学が要約されたような言葉でした。図は 77 個あり、そのうち、解剖図が 39 個、病理組織図が 20 個ありました。一つを除きすべての図中に先生の署名がありました。引用文献数は 220 でありました。大変なお手間だったと思います。

卒後 10 年以内の期間に滋賀医科大学に在籍させていただいて大変光栄でした。滋賀医科大学から離れて早 40 年近くになりましたが、第 2 の母校になったと思っています。今後の益々のご発展をお祈りします。

臨床見学から 45 年

滋賀医科大学 名誉教授
西京都病院 救急科 特任部長
滋賀医科大学 救急集中治療医学講座 客員教授

江口 豊 (昭和 57 年卒)

外科学講座が設立されてから 50 年という節目を迎えられたこと、心よりお慶びを申し上げます。

私が小玉外科をはじめて訪れたのは、45 年前、外科医を目指していた 5 年生の春休みの臨床見学の時でした。思いがけず、当時医局長であった岡利一郎先生のご厚意で 4 月から開始する研修医受け入れの予行を兼ねて 2 週間の臨床見学をさせていただくことができました。

岡先生執刀の鼠径ヘルニアの手術にも助手として参加させていただきました。何本もの鉗子を持って、と言われましたが緊張の余り手が震えて保持できず、堀澤昌弘先生が「そうか無理か」と笑顔で代わってくださったことが思い出されます。学生を温かく見守ってくださる医局の雰囲気強く心に残りました。

研修医になりますと、当時 6 人部屋の 408 号室は稼働しておらず我々同期研修医の当直室となっており、文字通り寝食を共にしました。迫裕孝先生ライターのもと、松田孝一先生をはじめとする一年先輩の先生方と毎日のように夕食をご一緒させていただき、眠気のある時の筋鈎の保持の仕方など実臨床の指導を受けたのも楽しい思い出です。

その後「21 世紀の外科医は臨床と研究の両方ができるように」という小玉元教授のお言葉に感動し大学院に進みました。小玉先生は肝移植を目指しておられ、肝臓機能評価としての凝固系のテーマをいただき、凝固学領域で本邦の先端であった自治医科大学血栓止血に国内留学させていただきました。帰院後、研究指導するようにご指示をいただき米国に留学、小玉先生が医局の先生方を連れられて学会発表の折に留学先の SanDiego まで訪ねてくださったことには感激しました。

帰国後、研究が起動に乗らず目一杯でした。そんなある日、柴田純一先生から掛けられた「臨床も厳しいぞ」とのお言葉に目が覚める思いがしました。臨床と研究は両輪でなければならぬと、病棟医長であった花澤一芳先生の下で臨床に懸命に励みました。また術後 / 豚肝移植時の凝固線溶系の病態・がん組織における線溶系因子の局在等について博士論文の指導もさせていただきました。いまでも臨床・研究ともに継続できておりますのは、小玉先生はじめ諸先生方のご指導あってこそと心より感謝しております。

近年、研究のみならず臨床でも留学する後輩が現れ、小玉先生の掲げられた理念が受け継がれていることをうれしく思っております。本講座出身者が本学国内外で外科学のみならず、腫瘍免疫学・救急医学・血液浄化・医療安全など広い分野で活躍されていることは心強い限りです。次の 50 年に向けて本講座がさらに発展することを心より祈念いたします。

開講 50 年にあたり想うこと

滋賀病院 減量代謝改善外科 医療安全管理部 予防部（健康管理センター） 院長補佐

山本 寛（平成元年卒）

滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年、誠におめでとうございます。9 期生の山本寛です。開講 50 周年に当たり、思い出を少し綴らせていただきます。

私は、草津に生まれ、大津に育ちました。父親を早く亡くし（中学の入学式の日突然死）、私以下 5 人の兄弟の母子家庭でしたので、我々は母子福祉のぞみ会様はじめ、滋賀県に育てていただいたといっても過言ではありません。なので、恩返しをしたいと思って目指した滋賀医大に入学させていただいた時の喜びは今も忘れられません。

当時の第二外科に入局したのは、尊敬する外科医の叔父（元同門会員、故山本明）の背中を見ていたからだだったかもしれません。滋賀医科大学附属病院と北野病院での研修医の時代は、もちろん働き方改革のない時代で、朝から晩まで病院に詰めて、ベッドサイドで患者さんの診察・処置を喜びに満ち溢れて取り組んでいたように思います。滋賀県と滋賀医大と医師という仕事が大好きで、誇りと責任をもって、外科臨床をさせていただけたことをとても幸せに感じています。

その後、Harvard 大学 Beth Israel Deaconess Medical Center に留学させていただき、帰国した時には、第一外科、第二外科から大講座制になっており、先輩が残していただいた助手の席で大学に着任しましたが、久しぶりの臨床と環境の変化に若干の違和感を感じ、戸惑いながらも、同じ滋賀医大の同級生、先輩後輩の同胞に囲まれて、ご指導いただきながら、仕事をさせていただいたことを思い出します。

今、医療安全の仕事をさせていただいていますが、外科臨床に関してつくづく思うことは、外科臨床はやりがいは大きいですが、一方で非常にリスクの高い現場であること、そしてそのリスクを乗り越えるには、チームそして組織での対応が重要ということです。私自身も、これまで多くのインシデント、アクシデントなど難局に遭遇し、先輩の先生方に数多くの局面でご指導いただき、また直接的に助けていただいたこともあります。また逆の立場でバックアップに回ったことも、それなりに数多く経験させていただいたことを、患者さんのお顔とともに走馬灯のように思い出します。

患者さんと先生方そしてスタッフの皆さんで作りに上げてきた滋賀医大外科の 50 年をマイルストーンとし、これからの 50 年も、これまで先人の先生方の作り上げてこられた土台に立って、更に安全で質の高い外科臨床を目指して、皆さんで協力して滋賀医科大学外科学講座を盛り上げていきましょう。

これからも、よろしく願いいたします。

滋賀医科大学外科学講座 50 周年に寄せる思い

静岡県立静岡がんセンター 食道外科 副院長兼食道外科部長

坪佐 恭宏 (平成4年卒)

このたび、滋賀医科大学外科学講座が創設 50 周年という大きな節目を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。50 年という長きにわたり、地域医療・教育・研究の発展に多大なご貢献をされてきたことに、深く敬意を表します。

私が滋賀医科大学を卒業し、外科学講座に入局したのは平成 4 年のことです。右も左も分からない新米医師だった私にとって、当時の遠藤善裕先生、江口豊先生、来見良誠先生、佐野晴夫先生、阿部元先生、川口晃先生、内藤弘之先生他多数の先生方から直接ご指導いただいた日々は、まさに原点であり、今も臨床現場での判断や後輩の指導に活かされています。厳しさの中にも温かさを感じるご指導から、外科医としての心構えや患者に向き合う姿勢を学ばせていただきました。

入局当時の小玉正智教授の温かいご配慮により、私は国内留学という形で国立がんセンター中央病院（現：国立がん研究センター中央病院）に 5 年間赴任させていただき、外科医としてのさらなる研鑽を積む機会を得ました。恵まれた指導環境の中で、手術手技のみならず、医療人としての倫理観やチーム医療の重要性を学び、多くの刺激を受けました。この期間に得た経験は、私のその後の進路に大きな影響を与えることとなりました。

平成 14 年からは静岡県立静岡がんセンターに赴任し、今日に至るまで食道がん診療を中心に外科医としての道を歩んでおります。地域の中核的医療機関として、がんと向き合う患者さんやご家族に対して、最善の医療を提供することを使命と感じながら、日々診療にあたっております。その根底には、滋賀医科大学外科学講座で培った基礎と精神が、確実に息づいております。

外科学講座の 50 年の歴史は、まさに不断の努力と情熱の積み重ねであり、多くの優れた外科医がこの場から育ち、全国各地で活躍しておられます。その姿は大きな励みであり、誇りでもあります。こうして自分自身もその流れの一部として、微力ながら地域医療に貢献できていることを嬉しく思います。

今後も滋賀医科大学外科学講座が、これまで築かれた伝統を礎に、時代の変化に柔軟に対応しながら、さらに発展されていくことを心より願っております。そして、これからの 50 年もまた、多くの若き外科医たちが集い、学び、羽ばたいていく場であり続けることを確信しております。

最後になりますが、講座のさらなるご発展と、関係者の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

滋賀医科大学外科学講座での経験を振り返って

滋賀医科大学 医学部附属病院 医療安全管理部 教授

清水 智治（平成5年卒）

この度は、滋賀医科大学外科学講座が50周年を迎えられたことをお喜び申し上げます。旧第一外科と旧第二外科が大講座として運用されてから早くも20年以上経過します。2026年度からは滋賀医科大学では大講座制が廃止され、臓器別のそれぞれの講座に分割されることとなりました。次の50年は臓器別の外科学講座として各臓器の特性を活かして発展していくものと考えます。講座としては独立することになっても、日本外科学会の外科学専門医育成という観点からは、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科・乳腺外科・小児外科・一般外科の各分野では一丸となって滋賀県内の外科医師の育成に努めていく必要があります。今後も引き続き、各臓器別の外科学講座が診療・教育・研究において緊密な連携を継続していければ嬉しく思います。

私は1993年に旧第一外科に入局し小玉正智名誉教授、谷 徹名誉教授、谷 眞至教授の3代の教授にご指導を頂く機会を頂戴しました。私が感じた外科学講座での30年の経験について綴らせていただきます。入局した当時は、旧第一外科では消化器外科のみならず、乳腺外科、内分泌外科、腎移植外科、小児外科などを中心に診療をされていました。大学で研修した時期には、非常に幅広い領域を学ぶことができました。腎移植にも関わる機会がございましたので、透析医療や血液浄化などにも興味を持つことができました。これは後に私の医師人生の中で大きな影響を与えるトレミキシンの出会いにつながりました。トレミキシンは1994年に上市され臨床使用が可能となっていますので、私の医師としての歩みとほぼ同じです。医師4年目の時に関連病院で尿路感染に伴う敗血症性ショックの患者でトレミキシンを使用した時の劇的な効果を見てトレミキシンの魅力にとりつかれました。その後、外科侵襲学・エンドトキシンの分野で研究をする機会を頂きました。後方視的研究ではありましたが、トレミキシンに関する研究をいくつか論文化しました。外科の仕事のメインはもちろん手術です。谷 徹先生の後半と谷 眞至先生の時代には、腹腔鏡手術やロボット手術といった新しい技術が開発されるしたが、外科でトレミキシンを扱うことが少なくなっていました。さらに、EBMの時代となりトレミキシンは科学的治療効果の根拠がないという理由で国内外のガイドラインでは使用しないことを推奨され、日本国内ではまだ医療機器として販売されていますが臨床使用が減少している状況にあります。外科侵襲学は日本外科学会の中では隅っこの方へ追いやられている状況にあります。しかし、最近の米国での研究成果を元にFDAで臨床使用の申請がされるようです。米国のエビデンスが日本に逆輸入され国内での臨床使用が活発化してくる可能性があります。まだまだトレミキシンは次の50年も外科学講座のあゆみと共に末永く長く世界で使用されていくことを、外科侵襲学を学ぶ研究者として祈念しております。

外科学講座 50 年に寄せて

公立甲賀病院 外科 部長

太田 裕之 (平成 10 年卒)

まずもって滋賀医科大学外科学講座の開講からこれまでの運営に携わってられました多くの方々のご支援とご尽力に感謝を申し上げます。

私は 1998 年に医学部を卒業し、外科医として歩み始めてから 27 年が経過しましたが、この間の医学の進歩には目を見張るものがあります。以前は消化器がんの手術といえば開腹手術が一択であった時代から、医療器具やデジタルテクノロジー、手術手技の進化とともに、今や腹腔鏡、そしてロボットを用いた手術は世界中に拡大しており、術式は多岐にわたっています。また、がん治療における化学療法の分野では、多くの分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場が、格段の治療成績の向上をもたらしつつあります。さらに近い将来には、医療の最先端分野においてビッグデータ解析と生成 AI との掛け合わせから生み出される様々なイノベーションの登場が期待されています。

一方で、医療の最前線である地域の病院では、昼夜を問わず様々な疾患を抱えた高齢患者が引きも切らず、外科医は救命救急、集中治療、がん治療から終末期の緩和医療の提供までを、感染対策や患者安全に細心の注意を払いつつ遂行することを期待されており、その労働環境はますます厳しさを増しています。また、日本の社会全体に目を向けてみますと、1990 年代初頭のバブル崩壊後の長期化する経済の停滞や少子化、そして他の先進国と比較した低い労働生産性は、いまだ解決に至っておりません。さらに、それらが遠因となっているかもしれない病院経営の巨額赤字のニュースに触れますと、モチベーションを削がれ暗い気持ちに陥りそうになります。

しかしながら、日々の臨床現場で瀕死の患者さんが手術を含めた連携プレーを経て笑顔で社会復帰していく手助けをできることは、外科医の醍醐味でもあります。生成 AI や自動ロボットでは代替のきかない、外科医ならではのこの醍醐味をたくさん味わいたくて、ときにほろ苦い経験を反省しながら、理想の手術や最適な薬物療法を求めて模索する日々です。外科医人生の後半戦は、自分自身がアップデートを重ねながら、いかに次世代の若い先生方に誇りをもって活躍してもらえる環境を整えることができるかを追求していきたいと思っています。同門の先生方におかれましては、今後も変わらぬご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

卒業後二十五年 出合いに感謝し、次世代へつなぐ

がん研究会有明病院 大腸外科 副部長
直腸がん集学的治療センター兼務

山口 智弘 （平成 12 年卒）

滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年を同門の先生方と共に迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。併せて、日頃のご厚情に深謝申し上げます。外科医 25 年目の私にとって、これは過去を振り返り未来を思う大切な節目であり、これまでの感謝の気持ちを込めて寄稿いたします。

私は 2000 年に滋賀医科大学を卒業し、谷 徹先生率いる旧第一外科に入局しました。私を含めて 5 名の同期（安 炳九先生、飯田洋也先生、宇治祥隆先生、村上耕一郎先生）とともに外科医の道を歩み始めました。体力的・精神的に厳しい毎日でしたが、同期のたゆまぬ研鑽に接し、いつも励まされました。指導医の仲 成幸先生からは医師の基本であり、そして全てでもある「命を預かる医師のあるべき姿」を学びました。25 年間、私がまっすぐに外科医の道を歩み続けることができたのは、いつか仲先生のようにになりたいという大きな目標があったからです。さらに、糸島崇博先生、近藤浩之先生、梅田朋子先生、目片英治先生、内藤弘之先生、川口 晃先生、阿部 元先生、遠藤善裕先生、来見良誠先生、花澤一芳先生には、研修医 1 年目の私を温かくご指導いただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

その後、谷 徹先生のご厚意により国立がんセンター中央病院、続いて滋賀医科大学にて研修の機会を頂戴し、折々にご指導を仰ぐことができました。これらのご厚情は、私の進路を大きく方向づけてくださいました。大学では清水智治先生、龍田 健先生をはじめ諸先輩方に、東京から戻った私を温かくお迎えいただき、深く感謝申し上げます。その後、静岡がんセンター、がん研究会有明病院に赴任し、ロボット手術や直腸癌の集学的治療に臨床・研究の両面から取り組んでまいりました。その間、谷 眞至先生には講演の機会を賜るなど多大なご厚情をいただき、ここに深謝申し上げます。同時に、将来を担う人材育成にも力を注ぎ、80 名を超えるレジデントの教育にも携わりました。

近年、消化器外科医の不足が大きな社会的課題となっています。先達から学んだ「命を預かる責務」を胸に、外科の魅力を新たに磨き上げ、広く発信していくことが急務です。併せて、私自身、若手医師教育の在り方を見直し、さらに充実を図ってまいります。これからの 10 年、私は倦まず自己研鑽を続けるとともに、これまで 25 年にわたり賜ったご薫陶に報いるべく、後進の教育と人材育成に一層注力してまいります。

滋賀医大での研修から今日に至るまで、多くの先生方と仲間を支えられ、外科医として成長することができました。私のキャリアを導いてくださった谷 徹先生、谷 眞至先生をはじめ、支えてくださった皆様、そして共に切磋琢磨した同期の仲間たちに、深く感謝申し上げます。

滋賀医科大学 外科学講座 50 年に寄せて思うこと

滋賀医科大学 外科学講座 (消化器・乳腺・小児・一般外科) 講師

貝田 佐知子 (平成 13 年卒)

滋賀医科大学外科学講座が開講 50 周年を迎え、記念式典が盛会のうちに執り行われましたことを心よりお慶び申し上げます。

私自身、入局以来 25 年が経過し、来年には 50 歳を迎えます。振り返れば、人生の半分を本講座と共に歩んできたことになり、臨床・研究・教育のすべてにおいて先輩方から多くのことを学び、背中を追いながら育てていただきました。温かくご指導いただいた日々は、外科医として、また一人の人間としての糧であり、感謝の念に堪えません。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化し、外科医に求められる役割も多様化しています。さらに消化器外科医の減少が危惧される中、私はこれまで胃癌治療、とりわけ低侵襲手術やロボット支援手術の発展に携わる機会をいただきました。これも、長期にわたり本講座が培ってきた教育と研究の土壌の賜物であると深く感じております。

今日までの 50 年の歩みを礎に、次の半世紀に向けて私たちの責任は一層重くなります。今後は若手外科医の育成や学術的発信を通じて、講座に少しでも恩返しができるよう尽力いたしますとともに、本講座のさらなる発展と、地域社会および世界の外科医療への貢献を心より祈念申し上げます。

私の 50 年と外科学講座の 50 年

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）講師

三宅 亨（平成 13 年卒）

滋賀医科大学 外科学講座が、今年、開講 50 周年という節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

また、先日の記念式典・講演会・祝賀会では、多くの先生方や関係の皆様とともにこの節目を迎えることができ、本講座が歩んできた長い歴史を改めて感じる機会となりました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

私は 1975 年に滋賀県能登川で生まれ、守山で育ち、今年ちょうど満 50 歳を迎えます。本講座と同じく 50 年という時を重ねてきたことに、不思議なご縁を感じております。平成 13 年に本学を卒業し、外科学講座に入局し、消化器外科の診療や研究に携わってまいりました。現在は大学で大腸外科を中心に担当させていただいております。これまでに関連病院での臨床、大学院での研究、また国内外での基礎研究など、様々な経験をさせていただきました。さまざまな困難もありましたが、その都度、同門の先生方や仲間に助けられながら、今日まで続けることができました。

外科医療を取り巻く環境は、今後さらに厳しさを増すことが予想されますが、患者さんに向き合い、地域に貢献していくことが何より大切であり、これまで多くの先生方に助けていただいたことへの感謝を忘れず、これからも日々の診療・研究に取り組んでいきたいと考えています。そのなかで次の世代が安心して学び、働ける環境づくりのために、自分にできることを続けていきたいと思っております。

最後に、これまで本講座を支えてこられたすべての諸先輩方、同門の皆様、改めて心より感謝申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

武士道のすすめ

滋賀県立総合病院 心臓血管外科 医長

神谷 賢一 (平成 19 年卒)

令和 2 年 6 月より滋賀医大外科学講座にお世話になり、鈴木教授のお膝元で御指導を賜り、早くも 5 年の月日が過ぎたかと思うと、“歲月人を待たず”とは正にこの事と思う。これまで手術に限らず、人間形成に重要な多くの「哲学」を学ばせて頂いたにも関わらず、何一つ達成しえない己の未熟さを日々痛感するばかりである。本寄稿にあたり、僭越ながら「鈴木哲学」に関する私個人の解釈を、感謝の念とともに述べさせて頂きたい。

小生は神奈川県横浜市で育ち、東京の慈恵医大で医学を学んだ。(東京慈恵会は明治皇后によって設立され、旧帝国海軍の総司令官・高木兼寛先生を学祖とし、当時の東京帝国大学の森鷗外(陸軍総司令官)に対抗して、本邦の黎明期に英国医学を取り入れた医学校である。)在学中は、自宅に近い在横須賀米海軍基地の海軍病院(戦前の横須賀鎮守府)でアルバイトをしながら語学力の向上に努めた。(米海軍の将校は Navy academy で日本海軍の職業軍人が如何にスマートで勇猛であったかを新人教育で叩きこまれ、今も畏敬の念をもとに海上自衛隊を“世界の Nihon Kaigun”と呼ぶ。)また幼少期から剣術を嗜み、大学時代に所属した剣道部での先輩は、かつて防衛大学校(旧江田島海軍兵学校)で学び、慈恵医大に再入学した筋金入りの猛者であった。そんな数奇な経験や背景から、自然と旧海軍や近代日本の歴史にも詳しくなり、私の愛読書は坂の上の雲(司馬遼太郎)、白い航跡(吉村昭)、龍馬がゆく(司馬遼太郎)、五輪書(宮本武蔵)、葉隠聞書(山本常朝)と、大分と偏っていた。

そんな中で鈴木教授が教室員に説く人生教育や訓示には、これらの要素が重なる部分が多く、共感できる話が幾多もあった。令和を生きる若者にとっては「零戦搭乗員の覚悟」、「大空のサムライ」、「知覧特攻基地の視察」、「泉岳寺での四十七士の忠義・本懐」などと聞くと「危ない右翼思想ですか?」と思われるかも知れないが、これら全てに共通するのは日本文化が数百年に渡り育んできた武士道精神に他ならない。「武士道」は、明治期に新渡戸稲造により英語で出版され、今や世界中で読まれており、特にビジネスの世界では、リーダーシップを育てるエリート教育にも活用されている。しかしその解釈は幅広く、「嘘をつかず、軽薄をせず、表裏を言わず、不礼ならず、自慢せず、奢らず、不奉公ならず、朋友の仲良く、大方の事を気にならず、慈悲深く、義理つよきを肝要と心得え、命惜しまぬを良き侍といふ(可笑記 卷五)」と多岐に渡る。つまりは自分の意志(アイデンティティ)を明確に持った上で、身命を賭して(私利私欲のためではなく)、お家(国家、地域、医局、かけがえのない家族)のために働く、それこそが武士道で重んじられてきた概念だと考える。私自身、これらを実践できているとは到底思えず、先はまだ長く、後進の育成はおろか自分の成長すらままならず、路頭に迷っては泣く日々であるが、一人のできそこないの外科医として少しでも社会に献身できる人生でありたいと思う。最後に寄稿の機会を与えて下さった同門会の方々に深く御礼申し上げたい。

50 年の歴史の重みを感じて

市立長浜病院 心臓血管外科

松林 優児（平成 31 年卒）

外科同門会の先生方、平素より大変お世話になっております。私は 2025 年 4 月より市立長浜病院心臓血管外科で勤務しております。本年はいよいよ心臓血管外科専門医試験を控え、日々緊張感を持ちながら診療にあたっております。

さて、今年 2025 年は滋賀医科大学外科学講座が開講されてちょうど 50 周年の節目にあたります。私自身、この記念すべき年に同門の一員として歩んでいることを大変嬉しく思い、今回の寄稿では、外科学の歴史にも少し思いを馳せてみました。1975 年当時の消化器外科手術を調べてみると、手術はすべて開腹で行われ、胃癌や大腸癌の切除が中心でした。肝切除は限られた施設でのみ実施され、膵臓手術は「超」高難度で、ほとんど行われなかったそうです。腹腔鏡手術が世界で初めて行われたのは 1987 年、フランスでの胆嚢摘出術でした。一方、心臓血管外科領域では、1956 年に日本で初めて人工心肺を用いた開心術が成功し、1975 年頃には弁置換術や先天性心疾患手術がようやく日常的になりつつあったと記録されています。まさに外科全体が大きく挑戦を続けていた時代でした。

それから半世紀。現在の滋賀医大では、谷眞至教授、鈴木友彰教授のもと、ダヴィンチ手術、ステントグラフト手術、低侵襲心臓手術 (MICS) など、最新の手術が日常的に行われています。先日の 50 周年記念式典では、こうした歴史の厚みを直に感じ、先輩方の不断の努力に胸が熱くなる思いでした。

50 年の歩みを支えてこられた偉大な先輩方の築かれた歴史の上に、今こうして自分が一員として存在していることに深い感謝と誇りを覚えます。まだまだ未熟な身ではありますが、これから一層精進を重ね、少しでも滋賀医科大学外科学講座の未来に貢献できる外科医となるよう努力してまいります。

高校球児から学ぶ若手外科医の心得

近江八幡市立総合医療センター 心臓血管外科 レジデント

西村 知起 (令和3年卒)

2025年夏の全国高校野球選手権大会は沖縄県勢としては15年ぶりに沖縄尚学高校が初優勝で幕を閉じた。滋賀県からは綾羽高校が初出場・初勝利を上げ、地元は大いに盛り上がったことも記憶に新しい。高校野球は時代を反映するとはよく言われるが、実際に20年前と比べると、当時では考えられない球児たちの光景がテレビ越しに映し出される。長く伸びた髪。熱中症予防の白いスパイクやクーリングタイム。複数の投手での継投。試合時間短縮のための延長タイブレーク制度や低反発バット。コンプライアンスを重視し、選手の体調や将来を第一に考え、いわゆる昭和のスポ根的な要素を排除した高校野球に一部のファンは落胆し、レベルが落ちたと嘆く者もいた。しかし、自分はそうは思わない。一昔前とは比べ物にならないほど体は仕上がりに、球速も上がっている。ミスも少なく、以前はよく見られた大差で勝敗が決まるゲームはなくなり、地域レベルも拮抗し始めている。極め付けは2023年の夏の甲子園である。神奈川の慶応義塾高校が103年ぶりに全国の頂点に輝いた。甲子園出場校の中でもひと際白い肌(日焼け止めの使用が認められていた)と長髪が目立ち、終始爽やかな笑顔が印象的であった。完全に高校野球の常識を覆した瞬間であった。

2024年から医師の働き方改革が始まっている。時間外勤務は抑えられ、何日も病院に張り付く生活は一概には良しとされず、有給休暇の消費や当直明けなどが考慮される。一昔前のレジデントの生活は先輩方から耳にはするが、そのような状況で研修をする令和の研修医には想像することが難しい。この状況をどう捉えるかである。ただ「楽になった」「働き易くなった」と考えると所謂甲子園で活躍する強豪校にはなれない。彼らは一見すると根性に欠き、物足りなくなったようには感じる。しかし、無駄を省き、本質を重視した指導を受けることで、「心身ともに健康な状態」を維持し、その技術の習得に命をかける。国内の親元を離れた野球留学が当たり前になった現在ではレギュラー争いは熾烈化し、18歳にして挫折を味わう。むしろ以前よりとことん勝負に特化した世界になったと言える。

外科を志す若手が現在の働き方の中で漫然に過ごしては、当然レジデント時代を死に物狂いで過ごされた先輩方に肩を並べることができない。我々は外科学講座50年の先輩方が血と汗で身につけた技術を「心身ともに健康な状態で」享受できる非常に稀有で恵まれた存在である。滋賀医科大学外科学講座が全国区の強豪校になるかどうかは現在の我々若手にかかっている。

滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年記念講演会より

演題名：外科教育のすゝめ

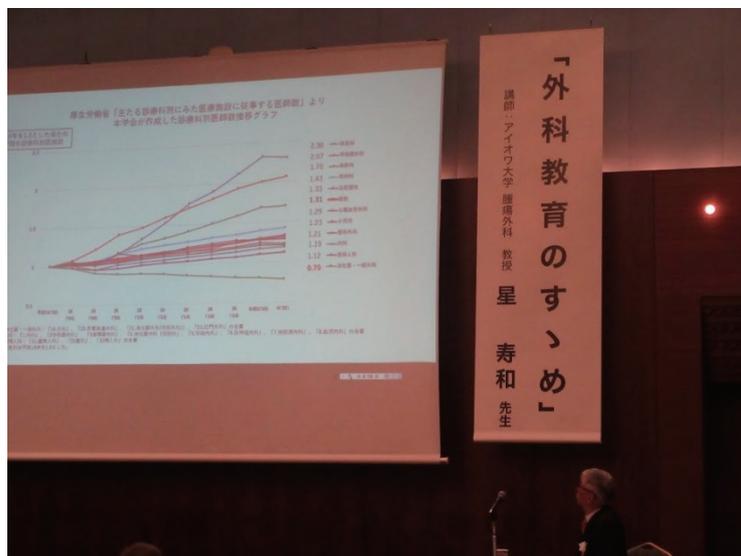
講師：星 寿和 先生

アイオワ大学 腫瘍外科 教授

【抄録】

近年外科領域、特に消化器外科にて危惧されているのが外科医を志望する医師の減少である。

日本ではいかにして将来の外科医を確保するかが学会等で活発に議論がされているが、いまだに打開策がない状態であるのが現状である。対照的に米国に於いては外科を目指す優秀な医学生が後を絶たず毎年ほぼ 100% の研修医マッチとなっている。また日本では産婦人科が一時の医師不足を乗り越え医師数増加への転換に成功している。これらのデータを基に、このセッションでは学生・研修医の進路選択の時期、その選択に寄与する因子を考察した後に、内的動機を用いた外科進路選択の向上のための戦略を考えた上で、ファカルティーディベロップメントの占める重要な役割を参加者が認識し、今後の外科の発展に活かすことができるようになることを目的とする。



演題名：日本外科学会の課題と展望

講師：武富 紹信 先生

一般社団法人 日本外科学会 理事長 / 北海道大学 消化器外科学教室 I 教授

【抄録】

日本外科学会は 1899 年に発足し 120 年以上の歴史を有しますが、この間外科をとりまく社会情勢は変化し、また外科自体も大きく変貌を遂げています。現在の本邦外科医療における最大の課題は若手医師の外科離れです。日本外科学会の会員数は 2014 年 39,797 名、2023 年 40,837 名とこの 10 年間で微増していますが、50 歳未満の会員数は 20,147 名 (50.6%) から 17,911 名 (43.9%) と会員の高齢化が進んでいます。特に消化器外科領域の人手不足は顕著で、20 年後には消化器外科医師数は現在の半数に減少するという危機的な報告が日本消化器外科学会から発出されています。

このような外科を取り巻く状況を鑑み、日本外科学会では「外科医を元気に、国民に安心を」のスローガンのもと、①労働環境の整備、②教育体制の拡充、③ダイバーシティ推進、④ SNS 活用、⑤基礎・臨床研究体制の拡充、⑥国際化の推進、⑦ブランディング活動、などの取り組みを進めています。特に、外科医師人材不足に対応すべく、日本専門医機構による専門医制度改革、サブスペシャリティ学会との連動研修、働き方改革に伴うタスクシフトを含めた労働環境改善などの対策を進めています。



滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年記念式典・祝賀会より





令和 7 年 6 月 21 日 滋賀医科大学外科学講座開講 50 周年 記念祝賀会 於琵琶湖ホテル

● 短期留学支援事業

留学先施設名：カナダ トロント大学への海外研修

湖東記念病院 心臓血管外科 医長 神谷 賢一（平成 19 年卒）

この度、令和 7 年 4 月より 3 か月間、カナダ・トロント大学への短期海外研修にあたり、多大なるご支援を賜りました外科同門会の方々に心より御礼申し上げます。滞在期間中に得たカナダでの経験を含め、誠に僭越ながらご報告させていただきます。本研修は胸部外科学会が主催する JATS fellowship のプログラムとして、国際委員会の先生方ならびに本学の鈴木教授のご尽力により実現しました。かつて北米や欧州の医療機関へ短期見学する機会はございましたが、今回は外科医として修練を積んだ上での海外研修ということもあり、具体的な目標を持って臨むことと致しました。トロント大学は世界トップレベルの研究機関であると同時に、北米でも最大規模の関連病院を有しており、世界中から多くの留学生を受け入れています。私が研修させて頂いたのは、セントマイケル病院 (SMH) とトロント総合病院 (TGH) の二施設でしたが、その他にもサニーブルック病院、マウントサイナイ病院、トロント小児病院など有名な心臓専門施設がトロント市内には複数あります。臨床では手術の見学が主体でしたが、一日に 3～4 件、多い時には 5～6 件の手術が毎日行われており、かなり濃密な時間を過ごすことができました。特に SMH では、比較的シンプルな狭心症や弁膜症に対する冠動脈バイパス術や弁置換術が大多数を占め、日々多くの手術をこなすことに特化して若手外科医の修練も視野に入れた施設であるのに対し、TGH は複雑な弁膜症や高難度症例に対する自己弁温存術や大動脈手術、さらには補助人工心臓や心移植に至るまで高度な術式をベテランの外科医が積極的に行っていました。これまで留学経験者の方々からは様々なご意見や体験談を伺う機会はありませんでしたが、実際に自分で現場を見ることで日本の心臓外科事情との違いを深く知ることができたのは、大きな成果であったと思います。診療に関しては、手術の精度や術後フォローアップのきめ細かさから日本の施設も決して劣らないのではと思える一方で、レジデントや(外国人を含めた)フェローへの「教育」に対する熱量はとて高く、毎年海外から多数の応募があり、臨床・研究フェローとして採用されるのは数年待ちというのが実情でした。またカナダは多民族国家のため、出身国や母国語も多岐に渡り、(一見すると玉石混合のカオスに近い人員構成にも見えますが)お互いが個々人の文化的背景や多様性をとても尊重しており、極めて統制の取れた強固なチームとして機能しているのも大変印象的でした。私自身、英語に関しては IELTS 試験など大分と準備してから渡航したつもりでしたが、あくまで「語学」としての英語と、医療現場での実践的な英語とでは相当の乖離があり、現地でのコミュニケーションにはかなり苦労しました。また研究面では、大学院で進めてきた医用画像研究のスライドやデータを持参したところ、幸いにもカンファレンスでプレゼンさせて頂く機会を頂きました。特に画像診断に関しては、本邦の技術開発はカナダよりも進んでいる部分が多く、ご清聴頂いたスタッフの先生方からは高い評価を頂き、また貴重なご質問やコメントを頂くことができたのは、とても重要な知見となりました。滞在中にはモントリオールでのカナダ心臓外科学会や David シンポジウム、学術研究会にも参加させて頂く機会があり、北米における第一線の臨床や研究に関する見聞を広めることができ



セントマイケル病院 (SMH)



トロント総合病院 (TGH)

ました。最後に、本海外研修にあたりご支援くださいました外科同門会ならびに外科学講座の先生方、関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

現地で滋賀医大での研究内容をプレゼンさせて頂きました。質疑は白熱した内容でした。

モントリオールのカナダ心臓外科学会にて



● 短期留学支援事業

留学先施設名：Heidelberg University Hospital への留学

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）講師 前平 博充（平成 18 年卒）

この度は、短期留学の機会を与えていただき、誠にありがとうございました。私は、2025 年 5 月から 7 月にドイツにあります Heidelberg University Hospital へ留学させていただきました。Heidelberg University Hospital を選択した理由は、年間 700 件以上の膵切除を行っている、ヨーロッパ各国から膵疾患が集まるヨーロッパ膵疾患センターであるためです。



Heidelberg University Hospital では、月曜から金曜まで、1 日 2-5 件の膵切除が施行されており、私は 3 ヶ月間で約 60 例（当院での 2～3 年分）の膵切除を見学・参加しました。執刀はスタッフがいき、第一助手が中堅から若手外科医、第二助手が若手外科医か学生といったメンバー構成で手術をされていました。Heidelberg University Hospital では膵切除に対して「Maximum control」「合理性」を重要視しておられました。そのため、操作が限定される腹腔鏡手術は施行されておらず、「開腹手術」か「ロボット支援手術」のみ施行されていました。また、日本ではほとんどされていない肝動脈合併切除再建を月 3～5 例ペースで施行しており、拡大手術への可能性を見いだすことができました。

今回の短期留学は、私にとって本当に貴重な経験となりました。まず、日本ではなかなか見ることのなかった肝動脈合併切除再建を多数見学できたことです。また、Heidelberg University Hospital には他国から多数留学に来られており、中国、インドの先生とも知り合いになれたことです。いまでも連絡を取り合っております。当然ですが英語での会話になるので、出来ないながらも必死で食いついて（たまに逃げました（汗））いろいろな先生と会話をし、ドイツや他国の働き方なども教えてもらいました。そのなかで印象的であったのは、術後のフォローや化学療法などの治療は基本的に関連施設などでされており、通院のための時間などを考慮すると合理的で、日本でも取り入れるべき事項と思いました。そして、もう一つ「笑顔」が重要ということがわかりました。とりあえず朝は「Guten Morgen」と口角をあげて笑顔で挨拶をすることで、1 ヶ月ほどしたらドイツの先生方から話しかけてもらえるようになりました。最後には一緒に写真を撮ろうと一眼レフを持っ





てきて写真撮影してくれました。

本当に英語が出来ない（聞き取れないし、話せない）私にとって、当初留学に壁を感じておりましたが、実際に行ってみるとなんとかなりましたし、日本では得られない経験をすることができました。今回の留学にあたり、多大なるご支援をいただきました谷徹理事長をはじめ外科同門会関係者の皆様、留学のお許しをくださった谷眞至教授、留学先の許可をとってくださった三宅亨先生、留学を快く受け入れてくださった Kahlert 教授、膵切除について丁寧に指導してくださった Michalski 教授、Loos 教授に心より感謝申し上げます。

追悼

1. 白石 享 先生を偲ぶ

塩見 尚礼

白石 享先生のご逝去を悼んで

日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長
長浜赤十字病院 副院長 外科部長

塩見 尚礼

このたび、滋賀医科大学外科学講座の同期である白石 享先生のご逝去の報に接し、深い悲しみに包まれております。ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私と白石先生は、1991年（平成3年）に滋賀医科大学第一外科学講座の門を叩いた同期です。一年目は五人の同期と寝食を共にし、病棟で共に切磋琢磨した、まさに「戦友」でした。若き日の白石先生は、その才能と明るく人懐っこい人柄で、周囲から慕われる存在でした。洗練された装いのお洒落さんで、ジャガーを乗り回す彼の姿は、いつも皆の憧れでした。

仕事が終わると、先輩や同期、看護師の皆と食事やカラオケに出かけ、貴重な息抜きの時間を過ごしました。先生の十八番「兄弟船」の力強い歌声が、今も鮮明に耳に残っています。そして、「愛は陽炎」を二人で何度もデュエットしたこと。それは、あの頃を思い出すたびに蘇る、かけがえのない宝物です。

二年目以降は、先生が京都第一赤十字病院へ赴任されたこともあり、共に過ごす時間は減りましたが、同期でゴルフに出かけるなど、交流は続いていました。ゴルフ好きで、なおかつその腕前もずば抜けていた先生。1996年には私の結婚式にもご出席いただき、他の同期の慶事でも共に喜びを分かち合ったことが、今でも懐かしく思い出されます。

2015年、私が長浜赤十字病院に赴任した際は、再び先生と地域医療の場でご一緒できるかもしれないと期待に胸を膨らませていました。古巣である当院の地域連携の会にお顔を出してくださった時、昔と変わらない笑顔で大勢のスタッフと歓談する先生の姿がありました。しかし、どこか体調の悪さを感じ、言葉にできない寂しさを覚えた事を忘れません。後日、草津での研究会で再会した折、先生は杖をついておられました。それは、まるで「黄金バット」でも持っているかのような、長く真っ直ぐで、握る部分に宝石のような飾りがついた、先生らしいお洒落な杖でした。声をかけようとしたのですが、その日はすぐに帰られてしまい、それ以降は年賀状でのやり取りになってしまいました。

ある年、年賀状のご挨拶を控える旨の連絡をいただいた時、先生の病状をようやく知りました。言葉を失うと同時に、病と闘いながらも、弱った姿を人に見せまいとする先生の「生き様」だったのかもしれないと、深く胸を打たれました。

もっと会っておけばよかったという後悔の念が、今も私の心を占めています。まだ幼いお子さんを残し、さぞかし心残りだったこととお察しいたします。

白石先生が私たちに残してくださった、かけがえのない思い出と同期の固い絆は、永遠に心に生き続けます。

ご遺族の皆様におかれましては、さぞお力落としのことと存じますが、心よりお悔やみ申し上げますと共に、白石 享先生の安らかなるご永眠を心よりお祈り申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。

2024年度 同門会各賞受賞者とそのことば

1. 同門会賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）川口 庸

Kawaguchi Y, Ohshio Y, Watanabe A, Shiratori T, Okamoto K, Ueda K, Kataoka Y, Suzuki T, Hanaoka J
Depletion of tumor-associated macrophages inhibits lung cancer growth and enhances the
antitumor effect of cisplatin
Cancer Science, 114(3); 750-763, 2024

2. 理事長賞受賞

滋賀医科大学 臨床腫瘍学講座（腫瘍内科）寺本 晃治

Teramoto K, Igarashi T, Kataoka Y, Ishida M, Hanaoka J, Sumimoto H, Daigo Y
Prognostic impact of soluble PD-L1 derived from tumor-associated macrophages in non-small cell
lung cancer
Cancer Immunol Immunother, 72(11); 3755-3764, 2024

3. 奨励賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）神谷 賢一

2024年第124回日本外科学会定期学術集会にて「優秀演題賞」ほか、滋賀医科大学若手萌芽賞、
滋賀医大シンポジウム若鮎賞など多数の優秀な業績をあげたこと奨励し今後の活躍を期待する。

4. 若手外科医賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）村本 圭史

村本 圭史, 竹林 克士, 松永 隆志, 大竹 玲子, 貝田 佐知子, 山口 剛, 谷 総一郎,
小島 正継, 三宅 亨, 森 治樹, 前平 博充, 高尾 浩司, 竹中 裕一, 清水 智治, 村田
聡, 谷 眞至
食道挿管による吻合部完全離開を回結腸再建で修復した食道切除の1例
滋賀医科大学雑誌, 36(1); 65-69, 2024

5. 若手外科医賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）宮下 史寛

Miyashita F, Kawahira T, Suzuki T
An Adult Case of Isolated Anomalous Origin of the Right Coronary Artery from the Main Pulmonary
Artery
Journal of Coronary Artery Disease, 29(2);38-42, 2024

◎ 2024年度同門会 同門会賞受賞



滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）

川口 庸（平成19年卒）

この度は、2023年にCancer Science誌に掲載されました論文「Depletion of tumor-associated macrophages inhibits the lung cancer growth and enhances the antitumor effect of cisplatin」に対して、同門会賞を授与していただき、誠に有難うございます。今回、その研究内容を紹介させていただきます。

シャーレの中で培養しているがん細胞に抗がん剤を添加すると、全てのがん細胞を死滅させることができます。しかし実臨床において肺がん患者さんに抗がん剤を投与しても、腫瘍が縮小するのはほんの一部です。どうして実臨床ではうまくいかないのか……。

そこで着目したのが腫瘍微小環境です。がん組織はがん細胞だけでなく、リンパ球や好中球、マクロファージなど、様々な免疫細胞から成る複合体です。がん細胞は単体で生きていくことは難しく、周囲に免疫細胞を誘導し、自分の増殖を手助けするよう教育します。症例によっては腫瘍微小環境内の免疫細胞の数が非常に多く、これががん細胞の増殖を促し、抗がん剤の効果を減弱させる要因なのではないか、と考えました。

そこで免疫細胞が除去できればより安定的に抗がん剤の治療効果が得られるのでは、と考え、腫瘍随伴マクロファージという免疫細胞に着目しました。腫瘍随伴マクロファージはがん細胞の増殖や転移を促す働きがあります。本研究では、この腫瘍随伴マクロファージを既存薬で除去した結果、腫瘍増殖が抑制されるだけでなく、シスプラチンがとても効きやすくなることを証明しました。この研究成果は、がん細胞だけでなく周囲の免疫細胞もがん治療の標的になり得ることを明らかにしました。これにより将来、抗がん剤の十分な治療効果が得られる患者さんが少しでも増えれば、研究者としてとても嬉しく感じます。

現在、本研究で習得したがん免疫学の経験を生かし、免疫の視点から、肺がん術後再発メカニズムを解明しています。今後、滋賀医大呼吸器外科研究室において「外科免疫学」を発展させ、患者さんの術後再発予防に繋がる研究成果を出すことを目指しています。

最後になりましたが、私に研究の機会を与えていただいた花岡先生、実験の指導をしていた大塩先生、継続的に研究室を盛り上げてくれている片岡先生、上田先生、余田先生に感謝申し上げます。

◎ 2024年度同門会 理事長賞受賞

滋賀医科大学 臨床腫瘍学講座（腫瘍内科）特任准教授

寺本 晃治（平成8年卒）



この度は、2023年にCancer Immunology, Immunotherapy誌に掲載されました論文「Prognostic impact of soluble PD-L1 derived from tumor-associated macrophages in non-small cell lung cancer」に対して、滋賀医科大学外科同門会 理事長賞を授与していただき、誠に有難うございます。

本論文での研究は、滋賀医科大学 呼吸器外科で非小細胞肺癌に対して手術されました患者さんを対象にして、血漿中の可溶性 Programmed cell death-ligand 1 (sPD-L1) レベルを測定して、その臨床的な意義を探索したものです。

その結果、血漿中の s PD-L1 レベルは、術後1ヶ月目には術前に比較して有意に上昇して、術後3ヶ月目には術前のレベルにまで回復していました。当初、血漿中の sPD-L1 レベルは、がん細胞のPD-L1に関連すると考えていましたが、完全切除の1ヶ月後に上昇するとは、この予想には反する結果でした。そこで、がん細胞以外にもPD-L1を発現している細胞を探索すると、腫瘍関連マクロファージ (tumor-associated macrophages, TAMs) もPD-L1を強発現していました。炎症に関連する免疫細胞もPD-L1を発現しているとなると、術後1ヶ月目の血漿中のsPD-L1レベルの上昇は納得がいく結果です。次に、術前の血漿中のsPD-L1レベル、がん細胞やTAMsのPD-L1発現レベルと術後の無再発生存期間 (RFS) との関連を調査しました。その結果、術前の血漿中のsPD-L1レベルが高値で、これが、主に、がん細胞ではなくTAMsに由来している患者群では、有意に予後 (RFS) が不良であることがわかりました。このように、術前の血漿中のsPD-L1レベルとがん組織のPD-L1発現を解析することは、術後の予後を予測するうえで有用になることを明らかにしました。

今回の受賞を励みに、これからも、外科医であった時のマインドを保ちながら、基礎的な研究をとおして臨床疑問を解決していきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究で、非小細胞肺癌の臨床検体の収集を担当された五十嵐知之先生、貴重な臨床検体の利用に寛大なご理解をいただいております花岡淳先生には、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

◎ 2024年度同門会 奨励賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）非常勤講師

神谷 賢一（平成 19 年卒）



この度は、伝統ある外科同門会での奨励賞を賜りまして誠にありがとうございます。本研究は、令和 2 年 10 月に私が大学院に入学した時期から進めて参りました。オランダのベンチャー企業（PS Tech 社）が新たに開発した Vesalius3D という医用画像ソフトウェアを用いて、CT や MRI などの画像データから臓器（特に心臓や血管）を 3 次元化（専門的には「可視化」と申します）し、あらゆる角度から心臓内部の立体的形状を解析するという、本邦の画像研究でもかなり先進的な内容でありました。その一方で、技術そのものが最先端過ぎたこともあり、いわゆる先行研究や参考文献が少なく（ほぼ皆無）、また学会では内容を理解されず、論文化を進めるには多大な苦勞がございました。完全な手探り状態で研究を開始した当初は、世界中がコロナ禍にあり、研究遂行は難渋することが予想されました。しかしその予想に反して、日々の打ち合わせは Web ミーティングが主流になり、立命館大学との共同研究の提携や、遠く離れた海外の技術者との情報交換も比較的頻繁にできるようになり、プロジェクトは急速に軌道に乗り始めました。また本学だけでなく、立命館大学の大学院生など、幸いにも多くの研究協力者の方々に恵まれ、特に Vesalius3D の画像精度を動物実験（ブタ摘出心を用いた Ex vivo 実験）で検証した研究成果は、本学のシンポジウムだけでなく複数の国内学会でも高い評価を頂きました。今までの功績・業績は、研究協力者の方々のご協力や、研究の場を提供して下さった外科学講座の恩恵なくしては実現しなかったと思います。現在に至るまで、Ex vivo 実験による画像研究は「血流解析（CFD）」として形を変えながらも、心臓血管外科の診療に貢献すべく、日夜進めているところでございます。また今春、カナダ・トロント大学に短期留学する機会を賜り、渡航先で過去の研究内容をプレゼンさせて頂きました。現地の先生方からは、その技術力の高さにとっても高いご評価を頂き、滋賀医大での研究成果が海外で認められた瞬間は本当に嬉しく思いました。今後もさらなる発展を目指して、日々精進して参りたいと思います。最後に、これまで研究をご支援頂きました鈴木教授をはじめ、放射線科医学講座の永谷講師、共同研究機関である立命館大学情報理工学部の仲田教授、ならびに多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。



実験室での光景 (Ex vivo 実験)

ブタの摘出心に内視鏡カメラと、拍動ポンプを装着した模擬回路を製作しました。真夏の暑い日でしたが、多くの研究協力者の方々のご尽力のお陰で Ex vivo 実験は成功し、論文化にも至りました。改めて心より感謝申し上げます。



CT 室で摘出心臓を撮影する実験

模擬回路で心臓を拍動させて CT 撮影するという、斬新な実験でしたが、皆様のお陰で成功しました。

ありがとうございました。

◎ 2024年度同門会 若手外科医賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

村本 圭史（平成 28 年卒）



このたび、拙稿「食道挿管による吻合部完全離開を回結腸再建で修復した食道切除の1例」（滋賀医大誌 36 巻 1 号）に対し、栄えある「若手外科医賞」を賜りましたことを、大変光栄に存じます。ご推薦、ご審査いただきました諸先生方に、心より御礼申し上げます。

本症例は、術後肺炎に伴う呼吸不全のため再挿管を要した際に食道挿管が生じ、結果として吻合部完全離開をきたした極めて稀有かつ重篤な経過をたどった患者さんを経験したものです。従来、吻合部離開は保存的治療や筋皮弁による修復で対応されることが多い一方、本症例では回結腸再建を選択し、良好な長期経過を得ることができました。本症例報告は、術後管理における挿管操作の重要性を改めて認識するとともに、再建法の選択肢を広げる臨床的示唆を含むものでありました。

今回の成果は、日々の診療における上級医の先生方のご指導、コメディカルスタッフのご協力、そして何より患者さんご家族のご理解とご協力があって初めて成し得たものです。ここに深く感謝申し上げます。

本受賞を励みに、今後も外科臨床の最前線において「安全で確実な手術と周術期管理」を実践しつつ、症例の蓄積と研究成果を発信することで、同門会の発展に微力ながら寄与してまいりたいと存じます。

最後に、日頃より温かくご指導賜っております滋賀医科大学外科学講座の諸先生方、同門の皆様方に心より御礼申し上げます。

◎ 2024年度同門会 若手外科医賞

湖東記念病院 心臓血管外科（執筆時）
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）

宮下 史寛（平成 24 年卒）



この度は、2023年にJournal of Coronary Artery Disease誌に掲載されました論文「An adult case of isolated anomalous origin of the right coronary artery from the main pulmonary artery: Reimplantation of the right coronary artery onto the aorta」に対して過分にも名誉ある若手外科医賞を頂き、誠にありがとうございました。この論文は、医療法人社団昂会 湖東記念病院に赴任していた際に、実際に担当させて頂いた症例を報告したものです。右冠動脈肺動脈起始症はまれな疾患ではあるものの、冠予備能の低下から突然死の原因となる恐れがあり、一般的に手術適応とされています。しかし、これまでの報告では術中の鮮明な画像がないものも多く、今回は術中の鮮明な画像や術中の具体的な pitfall を含めて報告できたことが評価頂けた理由の一つではないかと考えています。

この症例を経験した際にも実感したのですが、ほとんどの外科医は経験の少ない疾患の手術を行うとき、文献検索を行い、過去の症例報告やレビューを参考に術式の検討や手術の注意点を予習することになると思います。このような報告が、後生の外科医の役に立ち、より安全で質の高い手術が提供されることを切に願っています。

最後になりましたが、いつも手術のみならず、外科医として、人としての生き方を指導頂いている滋賀医科大学心臓血管外科 鈴木友彰教授に心から御礼申し上げます。また、いつも手術や我々を支えて頂いている手術室・病棟のスタッフ、医局の先生方にも感謝申し上げます。

同 門 会 便 り

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 1. 滋賀医科大学 外科学講座 (消化器・乳腺・小児・一般外科) | 岩崎利々佳 |
| 2. 滋賀医科大学 外科学講座 (消化器・乳腺・小児・一般外科) | 田中 涼太 |
| 3. 滋賀医科大学 外科学講座 (心臓血管外科) | 齋藤 圭 |
| 4. 滋賀医科大学 外科学講座 (心臓血管外科) | 土田 迪貴 |
| 5. 滋賀医科大学 外科学講座 (心臓血管外科) | 徳持 裕己 |

● 新入会員紹介



岩崎 利々佳

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科） 入局

出身大学：山形大学
（令和4年卒）

令和7年度から滋賀医科大学外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）に入局いたしました、岩崎利々佳と申します。2年間、初期研修医として彦根市立病院で勤務しておりました。研修医2年目に滋賀医科大学乳腺外科で研修の機会をいただき、多くの経験を重ねる中で入局を志しました。まだ臨床医として未熟であり、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、日々研鑽を積み、少しでも早く成長できるよう努力してまいります。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



田中 涼太郎

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科） 入局

出身大学：高知大学
（令和5年卒）

滋賀医科大学同門会の先生方、初めまして。2025年滋賀医科大学消化器外科に入局いたしました、田中涼太郎と申します。出身は彦根市で、東山高校を卒業後高知大学に進学し、初期研修は長浜赤十字病院で行いました。学生のころより外科医のダイナミックな治療とロボット手術のような最先端の医療に惹かれ消化器外科を専攻いたしました。生まれ育った滋賀県の医療に貢献したいと考えております。外科同門会の先生方には今後も様々な場面でお世話になるかと思っております。外科医になるべく誠心誠意努力してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

● 新入会員紹介



齋藤 圭

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科） 入局

出身大学：大分大学
（令和5年卒）

この度、滋賀医科大学外科同門会に入会させていただきました、齋藤 圭と申します。福岡県出身で、大分大学医学部を卒業しました。滋賀医科大学病院初期研修プログラムに所属し、1年目は滋賀県立総合病院、2年目は大学病院で初期研修を行いました。今回ご縁あって、滋賀医科大学心臓血管外科に入局させていただきました。鈴木 友彰教授をはじめとする先生方から、温かく厳しいご指導をいただける環境に感謝しながら、日々の業務に励んでおります。至らぬ点が多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



土田 迪貴

滋賀医科大学外学講座（心臓血管外科） 入局

出身大学：富山大学
（令和5年卒）

2025年度より滋賀医科大学心臓血管外科に入局させていただきました土田 迪貴と申します。

滋賀県出身で中高は光泉高校、大学は富山大学を卒業しました。2年間、近江八幡市立総合医療センターで研修を行った後、滋賀医科大学心臓血管外科に入局させていただきましたことになりました。滋賀医科大学は立ち上がったこと自体がほぼないため、日々右往左往し先生方にはご迷惑をおかけするかと思いますが、誠心誠意頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

● 新入会員紹介



徳持 裕己

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）入局

出身大学：滋賀医科大学
(令和5年卒)

この春、心臓血管外科に入局いたしました。学生のころから憧れであった心臓血管外科で働けることを嬉しく思います。今まで憧れてきた心臓血管外科ですが、実際に働き始めると知らない、できないことばかりで自分の未熟さを痛感する毎日です。それでも少しずつ成長することを目標に充実した日々を送っています。落ち込むことも多いですが、周囲の皆さんに助けられ頑張っています。思いやりを大切に、日々研鑽に努め、その成果を社会に還元していける、そんな医師になれるよう、これからも努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

教室業績

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Takebayashi K, Kaida S, Otake R, Fukuo A, Miyake T, Kojima M, Tani S, Maehira H, Mori H, Ishikawa H, Tani M. HMB/Arg/Gln may improve short-term outcomes after esophagectomy in patients with thoracic esophageal cancer.

Diseases of the Esophagus, 38(1): 1-6, 2025

Maehira H, Mori H, Nitta N, Maekawa T, Nishina Y, Ishikawa H, Takebayashi K, Kaida S, Miyake T, Tani M. Clinical impact of the prognostic nutritional index and skeletal muscle index for the incompleteness of adjuvant chemotherapy for pancreatic cancer with splenic vessels preservation or resection: A nationwide survey of the Japanese Society of Pancreatic Surgery.

Asian Journal of Surgery, 48: 1002-1009, 2025

Kamiya T, Miyake T, Inatomi O, Shimizu T.

A case of sigmoid colon perforation associated with sodium zirconium cyclosilicate in a patient with advanced rectal cancer.

Surgical Case Reports, 11(1): 24-0123, 2025

Maehira H, Tani M, Mori H, Ichikawa D, Kawashima M, Tajima H, Nagakawa Y, Makino I, Yagi S.

Long-term outcomes after spleen-preserving distal pancreatectomy.

Surgery, 175(6): 1570-1579, 2024

Kojima M, Miyake T, Tani S, Sakai S, Nishina Y, Kaida S, Takebayashi K, Maehira H, Mori H, Otake R, Matsunaga T, Ishikawa H, Shimizu T, Tani M.

Perineoplasty for anal incontinence after obstetric anal sphincter injury repair: a case report.

Surgical Case Reports, 10(1): 116, 2024

Hijioka S, Yamashige D, Esaki M, Honda G, Higuchi R, Masui T, Shimizu Y, Ohtsuka M, Kumamoto Y, Katanuma A, Gotohda N, Akita H, Unno M, Endo I, Yokoyama Y, Yamada S, Matsumoto I, Ohtsuka T, Hirano S, Yasuda H, Kawai M, Aoki T, Nakamura M, Hashimoto D, Rikiyama T, Horiguchi A, Fujii T, Mizuno S, Hanada K, Tani M, Hatori T, Ito T, Okuno M, Kagawa S, Tajima H, Ishii T, Sugimoto M, Onoe S, Takami H, Takada R, Miura T, Kurita Y, Kamei K, Mataka Y, Okazaki K, Takeyama Y, Yamaue H, Sato S, and the Japan Pancreas Society Clinical Research Promotion Committee Group (Corporate Authorship).

Factors affecting nonfunctioning small pancreatic neuroendocrine neoplasms and proposed new treatment strategies.

Clinical Gastroenterology and Hepatology, 22(7): 1416-1426, 2024

Zhou X, LeBleu VS, Fletcher-Sananikone E, Kim J, Dai J, Li B, Wu CC, Sugimoto H, Miyake T, Becker LM, Volpert OV, Lawson E, Espinosa Da Silva C, Patel SI, Kizu A, Ehsanipour EA, Sha D, Karam JA, McAndrews KM, Kalluri R.

Vascular heterogeneity of tight junction Claudins guides organotropic metastasis.

Nature Cancer, Sep 5(9): 1371-1389, 2024

Mori H, Miyake T, Maehira H, Shiohara M, Iida H, Nitta N, Tani M.

Contribution of immunoscore to survival prediction in pancreatic ductal adenocarcinoma.

Anticancer Research, 44 (10): 4483-4492, 2024

〈和文学術論文〉

塩見一徳, 竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 福尾飛翔, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 新田信人, 村本圭史, 仁科勇佑, 石川 原, 谷 眞至

食道アカラシア合併進行食道癌に対して胸腔鏡手術を施行した1例
滋賀医大雑誌, 38(1): 56-61, 2025

山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 大橋夏子, 井田昌吾, 栗原美香, 上西祐輝, 山口雅之, 武村佳奈子, 鵜飼征子, 久米真司, 目片英治, 谷 眞至

外科治療コーナー スリーブ状胃切除術後の肺血栓塞栓症の検討
肥満症治療学展望, 13(1): 2-3, 2025

貝田佐知子, 馬場重樹

胃癌に対する幽門側胃切除術後の半固形食を用いた¹³C呼気試験による胃排出能の検討
消化と吸収, 46(2): 109-113, 2024

川脇拓磨, 石川 原, 坂井幸子, 高橋顕雅, 三宅 亨, 谷 眞至

妊娠後期の急性虫垂炎に対して腹腔鏡補助下虫垂切除術を行った1例
日本内視鏡外科学会誌, 29(5): 354-359, 2024

油木純一, 草野佑仁, 大恵匡俊, 山本 寛

Riedel葉が腹部診察と腹腔鏡手術に影響した急性虫垂炎の1例
日本腹部救急医学会雑誌, 44(5): 723-726, 2024

川脇拓磨, 坂井幸子, 久保田良浩, 谷 眞至

肛門管の閉鎖を合併した直腸閉鎖の1例
日本小児外科学会雑誌, 60(6): 934-938, 2024

富田 香, 城山理帆, 木藤寛敬, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 河合由紀, 梅田朋子, 石川 原, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至

T1a乳癌の腋窩リンパ節再発に対し腋窩郭清と集学的治療を再施行した2例
癌と化学療法, 51(13): 1339-1341, 2024

松永隆志, 貝田佐知子, 三宅 亨, 竹林克士, 大竹玲子, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 新田信人, 竹中裕一, 内藤聖哉, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至

胃癌との重複癌に対してロボット支援下で同時手術を施行した3例
癌と化学療法, 51(13): 1464-1466, 2024

内藤聖哉, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 谷 総一郎, 小島正継, 大竹玲子, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 新谷修平, 稲富 理, 谷 眞至

膵癌術後3年目に発見され胃局所切除術を施行したNeedle Tract Seedingの1例
癌と化学療法, 51(13): 1552-1554, 2024

谷 眞至, 前平博充, 森 治樹, 新田信人

胆道癌・膵癌に対する膵頭十二指腸切除後の胃内容排泄遅延
胆と膵, 45(12): 1715-1718, 2024

【学会発表】

〈国際学会〉

Maehira H, Nitta N, Ishikawa H, Maekawa T, Sonoda T, Otake R, Tani S, Takebayashi K, Kojima M, Kaida S, Miyake T, Tani M.

Preoperative nomogram based on DUPAN-2, tumor size, and neutrophil/lymphocyte ratio (DIZNEY score) for deciding the appropriate time of radical resection for pancreatic cancer,
Society of Surgical Oncology SSO 2025. Annual Meeting, March 2025, Tampa (Florida)

Maehira H, Mori H, Nitta N, Ishikawa H, Maekawa T, Tani S, Takebayashi K, Kojima M, Kaida S, Miyake T, Tani M.
Risk factors of early recurrence after radical resection for pancreatic cancer.
16th IHPBA World Congress, Cape Town, South Africa, May 2024

Otake R.

Outcome after radical gastrectomy in elderly patients with gastric cancer; A subgroup analysis comparing MIG and laparotomy.

International Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA) 2024, August 2024, Bali

〈全国学会〉

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 村本圭史, 全 有美, 貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
局所進行直腸癌に対する Total neoadjuvant therapy 中に病勢進行を認めた3例に関する検討
第102回大腸癌研究会学術集会, 2025年1月, 別府

貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 浦野あゆみ, 西田 香, 栗原美香, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨,
石川 原, 馬場重樹, 谷 眞至
胃癌患者術前術後の半固形食を用いた¹³C呼気試験による胃排出能の比較検討
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

竹林克士, 貝田佐知子, 福尾飛翔, 栗原美香, 大井彰子, 浦野あゆみ, 上田涼葉, 小泉花奈絵, 三宅 亨, 小島正継,
前平博充, 石川 原, 谷 眞至
胸部食道癌手術後感染性合併症予防のための術期栄養管理の工夫
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

前平博充, 竹林克士, 福尾飛翔, 谷 総一郎, 小島正継, 貝田佐知子, 石川 原, 三宅 亨, 谷 眞至
膵体尾部切除後におけるパンクレリパーゼ早期投与の臨床的意義
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

石川 原, 前平博充, 三宅 亨, 貝田佐知子, 竹林克士, 小島正継, 福尾飛翔, 谷 総一郎, 谷 眞至
高齢者肝細胞癌に対する肝切除の治療成績と肝機能回復
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

福尾飛翔, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 石川 原, 谷 眞至
食道切除後胃管再建と回結腸再建の術後栄養指標の推移の比較
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

竹林克士, 貝田佐知子, 福尾飛翔, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 栗原美香, 西田 香, 浦野あゆみ,
魚谷奈央, 石川 原, 馬場重樹, 谷 眞至
食道癌術後早期在宅経腸栄養例における体重減少のリスク因子に関する検討
第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

大竹玲子, 貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 前平博充, 谷 総一郎, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至
LECS胃局所切除困難と判断し、ロボット支援下噴門側胃切除術を行った胃体上部GISTの一例
第17回日本ロボット外科学会学術集会, 2025年3月, 宇都宮

福尾飛翔, 貝田佐知子, 大竹玲子, 竹林克士, 新田信人, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原,
谷 眞至
残胃癌に対するロボット支援下残胃全摘術の検討
第17回日本ロボット外科学会学術集会, 2025年3月, 宇都宮

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 村本圭史, 新田信人, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原,
谷 眞至
ロボット支援下手術で用いるエネルギーデバイス先端の温度変化と出力との関連性の検討
第17回日本ロボット外科学会学術集会, 2025年3月, 宇都宮

福尾飛翔, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 三宅 亨, 前平博充, 小島正継, 谷 総一郎, 石川 原, 谷 眞至
胃体上部の胃粘膜下腫瘍に対する胃局所切除術の限界
第 97 回日本胃癌学会総会, 2025 年 3 月, 名古屋

大竹玲子, 貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至
当院における噴門側胃切除術の手術成績 - 再建法と術後合併症の検討
第 97 回日本胃癌学会総会, 2025 年 3 月, 名古屋

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 園田雄士, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨,
石川 原, 谷 眞至
hinotori による胃癌 / 食道胃接合部癌に対するロボット支援下胃切除術の短期成績と fusion surgery の工夫
第 97 回日本胃癌学会総会, 2025 年 3 月, 名古屋

貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 大竹玲子, 村本圭史, 新田信人, 前平博充, 谷 総一郎, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原,
谷 眞至
胃癌症例の Oncologic emergency - 穿孔, 出血, 狭窄症例の治療戦略 -
第 61 回日本腹部救急医学会総会, 2025 年 3 月, 名古屋

村田 聡, 竹林克士, 貝田佐知子, 小島正継, 三宅 亨, 大竹玲子, 松永隆志, 前平博充, 森 治樹, 谷 総一郎, 清水智治,
目片英治, 谷 徹, 谷 眞至
外科医が抱く臨床的疑問を, 基礎研究を通して外科医の視点から解明し, 新たな治療法開発へと導くダイナミズム
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 石川 原,
谷 眞至
咽頭喉頭食道全摘・遊離空腸付加胃管再建症例における中長期的栄養評価も含めた治療成績の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

三宅 亨, 安川大貴, 前川 毅, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 仁科勇佑, 大竹玲子, 森 治樹, 前平博充, 竹林克士,
貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
大腸癌における Claudin9 発現の臨床的意義と癌微小環境の影響
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

小島正継, 三宅 亨, 馬場重樹, 竹林克士, 谷 総一郎, 全 有美, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 前平博充, 森 治樹,
大竹玲子, 松永隆志, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
サルコペニアが大腸癌 pStage III 症例の術後短期および長期予後に与える影響に関する検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

松永隆志, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 村田 聡, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 谷 総一郎, 森 治樹,
仁科勇佑, 内藤聖哉, 清水智治, 石川 原, 谷 眞至
胃悪性疾患に対する根治的胃切除術後の腹腔内感染性合併症予測因子についての検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

園田雄士, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 内藤聖也, 貝田佐知子, 三宅 亨, 竹林克士, 小島正継,
谷 総一郎, 谷 眞至
膣頭十二指腸切除術後コロナゼパム休薬による短期精神障害をきたした 1 例
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

貝田佐知子, 竹林克士, 松永隆志, 大竹玲子, 村田 聡, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原,
谷 眞至
進行胃癌に対するロボット支援下胃切除術の有用性と多機種ロボットそれぞれの特徴の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 清水智治, 全 有美, 貝田佐知子, 石川 原, 前平博充, 竹林克士, 大竹玲子, 森 治樹, 松永隆志, 竹中裕一, 内藤聖哉, 谷 眞至
当院における BRAF V600E 変異陽性大腸癌 7 例の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

新田信人, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 前川 毅, 三宅 亨, 貝田佐知子, 竹林克士, 谷 眞至
肝切除における Clavien-Dindo grade IIIa 以上の術後合併症の危険因子の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵頭十二指腸切除後早期液貯留部位と術後合併症との関連性に基づいた至適ドレーン留置部位の検証
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

前川 毅, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 前平博充, 竹林克士, 松永隆志, 谷 眞至
大腸癌術後腹腔内癒着形成の予測因子としてのレプチンの有用性
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

小島正継, 三宅 亨, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森 治樹, 大竹玲子, 松永隆志, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
鼠径ヘルニアに対して TAPP 術後 5mm ポートサイトヘルニアを発症した 1 例
第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024 年 5 月, 新潟

坂井幸子, 川脇拓磨, 久保田良浩, 谷 眞至
当科で経験した小児卵巣悪性胚細胞腫瘍の 3 症例
第 61 回日本小児外科学会学術集会, 2024 年 5 月, 福岡

Maehira H, Mori H, Ishikawa H, Nitta N, Maekawa T, Tani M.
Biological characteristics of early recurrence after radical resection for pancreatic cancer.
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024 年 6 月, 広島

Nitta N, Maehira H, Mori H, Ishikawa H, Maekawa T, Tani M.
Risk factors of early recurrence after liver resection for colorectal liver metastases
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024 年 6 月, 広島

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至
食道胃接合部癌に対する根治手術における定型化および低侵襲化の取り組み
第 78 回日本食道学会学術集会, 2024 年 7 月, 東京

谷 眞至
会長講演：手術のメスと科学のメスの融合で進化するがん免疫療法の新時代
第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

三宅 亨, 仁科勇佑, 小島正継, 谷 総一郎, 村本圭史, 新田信人, 大竹玲子, 前平博充, 貝田佐知子, 谷 眞至
大腸癌微小環境における Lachnospiraceae と臨床的意義に関する検討
第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

大竹玲子, 貝田佐知子, 竹林克士, 森 治樹, 小島正継, 三宅 亨, 前平博充, 谷 眞至
切除不能進行・再発食道癌に対する ICI 療法の安全性と有効性：当院における症例検討
第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 貝田佐知子, 前平博充, 竹林克士, 清水智治, 谷 眞至
直腸癌術前治療における効果予測因子としての腫瘍浸潤リンパ球数の検討
第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

村田 聡, 森 治樹, 三宅 亨, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 竹林克士, 貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 目片英治, 谷 眞至

TMB-High 進行 / 再発消化器癌への抗 PD-1 阻害薬の治療効果

第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

貝田佐知子, 大竹玲子, 仁科勇佑, 村本圭史, 森 治樹, 小島正継, 三宅 亨, 谷 眞至

化学療法+ニボルマブ療法による切除不能進行・再発胃癌治療の安全性と有効性の検証: 当院における 42 例の症例検討

第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

新田信人, 近藤健太, 寺田晃士, 永野誠治, 三宅 亨, 谷 眞至, 河本 宏, 縣 保年

サイトカインに着目した iPS 細胞由来の再生 T 細胞の抗腫瘍活性の検討

第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

村本圭史, 三宅 亨, 新田信人, 仁科勇佑, 全 有美, 小島正継, 谷 総一郎, 貝田佐知子, 前平博充, 谷 眞至

ヒト大腸癌における Fibroblast activation protein- α 発現による免疫環境への影響

第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024 年 7 月, 東京

大竹玲子, 竹林克士, 貝田佐知子, 松永隆志, 三宅 亨, 石川 原, 荒田 順, 新井宏幸, 清水猛史, 谷 眞至

食道癌術後の頭頸部癌手術 / 遊離空腸再建の治療成績

第 78 回 日本食道学会学術集会, 2024 年 7 月, 東京

竹林克士, 貝田佐知子, 村田 聡, 大竹玲子, 松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 石川 原, 谷 眞至

食道癌切除後胸腔内洗浄液から細胞培養で検出された遊離癌細胞の臨床的意義

第 78 回日本食道学会学術集会, 2024 年 7 月, 東京

新田信人, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 前川 毅, 三宅 亨, 小島正継, 貝田佐知子, 竹林克士, 谷 眞至

大腸癌肝転移切除後の早期再発の危険因子の検討

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 谷 眞至

胸部食道癌周術期における術前アバンド内服の有用性

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

内藤聖哉, 三宅 亨, 谷 眞至

十二指腸周囲に癒着を伴う Persistent Descending Mesocolon 直腸癌の一例

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

前川 毅, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 貝田佐知子, 前平博充, 竹林克士, 松永隆志, 谷 眞至

臨床データとマウス癒着モデルを用いたレプチンの腹腔内癒着形成に対する影響の検討

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至

高齢者大腸癌における腸内細菌叢に関する検討

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

森 治樹, 前平博充, 石川 原, 新田信人, 貝田佐知子, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 竹林克士, 谷 眞至

抗血栓薬内服が肝切除術後の周術期合併症に及ぼす影響について

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

村田 聡, 森 治樹, 三宅 亨, 前平博充, 小島正継, 貝田佐知子, 竹林克士, 清水智治, 目片英治, 谷 眞至

切除不能進行 / 再発消化器がんに対するゲノム医療の奏効例

第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

谷 総一郎, 三宅 亨, 小島正継, 仁科勇佑, 清水智治, 貝田佐知子, 石川 原, 前平博充, 竹林克士, 谷 眞至
S状結腸・直腸切除症例における経肛門ドレーンの有効性の検討
第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
大腸癌傍大動脈リンパ節転移に対する治療成績の検討
第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

貝田佐知子, 村上陽子, 政木勇人, 鈴木裕紀, 永谷幸裕, 大竹義人, 佐藤嘉伸, 木戸尚治, 渡邊嘉之, 谷 眞至
術前 CT 画像から AI が予測する胃・周囲臓器と血管の自動認識システムの開発と確信度の検証
第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

北村美奈, 辰巳征浩, 富田 香, 河合由紀, 森 毅, 梅田朋子, 谷 眞至
当院乳腺外科における BRCA 陽性乳癌症例の検討と今後の課題
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

城山理帆, 富田 香, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 森 毅, 梅田朋子, 石川 原, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至
乳癌の転移再発と鑑別を要したシェーグレン症候群のリンパ節腫脹の一例
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

梅田朋子, 早藤清行, 油木純一, 澤田佳奈, 児玉創太, 木田陸士, 大恵匡俊, 八木俊和, 向所賢一, 谷 眞至,
来見良誠
ソナゾイド造影エコーガイド下針生検により、サブタイプの変化した肝転移を診断し得た1例
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

辰巳征浩, 富田 香, 北村美奈, 坂井幸子, 森 毅
腺扁平上皮癌に対しペムプロリズマブ併用術前補助化学療法が奏功した1例
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

富田 香, 城山理帆, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 梅田朋子, 石川 原, 目片英治, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至
軽微な症状で発見された肉芽腫性乳腺炎の2例
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

森 毅, 辰巳征浩, 北村美奈, 富田 香, 坂井幸子, 梅田朋子, 塩原正規, 森谷鈴子, 谷 眞至
線維腺腫内に発生した浸潤性乳管癌の1例
第32回日本乳癌学会学術総会, 2024年7月, 仙台

内藤聖哉, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 谷 総一郎, 小島正継, 大竹玲子, 竹林克士,
貝田佐知子, 三宅 亨, 新谷修平, 稲富 理, 谷 眞至
膵体部癌術後胃壁への needle tract seeding に対して胃部分切除を行った一例
第55回日本膵臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

前平博充, 森 治樹, 新田信人, 石川 原, 前川 毅, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵癌に対する切除時期選定のためのスコア:TDR スコア
第55回日本膵臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

里井壯平, 藤井 努, 平林健一, 大池信之, 谷 眞至, 眞杉洋平, 上野 誠, 中井陽介, 石田晶玄, 橋本大輔, 海野倫明
腹膜細胞診陽性症例に関する改訂ポイントと今後の課題
第55回日本膵臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

田中晴祥, 平林健一, 藤井 努, 深澤美奈, 渋谷和人, 大池信之, 上野 誠, 水井崇浩, 石田晶玄, 江川新一, 古川 徹,
永川裕一, 糸井隆夫, 北川裕久, 眞杉洋平, 谷 眞至, 福嶋敬宜, 里井壯平, 海野倫明, 竹山宜典
腹腔細胞診の改訂とこれからの課題-CY1膵癌に対する治療戦略のパラダイムシフト-
第55回日本膵臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

岡本拓也, 新谷修平, 廣江光亮, 前平博充, 石川原, 稲富理, 谷眞至
膵周囲液貯留に対する超音波内視鏡を用いた経消化管的ドレナージの治療成績
第55回日本膵臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

小島正継, 三宅亨, 谷総一郎, 仁科勇佑, 村本圭史, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森治樹, 大竹玲子,
石川原, 清水智治, 谷眞至
当院での家族性大腸腺腫症手術症例の検討
第101回大腸癌研究会学術集会, 2024年7月, 名古屋

前川毅, 三宅亨, 前平博充, 貝田佐知子, 谷眞至, 上本伸二
RNA-seqを用いた膵癌細胞に対するアスコルビン酸の活性酸素種を介したアポトーシス誘導効果と低酸素環境による耐性機序の検討
第83回日本癌学会学術総会, 2024年9月, 福岡

磯村久徳, 森治樹, 周爽, 梶野泰祐, 阿部雄一, 三宅亨, 細田和貴, 小森康司, 谷眞至, 田口歩
大腸癌腹膜転移関連分子 Avil の同定とその機能解析
第83回日本癌学会学術総会, 2024年9月, 福岡

下地みゆき, 村田聡, 小島正継, Sihombing Andreas M, 児玉泰一, 北村直美, 竹林克士, 森治樹, 北村美奈,
徳田彩, 三宅亨, 目片英治, 谷眞至
ヒト膵臓がん細胞株を用いた42度の温熱療法によるアポトーシスとフェロトーシスへの影響
第83回日本癌学会学術総会, 2024年9月, 福岡

下地みゆき, Andreas M.Sihombing, 村田聡, 竹林克士, 谷眞至
ヒト膵臓がん細胞に対する温熱作用のCD44発現、アポトーシス、オートファジー、フェロトーシスへの影響
日本ハイパーサーミア学会第41回大会, 2024年9月, 東京

木藤寛敬, 坂井幸子, 廣畑吉昭, 谷眞至
稀な腸管形態異常により発症し胎児診断がつかなかった胎便性腹膜炎の1例
第40回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2024年10月, 東京

森治樹, 前平博充, 石川原, 新田信人, 新谷修平, 岡本拓也, 稲富理, 谷眞至
進行・再発胆道癌症例に対する免疫チェックポイント阻害薬の有用性についての検討
第60回日本胆道学会学術集会, 2024年10月, 名古屋

前平博充, 吉田均, 森治樹, 石川原, 吉田久美, 中島章太, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅亨, 谷眞至
腹腔鏡下胆嚢摘出術における臨床工学技士のスコープオペレーター導入の有用性
第60回日本胆道学会学術集会, 2024年10月, 名古屋

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 森治樹, 谷総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅亨, 石川原,
谷眞至
進行胃癌に対する多機種を用いたロボット支援下胃切除術それぞれの工夫
第62回日本癌治療学会学術集会, 2024年10月, 福岡

前平博充, 辻喜久, 森治樹, 新田信人, 前川毅, 石川原, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅亨, 新谷修平,
稲富理, 谷眞至
膵臓における術前化学療法に対する腫瘍内血流速度の臨床的意義
第62回日本癌治療学会学術集会, 2024年10月, 福岡

村本圭史, 三宅亨, 谷総一郎, 小島正継, 仁科勇佑, 全有美, 貝田佐知子, 石川原, 谷眞至
Double stapling technique 吻合における縫合不全リスク因子の検討
第62回日本癌治療学会学術集会, 2024年10月, 福岡

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 村本圭史, 森 治樹, 大竹玲子, 前平博充, 竹林克士,
貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
直腸癌に対する術前治療が腫瘍浸潤リンパ球や癌周囲の線維化に与える影響
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

貝田佐知子, 村上陽子, 谷 眞至
AI 画像診断とロボット支援下胃切除術の融合による胃癌治療の先進的アプローチ
第 22 回日本消化器外科学会大会
第 66 回日本消化器病学会大会, 第 108 回日本消化器内視鏡学会総会, 2024 年 10 月, 神戸

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 貝田佐知子, 前平博充, 竹林克士, 井上明星, 清水智治, 谷 眞至
直腸癌 MRI における壁外静脈管侵襲と tumor deposit に関する検討
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

前平博充, 辻 喜久, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 石川 原, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 新谷修平, 稲富 理,
谷 眞至
膵癌腫瘍内血流速度による術前治療戦略
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 石川 原,
谷 眞至
80 歳以上の高齢者食道癌の治療成績と周術期支持療法の見直し
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

大竹玲子, 三宅 亨, 貝田佐知子, 竹林克士, 松永隆志, 瀬山鈴子, 越沼伸也, 谷 眞至
上部消化管手術における周術期口腔内細菌叢の変化と臨床像
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 大竹玲子, 森 治樹, 仁科勇佑,
竹中裕一, 内藤聖哉, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
緩和的ストーマ造設術の短期・長期成績 - 生活の質改善に向けて -
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

小島正継, 三宅 亨, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 大竹玲子, 森 治樹, 松永隆志,
清水智治, 谷 眞至
当院での若年性大腸癌手術症例の遺伝性および臨床病理学的特徴に関する検討
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 森 治樹, 大竹玲子, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 石川 原,
清水智治, 谷 眞至
マイクロ波エネルギーデバイスを用いた経会陰的アプローチ併用鏡視下直腸切断術の 4 例
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

新田信人, 前平博充, 石川 原, 森 治樹, 前川 毅, 三宅 亨, 貝田佐知子, 竹林克士, 谷 眞至
腹腔鏡下肝切除における術後合併症の危険因子の検討
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

前川 毅, 三宅 亨, 前平博充, 貝田佐知子, 谷 眞至, 上本伸二
網羅解析を用いたアスコルビン酸の膵癌細胞に対する効果と低酸素環境による耐性獲得の機序解明への挑戦
第 22 回日本消化器外科学会大会, 2024 年 10 月, 神戸

清水智治, 三宅 亨, 貝田佐知子, 石川 原, 谷 眞至
手術診療における医療安全管理
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

膵頭十二指腸切除におけるドレーン留置方法の重要性－ドレーンは身を助く－

第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

前平博光, 吉田 均, 石川 原, 森 治樹, 吉田久美, 中島章太, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

医師視点からみた臨床工学技士によるスコープオペレーター導入の有用性－腹腔鏡下胆嚢摘出術－

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

福尾飛翔, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 三宅 亨, 前平博充, 小島正継, 森 治樹, 谷 総一郎, 石川 原, 谷 眞至

手術支援 AI システム Eureka を用いた手術教育効果の検討

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

ロボット支援下胃切除術における Linear Stapler による吻合時のトラブルシューティング

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森 治樹, 大竹玲子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至

当院における若年性大腸癌の臨床像

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

森 治樹, 前平博充, 石川 原, 園田雄士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 竹林克士, 大竹玲子, 小島正継, 谷 総一郎, 村本圭史, 谷 眞至

ドレーン排液データは肝切除術後の合併症の予測因子となるか？

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 福尾飛翔, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 谷 眞至

当院における食道がん化学療法の現状と継続可能な体制構築に向けた課題

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

園田雄士, 前平博充, 石川 原, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 三宅 亨, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 谷 総一郎, 小島正継, 谷 眞至

Gemcitabine+Cisplatin+Durvalumab 療法が著効し R0 切除し得た切除不能進行胆嚢癌の 1 例

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

食道胃接合部癌手術の低侵襲化に向けた取り組み－ロボット支援下手術および胸腔鏡下手術－

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

大竹玲子, 貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

当科における噴門側胃切除術の手術成績－再建法と術後合併症の検討－

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

森 治樹, 前平博充, 石川 原, 三宅 亨, 貝田佐知子, 小島正継, 竹林克士, 前平博充, 谷 総一郎, 大竹玲子, 谷 眞至

技術認定取得に向けた低侵襲肝胆膵手術の定型化への取り組み

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

竹林克士, 貝田佐知子, 大竹玲子, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 谷 眞至
後期高齢者食道癌患者に対する胸腔鏡下食道亜全摘術の検討
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

前平博充, 吉田 均, 石川 原, 森 治樹, 吉田久美, 中島章太, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継,
貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
地方大学病院での腹腔鏡下胆嚢摘出術における臨床工学技士によるスコープオペレーター導入の意義
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 谷 総一郎, 森 治樹, 村田 聡, 赤堀浩也,
北村直美, 寺田好孝, 目片英治, 谷 眞至
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の減量効果不良予測に関する検討
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

谷 総一郎, 三宅 亨, 小島正継, 村本圭史, 石川 原, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森 治樹, 大竹玲子,
福尾飛翔, 谷 眞至
Low-grade appendiceal mucinous neoplasm (LAMN) に対し腹腔鏡手術を行った 8 例
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

福尾飛翔, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 三宅 亨, 前平博充, 小島正継, 谷 総一郎, 森 治樹, 石川 原,
谷 眞至
当科での残胃癌に対するロボット支援下手術
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

前川 毅, 三宅 亨, 向所賢一, 谷 眞至, 上本伸二
膀胱癌細胞に対するアスコルビン酸の抗腫瘍効果と低酸素環境による耐性獲得機序解明への挑戦
第 35 回日本消化器癌発生学会総会, 2024 年 11 月, 東京

小島正継, 三宅 亨, 谷 総一郎, 村本圭史, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 大竹玲子, 森 治樹,
石川 原, 清水智治, 谷 眞至
クローン病手術症例において再手術を回避するために必要なストラテジー
第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

貝田佐知子, 竹林克士, 栗原美香, 大竹玲子, 福尾飛翔, 園田雄士, 城山理帆, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継,
三宅 亨, 石川 原, 中西直子, 馬場重樹, 谷 眞至
胃癌患者の半固形食を用いた¹³C 呼気試験による術前術後の胃排出能の比較検討
第 55 回日本消化吸収学会総会, 2024 年 11 月

〈研究会・その他〉

森 治樹, 前平博充, 石川 原, 新田信人, 貝田佐知子, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 竹林克士, 大竹玲子,
谷 眞至
進行肝細胞癌に対する薬物療法中に重症サイトカイン放出症候群を経て、最終的に Conversion 手術を施行し得た 1 例
第 31 回日本肝がん分子標的治療研究会, 2025 年 1 月, 岡山

三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 村本圭史, 仁科勇佑, 大竹玲子, 前平博充, 貝田佐知子, 石川 原, 谷 眞至
大腸癌原発巣と肝転移において細菌叢は異なる
日本消化器病学会近畿支部第 122 回例会, 2025 年 2 月, 京都

城山理帆, 石川 原, 前平博充, 新田信人, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨,
谷 眞至
肝臓に発生した Reactive lymphoid hyperplasia の一例
第 208 回近畿外科学会, 2025 年 3 月, 大阪

三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 仁科勇佑, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至

Immunoscore に基づく大腸癌の微生物学のおよび免疫学的特徴

第 33 回日本癌病態治療研究会, 2024 年 5 月, 唐津

大竹玲子, 貝田佐知子, 竹林克士, 松永隆志, 前平博充, 谷 総一郎, 小島正継, 三宅 亨, 清水彩永, 夜西麻椰, 久米真司, 谷 眞至

胃癌術後再発に対し化学療法 +ICI 治療中に劇症 1 型糖尿病を発症した 1 例

第 33 回日本癌病態治療研究会, 2024 年 5 月, 唐津

新田信人, 近藤健太, 寺田晃士, 永野誠治, 三宅 亨, 谷 眞至, 河本 宏, 縣 保年

サイトカインに着目した iPS 細胞由来の再生 T 細胞の抗腫瘍活性の検討

第 45 回癌免疫外科研究会, 2024 年 5 月, 横浜

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 仁科勇佑, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

hinotori によるロボット支援下手術におけるエネルギーデバイス先端の温度変化と出力との関連性の検討

第 78 回手術手技研究会, 2024 年 6 月, 福岡

富田 香, 城山理帆, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 梅田朋子, 石川 原, 森谷鈴子, 谷 眞至

T1a 乳癌の腋窩リンパ節再発に対し集学的治療を再施行した 2 例

第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

竹林克士

ICI 併用療法による進行再発食道癌への挑戦 (ランチョンセミナー)

第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

小島正継, 三宅 亨, 谷 総一郎, 仁科勇佑, 村本圭史, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 森 治樹, 大竹玲子, 福尾飛翔, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至

TAPP 術後に 5mm ポート孔に生じたポートサイトヘルニアの 1 例

第 22 回滋賀ヘルニア研究会, 2024 年 7 月, 大津

福尾飛翔

当科における残胃癌に対するロボット支援下手術の短期成績の検討

第 88 回滋賀消化器研究会, 2024 年 7 月, 大津

三宅 亨

進行直腸癌に対する total neoadjuvant therapy の治療成績と手術における問題点と工夫

第 88 回滋賀消化器研究会, 2024 年 7 月, 大津

貝田佐知子

読売新聞しが県民情報「病院の実力」胃がん食習慣の見直し大切

読売新聞, 2024 年 8 月 25 日掲載

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

食道胃接合部癌に対する hinotori によるロボット支援下手術 - 定型化および低侵襲化の取り組み -

日本消化器病学会近畿支部第 121 回例会, 2024 年 9 月, 京都

井上博登, 松本寛史, 木村英憲, 竹林克士, 貝田佐知子, 西田淳史, 稲富 理, 谷 眞至

切除不能進行再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害薬と化学療法併用療法の有効性・安全性に関する検討

日本消化器病学会近畿支部第 121 回例会, 2024 年 9 月, 京都

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 福尾飛翔, 園田雄士, 村本圭史, 森 治樹, 谷 総一郎, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

亜全胃温存膵頭十二指腸切除後7年での胃噴門部癌に対し、ロボット支援下残胃全摘術を施行した1例
第121回滋賀県外科医会, 2024年10月, 草津

松永隆志, 貝田佐知子, 水本明良, 大竹玲子, 竹林克士, 大江康光, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 谷 眞至

神経性過食症に伴う過食後、急性胃拡張で胃壊死を来し胃全摘術後、二期的再建を行い自宅退院可能となった1例
第121回滋賀県外科医会, 2024年10月, 草津

前平博充, 森 治樹, 新田信人, 石川 原, 前川 毅, 園田雄士, 城山理帆, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

膵癌根治切除後における早期再発予測: DIZNEY スコア
第121回滋賀県外科医会, 2024年10月, 草津

貝田佐知子, 竹林克士, 福尾飛翔, 大竹玲子, 森 治樹, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 石川 原, 谷 眞至

hinotoriによる胃癌/食道胃接合部癌に対するロボット支援下胃切除術の短期成績と工夫
第54回胃外科・術後障害研究会, 2024年11月, 仙台

森 治樹, 前平博充, 石川 原, 新田信人, 大竹玲子, 谷 総一郎, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

頭背側領域に対する腹腔鏡下系統的肝切除術の工夫
第18回肝臓内視鏡外科研究会, 2024年11月, 宇都宮

城山理帆, 富田 香, 木藤寛敬, 辰巳征浩, 廣畑吉昭, 北村美奈, 坂井幸子, 小幡峻平, 富田靖之, 石川 原, 梅田朋子, 谷 眞至

トラスツズマブエムタンシンによる角膜上皮障害をきたした症例
第22回日本乳癌学会近畿地方会, 2024年11月

富田 香

社会2、早期乳がん新治療切除不要で負担減
京都新聞, 2024年12月18日掲載

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科）

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Watanabe Y, Suzuki T.

Computational fluid dynamics to simulate stenotic lesions in coronary end-to-side anastomosis. Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery. 40(2): ivaf013, 2025

Hachiro K, Takashima N, Suzuki T.

Long-term outcomes after aortic valve replacement for aortic valve regurgitation - Importance of left ventricular end-Systolic diameter.

Circulation Journal. 88(12): 1955-1961, 2024

Wakisaka H, Miwa S, Matsubayashi Y, Mori Y, Lee J, Kamiya K, Takashima N, Suzuki T.

Moderate hypothermia circulatory arrest as a brain-protective strategy for type A aortic dissection.

Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery, 39(4): ivae166, 2024

【論文発表】

〈和文学術論文〉

垣内泰生, 鉢呂康平, 五十川賢司, 杉村周亮, 森谷鈴子, 鈴木友彰

急速拡大する重複大動脈瘤に対して早期の二期的手術を行った症例

日本血管外科学会雑誌, 33: 275279, 2024年

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

高島範之, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘, 島田ゆうじ, 松林優児, 奥田進太郎, 宮下史寛, 鈴木友彰

In-situ 両側内胸動脈を用いた CABG の長期予後 - 20 年の経験から -

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

神谷賢一, 永谷幸裕, 鈴木康平, 宮崎翔平, 仲田 晋, 鈴木友彰

Ex-vivo 冠動脈バイパスモデルを用いた端側吻合における狭窄病変の数値流体解析

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

鈴木友彰, 高島範之, 宮下史寛, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 島田ゆうじ, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘

全動脈グラフト再建における LITA-CX 吻合の効果と注意点

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

鈴木友彰, 高島範之, 宮下史寛, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 島田ゆうじ

VSP 手術前後におけるインペラ活用法の確立 ~ 0 - WARS 効果の実証 ~

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

鉢呂康平, 高島範之, 宮下史寛, 三輪駿太, 松林優児, 奥田進太郎, 島田ゆうじ, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘,

鈴木友彰

急性心筋梗塞後心室中隔穿孔に対する Impella の有効性

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

森 陽太郎, 鈴木友彰, 高島範之, 近藤康夫, 脇坂穂高, 角 宏明, 垣内泰生, 西村知起

急性 A 型大動脈解離に対する当施設における術後一酸化窒素吸入療法の治療成績

第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

西村知起, 榎本匡秀, 鈴木友彰

ガイドワイヤー抜去により生じた急性三尖弁閉鎖不全症に対し三尖弁形成を要した一例
第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

横山千紘, 高島範之, 田中 拓, 松井 英, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 三輪駿太, 松林優児, 宮下史寛, 鈴木友彰
胸骨後面に人工血管の強固な癒着を認め、右開胸による AVR を行った Marfan 症候群の 1 例
第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

松林優児, 横山千紘, 松井 英, 田中 拓, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 三輪駿太, 宮下史寛, 高島範之, 鈴木友彰
心房性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対する弁輪形成術と弁置換術の術後短・中期成績
第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

三輪駿太, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 宮下史寛, 高島範之, 鈴木友彰
透析患者における胸部大動脈疾患の開胸手術の早期および長期成績
第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会, 2025 年 2 月, 山口

松林優児, 松井 英, 田中 拓, 横山千紘, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 宮下史寛, 高島範之, 鈴木友彰
急性心筋梗塞後に左室仮性瘤を合併した一例
第 208 回近畿外科学会, 2025 年 3 月, 大阪

田中 拓, 高島範之, 松井 英, 横山千紘, 島田ゆうじ, 松林優児, 奥田進太郎, 宮下史寛, 鈴木友彰
一尖弁の超重症大動脈弁狭窄症による心不全に対して救急大動脈弁置換術により救命できた一例
第 208 回近畿外科学会, 2025 年 3 月, 大阪

島田ゆうじ, 高島範之, 松井 英, 田中 拓, 横山千紘, 奥田進太郎, 宮下史寛, 鈴木友彰
冠動脈バイパス術後の胃切除で、GEA グラフトの血流を温存できた 1 例
第 38 回日本血管外科学会近畿地方会, 2025 年 3 月, 和歌山

松林優児, 横山千紘, 松井 英, 田中 拓, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 宮下史寛, 高島範之, 鈴木友彰
45mm 径ステントグラフト中樞側瘤拡大に対する open stent graft を用いた弓部大動脈全置換術の一例
第 38 回日本血管外科学会近畿地方会, 2025 年 3 月, 和歌山

鈴木友彰

2024 年度の心臓血管外科領域の話題の総復習、抗血栓療法を含めて
第 208 回草津栗東医師会循環器研究会, 2025 年 3 月, 滋賀

鈴木友彰

心臓血管外科のいま～最新のトピックと抗凝固療法を含めて～
第 204 回草津栗東医師会循環器研究会, 2024 年 4 月, 滋賀

神谷賢一, 永谷幸裕, 松林優児, 寺田真也, 高島範之, 仲田 晋, 鈴木友彰

最先端イメージング技術 - ハイブリッドレンダリング技術を用いた 3 次元画像解析法 -
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 愛知

高島範之, 垣内泰生, 西村知起, 角 宏明, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 近藤康生, 鈴木友彰
In situ RITA を基本としたグラフトデザインと LAD へ吻合した場合の LITA との比較
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 愛知

松林優児, 宮下史寛, 鈴木友彰

外傷性後脛骨動脈瘤に対する一手術例
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

島田ゆうじ, 近藤康夫, 木原一樹, 大上賢祐

EVAR 後の TypeII エンドリークに対して後腹膜アプローチによる鏡視下腰動脈結紮術が有効だった一例
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

高島範之, 垣内泰生, 西村知起, 角 宏明, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 近藤康生, 鈴木友彰
若手術者でもできる A 型解離の断端形成方法とその成績
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

三輪駿太, 奥田進太郎, 橋本和也, 小林将明, 竹本哲志, 松浦 誠, 平松範彦, 降矢温一, 畔柳智司, 東上震一
感染性腹部大動脈瘤に対し EVAR を施行した 12 例の検討
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

森 陽太郎, 垣内泰生, 西村知起, 角 宏明, 脇坂穂高, 近藤康生, 高島範之, 鈴木友彰
左深大腿動脈瘤に対して自家静脈グラフトを用いて血行再建を行った一例
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

西村知起, 鉢呂康平, 垣内泰生, 角 宏明, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 近藤康生, 高島範之, 鈴木友彰
上腸間膜動脈症候群を伴う腹部大動脈瘤に対し人工血管置換術を施行した一例
第 52 回日本血管外科学会定期学術集会, 2024 年 5 月, 大分

鈴木友彰
当院での心臓周術期における iNO の使用経験 - 特に A 型解離手術後の使用について -
iNO Expert Webinar in SAGA, 2024 年 6 月, Web

鈴木友彰
Bailout から Therapy へ。開心術における Impella の戦略的使用の実際 bailout から Therapy へ。開心術における
Impella の戦略的使用の実際
第 67 回関西胸部外科学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

澤田真紀子, 宮下史寛, 前田清澄, 今井勇伍, 鈴木友彰
A 型大動脈解離に対するオープンステント留置後 2 年で発症した下行大動脈の contained rupture を血管内治療にて
救命した 1 例
第 67 回関西胸部外科学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

高島範之, 垣内泰生, 西村知起, 角 宏明, 三輪駿太, 奥田進太郎, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 近藤康生, 竹林克士, 谷 眞至,
鈴木友彰
Secondary aorto-esophageal fistula 10 例に対する外科的治療経験
第 67 回関西胸部外科学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

森 陽太郎, 西村知起, 垣内泰生, 角 宏明, 三輪駿太, 奥田進郎, 脇坂穂高, 近藤康生, 高島範之, 鈴木友彰
気管腕頭動脈瘻予防に対する治療戦略 3 例を通して
第 67 回関西胸部外科学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

鈴木友彰
低左心機能合併ハイリスク心臓外科手術の周術期心不全マネジメント
第 14 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 2024 年 7 月, 福岡

鈴木友彰
心臓血管外科のいま～最新のトピックと抗凝固療法を含めて～
第 206 回草津栗東医師会循環器研究会, 2024 年 8 月, 滋賀

鈴木友彰
『働き方改革時代の若手を疲弊させない時短胸部大動脈瘤手術 - 急性大動脈解離と弓部全置換術 -』
B-Heart Seminar ～若手外科医に伝えたい 心臓血管外科の近未来～, 2024 年 9 月, Web

鈴木友彰
「当院での心臓周術期における iNO の使用経験」 - 特に A 型急性解離術後への使用について -
第 65 回日本脈管学会, 2024 年 10 月, 東京

高島範之, 西村知起, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 森 陽太郎, 鈴木友彰
胸部大動脈疾患手術後の大動脈食道瘻に対する治療戦略と成績
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

高島範之, 西村知起, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 森 陽太郎, 鈴木友彰
FET 導入が与えた急性 A 型解離に対する治療方針と予後の変化
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

神谷賢一, 永谷幸裕, 松林潤, 上村 諒, 沖 達也, 松林優児, 寺田真也, 仲田 晋, 鈴木友彰
ハイブリッドレンダリング技術を用いた心臓の複雑構造における定量的計測の有用性
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

松林優児, 神谷賢一, 横山千紘, 松井 英, 田中 拓, 西村知起, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 三輪駿太, 森 陽太郎,
高島範之, 鈴木友彰
ハイブリッドレンダリング技術を用いた僧帽弁形成術前後の立体構造解析
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

三輪駿太, 宮下史寛, 島田ゆうじ, 松林優児, 奥田進太郎, 高島範之, 鈴木友彰
透析患者における胸部大動脈疾患の開胸手術の早期および長期成績
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

神谷賢一, 寺田真也, 松林優児, 永谷幸裕, 鈴木康平, 宮崎翔平, 松井拓貴, 高野祥汰, 仲田 晋, 鈴木友彰
Ex-vivo 冠動脈バイパスモデルを用いた端側吻合における狭窄病変の数値流体解析
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

鉢呂康平, 高島範之, 森 陽太郎, 松林優児, 三輪駿太, 島田ゆうじ, 西村知起, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘,
鈴木友彰
Low EF ($\leq 30\%$) 患者における冠動脈バイパス術
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

神谷賢一, 永谷幸裕, 鈴木康平, 宮崎翔平, 松井拓貴, 高野祥汰, 仲田 晋, 鈴木友彰
Analysis of computational fluid dynamics simulating stenotic lesions of coronary end-to-side anastomosis using an
ex-vivo porcine heart
ISMICS 2024 Workshop, 2024 年 11 月, 大阪

神谷賢一, 永谷幸裕, 松林潤, 上村 諒, 沖 達也, 松林優児, 寺田真也, 仲田 晋, 鈴木友彰
Integrated volume and surface graphics for facilitated measurement of cardiac anatomy
ISMICS 2024 Workshop, 2024 年 11 月, 大阪

奥田進太郎, 鈴木友彰, 高島範之, 宮下史寛, 松林優児, 三輪駿太, 島田ゆうじ, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘
急性心筋梗塞後機械的合併症の一つである僧帽弁閉鎖不全症に対して術前 Impella を導入し MVR を施行した 3 症例
第 37 回日本冠疾患学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

横山千紘, 三輪駿太, 奥田進太郎, 松林優児, 島田ゆうじ, 田中 拓, 松井 英, 高島範之, 鈴木友彰
高安動脈炎による冠動脈 3 枝病変に対し, 内胸動脈 1 枝のみの冠動脈バイパス術が奏功した 1 例
第 37 回日本冠疾患学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

高島範之, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 宮下史寛, 鈴木友彰
In-situ RITA-LAD 後の胸骨再切開症例の成績
第 37 回日本冠疾患学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

鈴木友彰, 高島範之, 宮下史寛, 奥田進太郎, 三輪駿太, 松林優児, 島田ゆうじ, 田中 拓, 松井 英, 横山千紘
心臓血管手術の現状と展望
第 37 回日本冠疾患学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

神谷賢一, 永谷幸裕, 松井拓貴, 高野祥汰, 仲田 晋, 鈴木友彰
Ex-vivo 冠動脈バイパスモデルを用いた端側吻合部狭窄における血流シミュレーション
第 37 回日本冠疾患学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

鈴木友彰
先天性・冠動脈. 2 基本的なグラフト吻合法
第 77 回日本胸部外科学会学術集会, 2024 年 11 月～配信, 金沢

垣内泰生, 神谷賢一, 鈴木友彰
未破裂の左室心尖部憩室に対して外科的手術を施行した一例
第 138 回日本循環器学会近畿地方会, 2024 年 12 月, 大阪

横山海生, 酒井 宏, 相見直紀, 吉田大輝, 浅田紘平, 鈴木友彰, 中川義久
高安動脈炎による急性冠症候群に対して緊急血行再建を要した一例
第 138 回日本循環器学会近畿地方会, 2024 年 12 月, 大阪

田中 拓, 高島範之, 松井 英, 横山千紘, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 宮下史寛, 鈴木友彰
アブレーションカテーテルによる左房穿孔を外科的に救命し得た一例
第 138 回日本循環器学会近畿地方会, 2024 年 12 月, 大阪

松井 英, 高島範之, 田中 拓, 横山千紘, 島田ゆうじ, 奥田進太郎, 松林優児, 三輪駿太, 宮下史寛, 鈴木友彰
重症 3 枝病変に対して Impella 補助下に冠動脈バイパス術を施行した一例
第 138 回日本循環器学会近畿地方会, 2024 年 12 月, 大阪

滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hayashi K, Shiratori T, Ueda K, Okamoto K, Kataoka Y, Kawaguchi Y, Ohshio Y, Hanaoka J.
Dynamic chest radiography in post-lobectomy recovery: A novel approach to evaluating pulmonary function and thoracic structures in patients with primary lung cancer.
Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 15(3): 2232-2245, 2025

Kawaguchi Y, Watanabe A, Shiratori T, Kaku R, Ueda K, Okamoto K, Kataoka Y, Ohshio Y, Hanaoka J.
Myostatin expression in lung cancer induces sarcopenia and promotes cancer progression.
General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 72(4): 232-239, 2024

Oki T, Nagatani Y, Ishida S, Hashimoto M, Ohshio Y, Hanaoka J, Uemura R, Watanabe Y.
Right main pulmonary artery distensibility on dynamic ventilation CT and its association with respiratory function.
European radiology experimental 8(1): 50-50, 2024

Kataoka Y, Fujita T, Hanaoka J.
Anaplastic thyroid carcinoma transformation in a patient with advanced non-small cell lung cancer treated with PD-1 therapy: A case report.
Respiratory medicine case reports 50: 102070-102070, 2024

Hanaoka J.
Visual analysis of pulmonary blood flow in pulmonary circulation assessment: Differences between two variant algorithms for processing dynamic images.
Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 14(8): 5277-5287, 2024

Kawaguchi Y.
Preferred management of post-operative chest tube placement after lung resection.
Journal of thoracic disease. 16(8) : 5480-5483, 2024

Kawaguchi Y, Okamoto K, Kataoka Y, Shibata K, Saito H, Shiratori T, Ueda K, Ohshio Y, Hanaoka J.
Increasing monocytes after lung cancer surgery triggers the outgrowth of distant metastases, causing recurrence.
Cancer Immunology, Immunotherapy. 73: 212-212, 2024

Okamoto K, Kawaguchi Y, Shiratori T, Ohshio Y, Hanaoka J.
Clinicopathological study of fractional exhaled nitric oxide dynamics and intratumoral inducible nitric oxide synthase expression in primary lung cancer patients.
Translational Cancer Research. 13(9): 4694-4701, 2024

Ueda K, Kawaguchi Y, Itoh Y, Ishihara D, Saito H, Shiratori T, Okamoto K, Kataoka Y, Ohshio M, Ohshio Y, Hanaoka J.
Surgical outcome in patients with lung adenocarcinoma with mucin.
General thoracic and cardiovascular surgery. DOI10.1007/s11748-024-02103-0, 2024

〈和文学術論文〉

喜田裕介, 林一喜, 花岡淳
ダブルルーメンチューブにより左主気管支膜様部損傷をきたした1手術例
気管支学, 46(3): 168-171, 2024

渡邊敦子, 白鳥琢也, 岡本圭伍, 賀来良輔, 片岡瑛子, 花岡 淳
胸腺腫の術後胸膜播種再発との鑑別を要した胸壁コレステリン肉芽腫の1例
日本呼吸器外科学会雑誌, 38(5): 433-438, 2024

【学会発表】

〈国際学会〉

Kataoka Y, Ishihara D, Saito H, Yoden M, Shiratori T, Ueda K, Okamoto K, Kawaguchi Y, Hanaoka J.
Hypoxia-induced Cystathionine gamma-lyase promotes tumor motility via upregulation of stem cell factor in non-small cell lung cancer.
13th AACR-JCA Joint Conference, 2025, Maui

Kawaguchi Y.
The mechanism of lung cancer-induced sarcopenia via activin A.
2024 Asia Conference on Lung Cancer, 2024, Hong Kong

〈全国学会・地方会・その他〉

斉藤弘紀, 石原大悟, 余田 誠, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 花岡 淳
心膜浸潤を伴った重症筋無力症合併胸腺腫に対してロボット支援下拡大胸腺全摘術を施行した1例
第121回日本肺癌学会関西支部学術集会, 2025年3月, 京都

林 一喜, 喜田裕介, 花岡 淳
肺葉切除後の横隔膜移動量が肺容量変化に与える影響について X線動態検査と volumetry を用いた解析
第64回日本呼吸器学会学術講演会, 2024年4月, 横浜

林 一喜, 喜田裕介, 花岡 淳
腹膜偽粘液腫肺転移に対する外科治療
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

大塩恭彦, 斉藤弘紀, 柴田康平, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 花岡 淳
安全技術認定の評価に耐えうる単孔式手術をめざして
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

川口 庸, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 大塩恭彦, 花岡 淳
肺がんサルコペニアマウスモデルの作成とその治療開発
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

片岡瑛子, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 大塩恭彦, 花岡 淳
好中球/リンパ球比は間質性肺炎合併肺癌術後急性増悪のリスク因子である
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

岡本圭伍, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
拡大胸腺全摘後に発生した異時性肺カルチノイドに対して肺葉切除を行った1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

白鳥琢也, 斉藤弘紀, 柴田康平, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
大腸癌肺転移手術症例の腫瘍増殖速度に関する検討
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
原発性肺癌と転移性肺腫瘍の合併手術症例の検討
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

喜田裕介, 林 一喜, 花岡 淳
血気胸で発見され, 急激な転帰をたどった血管肉腫の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月-6月, 軽井沢

齊藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 岡本圭伍, 上田桂子, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
胸腺瘤と原発性肺癌の同時性重複癌の2手術例
第 67 回関西胸部外科学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

大塩恭彦, 齊藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩麻友美, 仲川宏昭,
山口将史, 中野恭幸, 花岡 淳
単孔式手術と呼吸筋力の低下について
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

齊藤弘紀, 白鳥琢也, 柴田康平, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
気管分岐部気管癌に対し硬性鏡下に症状緩和, 病変進展範囲確認した後に気管分岐部形成術を施行した 1 例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

柴田康平, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
気管支鏡で診断した稀な肺原発悪性黒色腫の 1 切除例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

仲川宏昭, 角田陽子, 田中伶於, 横江真弥, 成宮慶子, 内田泰樹, 黄瀬大輔, 山口将史, 大澤 真, 大塩恭彦, 花岡 淳,
中野恭幸
呼吸ダイナミック CT を用いて両側胸膜癒着による呼吸困難の評価を可視的に行った悪性胸膜中皮腫の一例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

黄瀬大輔, 田中伶於, 後藤 幸, 久保直之, 大岡 彩, 横江真弥, 入山朋子, 角田陽子, 成宮慶子, 山崎晶夫,
松尾裕美, 行村瑠里子, 内田泰樹, 仲川宏昭, 大澤 真, 大塩恭彦, 花岡 淳, 小川恵美子, 山口将史, 中野恭幸
肺非結核性抗酸菌症の治療中に発症した *Exophiala dermatitidis* による肺真菌症の一例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

川口庸, 上田桂子, 片岡瑛子, 大塩恭彦, 花岡 淳
肺がん原発巣切除後, 微小転移巣に腫瘍随伴マクロファージが集簇し 転移巣の増大を促す
第 83 回日本癌学会学術総会, 2024 年 9 月, 福岡

白鳥琢也
るい瘦の強い漏斗胸患者に対して Nuss 法手術を行い, 創離開をきたした一症例
第 23 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 2024 年 10 月, 鹿児島

大塩恭彦, 石原大梧, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩麻友美, 花岡 淳
単孔式肺癌手術におけるより良好な視野を得るための工夫
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 10 月 -11 月, 横浜

石原大梧, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
悪性転化を来した孤立性線維性腫瘍の 1 例
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 10 月 -11 月, 横浜

川口庸, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 大塩恭彦, 花岡 淳
アメリカにおける縮小手術の現状と課題
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

川口庸, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 大塩恭彦, 花岡 淳
フェローシップ帰朝報告
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

喜田裕介, 林 一喜, 花岡 淳
手掌多汗症における手術成績と患者満足度 (アンケート結果をふまえて)
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024 年 11 月, 金沢

滋賀医科大学 総合外科学講座

【著書】

山口 剛

第2章 減量・代謝改善手術の実際

減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン, 2024; 35-36, 2024年

山口 剛

第5章 高齢者肥満症

減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン, 2024; 150-151, 2024年

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Akabori H, Kanda T, Itoh A, Mekata E.

Manual-endoscopic cooperative pancreatic stenting: A unique intraoperative procedure for postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy

Asian Journal of Surgery, 47(9): 4188-4189, 2024年

【学会発表】

〈国際学会〉

Yamaguchi T, Kaida S, Takebayashi K, Otake R, Mekata E, Tani M.

Is gastric tube fixation effective for preventing intra-thoracic sleeve migration Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia(ELSA2024), 2024年8月, バリ

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

東 里映, 勝本恵理香, 畠中真由, 井上美咲, 鈴木翔太, 山口 剛, 伊藤明彦

当院におけるアナモレリン投与開始時期の検討

第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

勝本恵理香, 畠中真由, 井上美咲, 白石智順, 村上翔子, 山口 剛, 伊藤明彦

たんぱく質摂取量の増加により低Na血症が改善した一例

第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

畠中真由, 勝本恵理香, 井上美咲, 白石智順, 村上翔子, 山口 剛, 伊藤明彦

減圧目的のPTEG症例における経口摂取と管理栄養士の関わりについて

第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

赤堀浩也, 下地みゆき, 村田 聡, 寺田好孝, 北村直美, 永井 望, 山口 剛, 日片英治

消化器外科周術期における血糖管理

第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜

勝本恵理香, 畠中真由, 井上美咲, 鈴木翔太, 東 里映, 白石智順, 村上翔子, 山口 剛, 伊藤明彦

経鼻胃管からPTEGへの変更をきっかけに経口摂取量が改善した一例

第16回日本栄養治療学会近畿支部学術集会, 2024年7月, 京都

神田暁博, 勝本恵理香, 畠中真由, 井上美咲, 片岡 準, 柴田直季, 森 太平, 桂木淳志, 山口 剛, 伊藤明彦

当院における減圧目的PTEG造設症例の検討と食事提供の工夫について

第16回日本栄養治療学会近畿支部学術集会, 2024年7月, 京都

村上翔子, 勝本恵理香, 畠中真由, 井上美咲, 藤岡江里子, 白石智順, 堤 泰彦, 山口 剛, 伊藤明彦
 摂食嚥下障害患者に対し義歯調整が奏功した1症例
 第16回日本栄養治療学会近畿支部学術集会, 2024年7月, 京都

永井 望, 赤堀浩也
 尾側腭切除術における術中内視鏡併用下の腭管ステント留置による術後腭液瘻予防効果
 第55回日本腭臓学会大会, 2024年7月, 宇都宮

山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 大橋夏子, 井田昌吾, 森野勝太郎, 卯木 智, 栗原美香, 上西祐輝, 山口雅之,
 鶴飼征子, 久米真司, 目片英治, 谷 眞至
 スリーブ状胃切除術後胃管の胸郭内への移動に対する、胃管固定の有用性の検討
 第45回日本肥満学会・第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月, 横浜

山口 剛
 サステイナブルなエビデンスの構築を目指した肥満症外科手術認定施設による多施設共同研究
 第45回日本肥満学会・第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月, 横浜

永井 望, 寺田好孝, 目片英治, 山口 剛, 赤堀浩也, 北村直美
 同時性4多発大腸癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例
 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

井上命人, 永井 望, 山口 剛, 赤堀浩也, 北村直美, 寺田好孝, 目片英治
 食道裂孔ヘルニア内に生じた十二指腸潰瘍穿孔を腹腔鏡下で治療した一例
 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 谷 総一郎, 森 治樹, 村田 聡, 赤堀浩也,
 北村直美, 寺田好孝, 目片英治, 谷 眞至
 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の減量効果不良予測に関する検討
 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

滋賀医科大学 創発的研究センター 先端医療研究開発部門

【著書】

Bhaskar K. Somani, Lazaros Tzelvels and Patrick Juliebo-Jones, Nguyen HN, Yamada A, et al.
The evolution of minimally invasive urologic surgery: Innovations, challenges, and opportunities.
Frontiers e-book, DOI 10.3389/978-2-8325-5838-6, 2025

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Nguyen HN, Yamada A, Naka S, Murakami K, Tani S, Tani T.
Microwave scissors-based sutureless laparoscopic partial nephrectomy versus conventional open partial nephrectomy in a porcine model: Usefulness and complications.
Ann Surg Oncol. 31(9): 5804-5814, 2024

Nguyen HN, Yamada A, Naka S, Murakami K, Tani S, Tani T.
ASO author reflections: A novel microwave scissors-based sutureless laparoscopic partial nephrectomy technique with less technically demanding procedure.
Ann Surg Oncol. 31(9): 5860-5861, 2024

Inatomi O, Yamada A, Shintani S, Hiroe K, Kimura H, Nishida A, Tani T.
Clinical application of a novel high-selectivity steerable-tip catheter for ERCP in patients with altered surgical anatomy.
Endoscopy 56(S 01): E658-E659, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

山田篤史

医工連携・産学連携の実績紹介

一般社団法人滋賀経済産業協会（主管：技術委員会）主催「滋賀医科大学見学会」，2025年3月，大津

Nguyen HN, Yamada A, Naka S, Murakami K, Tani S, Tani T.
Comparison of microwave scissors-based sutureless laparoscopic partial nephrectomy versus conventional open partial nephrectomy in a porcine model.
第28回滋賀内視鏡手術研究会，2024年4月，大津

山田篤史，遠山育夫

非直線型のワイヤ配線を用いた軟性医療機器の開発

第63回日本生体医工学会大会，2024年5月，鹿児島

山田篤史，遠山育夫

交差配線構造を用いた軟性医療機器の開発

第63回日本生体医工学会大会，2024年5月，鹿児島

Nguyen HN, Yamada A, Naka S, T Tani.

Initial results of sutureless partial nephrectomy using microwave scissors with reduced power in a porcine model.
第43回 Microwave Surgery 研究会，2024年9月，福岡

山田篤史

医工連携の成功に基づく本学医療機器研究開発のこれから

滋賀医科大学開学50周年記念式典，2024年10月，大津

山田篤史

弾性ループ構造に基づく先端可動機構を用いた軟性医療機器の研究開発

2024年度第7回 SUMS グランド・ラウンド，2024年11月，大津

關連病院業績

医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Nomura Y, Nagayama S, Fujioka S, Takeuchi G, Takeuchi Y, Okamoto M, Ganeko R, Nakayama Y, Hashimoto K, Kubota Y.

Two cases of adult-onset intestinal duplication manifested as acute abdomen: Case report and review of the literature.

Surgical Case Reports, 11(1): 24-0023, 2025

Dobashi R, Kubota Y, Takeuchi Y, Uchibori A, Ito S.

Posterior mediastinal Mullerian duct cyst in a child: A case report.

Journal of Pediatric Surgery Case Reports, 114: 102969, 2025

【全国学会 / 地方会 学会発表】

野村勇貴, 中山雄介, 武内悠馬, 角田海斗, 島田 明, 植田圭祐, 藤岡祥恵, 竹内 豪, 岡本三智夫, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 久保田良浩

術前化学療法後に切除した腓肝様癌の1切除例

日本消化器病学会近畿支部第122回例会, 2025年2月, 京都

我如古理規, 島田 明, 植田圭祐, 野村勇貴, 藤岡祥恵, 武内悠馬, 竹内 豪, 岡本三智夫, 中山雄介, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 畑 倫明, 久保田良浩

開腹手術の高難度化をとらえなおす

第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 名古屋

長山 聡, 井上善景, 奥村慎太郎, 辻 厚志, 原田陽介, 片桐豊雅, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 大森敦仁, 藤岡祥恵, 植田圭祐, 島田 明, 小濱和貴, 福長洋介, 久保田良浩

臨床と基礎研究の双方向作用によるがん診療の包括的で持続的な発展を目指して

第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 名古屋

岡本三智夫, 水野 礼, 植田圭祐, 島田 明, 松木仁美, 藤岡祥恵, 竹内 豪, 武内悠馬, 大森敦仁, 中村真司, 我如古理規, 中山雄介, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 久保田良浩

Sivelestat は好中球エラスターゼによる ERK の活性化を介した大腸癌の肝転移形成を阻害する

第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 名古屋

角田海斗, 岡本三智夫, 植田圭祐, 島田 明, 藤岡祥恵, 野村勇貴, 竹内 豪, 武内悠馬, 我如古理規, 中山雄介, 橋本恭一, 日並淳介, 畑 倫明, 長山 聡, 久保田良浩

閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対して、超音波ガイド下整復術を施行し待機的に根治術を施行した1例

第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 名古屋

武内悠馬, 久保田良浩, 中村真司, 我如古理規, 日並淳介, 畑 倫明

当院における Hybrid ER での外傷診療の実際と小児症例への活用

第61回日本小児外科学会学術集会, 2024年6月, 福岡

長山 聡, 清宮啓之, 八尾良司, 三森功士, 福長洋介, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 久保田良浩

新たながん治療戦略の開発を目指したトランスレーション研究

第79回日本消化器外科学会, 2024年7月, 下関

中山雄介, 藤岡祥恵, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 岡本三智夫, 我如古理規, 橋本恭一, 長山 聡, 久保田良浩

腹腔鏡下胆嚢摘出術の合併症回避のためのコツ～ bailout procedure の有効活用～

第79回日本消化器外科学会, 2024年7月, 下関

武内悠馬, 久保田良浩

胎児期発症の腸重積による小腸閉鎖が原因と考えられた新生児消化管穿孔の一例

第60回日本小児外科学会近畿地方会, 2024年8月, 西宮

長山 聡, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 藤岡祥恵, 植田圭祐,
島田 明, 角田海斗, 久保田良浩

鏡視下結腸切除術における体腔内デルタ吻合の定型化

第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年11月, 宇都宮

長山 聡, 中野貴文, 大楽勝司, 福長洋介, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬,
竹内 豪, 藤岡祥恵, 植田圭祐, 三森功士, 久保田良浩

大腸癌根治切除後再発の早期診断を実現する血漿 cfDNA メチル化マーカー

第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年11月, 宇都宮

中山雄介, 角田海斗, 植田圭祐, 島田 明, 藤岡祥恵, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 岡本三智夫, 我如古理規, 橋本恭一,
長山 聡, 久保田良浩

当院における膈頭十二指腸切除術での膈空腸吻合の変遷と工夫

第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年11月, 宇都宮

長山 聡, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 藤岡祥恵, 植田圭祐, 島田 明,
角田海斗, 久保田良浩

ロボット支援下結腸切除の導入から定型化へ—Hybrid RAS の試み—

第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜

岡本三智夫, 長山 聡, 橋本恭一, 中山雄介, 日並淳介, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 藤岡祥恵, 植田圭祐,
島田 明, 角田海斗, 久保田良浩

Persisten descending Mesocolon を伴ったS状結腸癌に対して腹腔鏡下切除術を施行した1例

第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜

長山 聡, 橋本恭一, 中山雄介, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 藤岡祥恵, 植田圭祐,
久保田良浩

ロボット支援下結腸切除の定型化へ—Hybrid RAS の試み—

第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

中山雄介, 橋本恭一, 長山 聡, 我如古理規, 岡本三智夫, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 藤岡祥恵, 久保田良浩
AIナビゲーションシステムを用いた上腸間膜動脈周囲解剖の理解と郭清

第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 呼吸器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

北野晴久, 服部加奈, 新庄安宏, 寄本陽子, 佐田裕子, 鎌田華子, 原塚龍星, 寒出清美, 川崎恵利香, 小磯早紀, 徳岡貴美

褥瘡は入院治療だけでは治らない - 患者宅訪問により褥瘡悪化要因が判明した2症例 -
第26回日本褥瘡学会学術集会, 2024年9月, 姫路

北野晴久

オーダーメイドの褥瘡ケア: Wound Hygiene に基づいた外用薬治療~処置方法をアップデートしてみませんか~
第26回日本褥瘡学会学術集会, 2024年9月, 姫路

北野晴久, 服部加奈, 新庄安宏, 寄本陽子, 原塚龍星

褥瘡処置は週3回でも効果は変わらない?: 炎症/感染が落ち着いている仙骨部D3褥瘡における検証
第10回日本褥瘡学会在宅ケア推進協会学術集会, 2024年6月, 横浜

近江八幡市立総合医療センター 心臓血管外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

乃田浩光, 松林景二, 松岡健太郎, 上山克史

鈍の外傷性大動脈破裂に対してチムニー法を併施した胸部ステントグラフト内挿術の1例
胸部外科, 77(9): 706-709, 2024

乃田浩光, 松林景二, 松岡健太郎, 上山克史

右室腔へのミサイル塞栓の手術
胸部外科, 77(9): 567-571, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

乃田浩光, 松林景二, 松岡健太郎

下肢静脈瘤ヘシアノアクリレート使用の血管内塞栓術における工夫 中枢のコントロール、シース抜去法、長距離塞栓
第52回日本血管外科学会学術総会, 2024年5月, 別府

土田迪貴, 乃田浩光, 松林景二, 松岡健太郎

左肩関節脱臼を契機に外傷性左腋窩動脈損傷をきたし緊急手術により救命した1例
第65回日本脈管学会学術総会, 2024年10月, 東京

乃田浩光, 松林景二, 松岡健太郎, 土田迪貴

大動脈食道瘻に対して胸部大動脈ステントグラフト内挿術のみ施行後の生存例
第65回日本脈管学会学術総会, 2024年10月, 東京

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hayashi K, Hanaoka J.

Long-term survival in stage IVb thymic carcinoma with multidisciplinary aggressive treatment.
Annals of Thoracic Surgery Short Reports, 2(2): 207-210, 2024

Hayashi K, Hanaoka J, Kita Y.

Extended thoracotomy for main pulmonary artery access: Two lung cancer cases.
Sage Open Case Rep, 19(12): 2050313X241275025, 2024

【論文発表】

〈和文学術論文〉

喜田裕介, 林一喜, 花岡淳

ダブルルーメンチューブにより左主気管支膜様部損傷をきたした1手術例
気管支学, 46(3): 168-171, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

林一喜, 喜田裕介, 花岡淳

肺葉切除後の横隔膜移動量が肺容量変化に与える影響について～X線動態検査と volumetry を用いた解析
第64回日本呼吸器学会学術講演会, 2024年4月, 横浜

林一喜, 喜田裕介, 花岡淳

腹膜偽粘液腫肺転移に対する外科治療
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

喜田裕介, 林一喜, 花岡淳

血気胸で発見され、急激な転帰をたどった血管肉腫の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢

林一喜, 喜田裕介, 他

原発性肺がん終末期の予後予測における PNI(Prognostic Nutritional Index) の有用性について
第6回日本緩和医療学会関西支部学術集会, 2024年7月, 大津

喜田裕介, 林一喜, 花岡淳

手掌多汗症における手術成績と患者満足度 アンケート結果をふまえて
第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月, 金沢

【その他】

〈全国学会・地方会〉

林一喜

座長

第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

林一喜

座長

第6回日本緩和医療学会関西支部学術集会, 2024年7月, 大津

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 消化器外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

高尾信行, 大江康光, 今神透, 安炳九, 戸川剛, 水本明良
右外腸骨動静脈を合併切除した盲腸癌局所再発の1例
手術, 78(6): 989-994, 2024

水本明良, 高尾信行, 今神透, 安炳九, 寒川玲, 大江康光, 三中淳史, 戸川剛
【希少癌に対する治療戦略 - 標準化に向けた取り組み -】腹膜偽粘液腫に対する標準治療 Cytorreductive surgery の
治療成績と腹腔内温熱化学療法の意義
癌の臨床, 68(5): 315-322, 2024

松永隆志, 貝田佐知子, 三宅亨, 竹林克士, 大竹玲子, 小島正継, 谷総一郎, 前平博充, 森治樹, 新田信人,
竹中裕一, 内藤聖哉, 石川原, 清水智治, 谷眞至
胃癌との重複癌に対してロボット支援下で同時手術を施行した3例
癌と化学療法, 51(13): 1464-1466, 2024

寒川玲, 松永隆志, 大江康光, 今神透, 安炳九, 高尾信行, 戸川剛, 水本明良, 竹村しづき, 米村豊
鼠径ヘルニアを契機に発見された虫垂原発腹膜偽粘液腫に対して集学的治療を行った1例
癌と化学療法, 51(13): 1648-1650, 2024

今神透, 三中淳史, 大江康光, 寒川玲, 安炳九, 戸川剛, 高尾信行, 日野倫子, 竹村しづき, 水本明良
術前化学療法にて漿膜下層にのみ腫瘍遺残がみられた進行上行結腸癌の1例
癌と化学療法, 51(13): 1639-1641, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

寒川玲, 戸川剛
発熱を契機に発症した上腸間膜静脈血栓症に対し, エドキサバンが有効であった一例
第61回日本腹部救急医学会総会, 2025年3月, 名古屋

森元悠樹, 安炳九, 松永隆志, 寒川玲, 戸川剛
破裂を繰り返す難治性食道静脈瘤に対し, 用手補助下腹腔鏡手術 (Hassab手術) を施行した1例
第61回日本腹部救急医学会総会, 2025年3月, 名古屋

水本明良, 高尾信行, 今神透, 安炳九, 寒川玲, 大江康光, 三中淳史, 戸川剛
腹膜偽粘液腫に対する cytorreductive surgery における予後因子と腹腔内温熱化学療法の意義
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

今神透, 城山理帆, 三中敦, 大江康光, 寒川玲, 安炳九, 戸川剛, 高尾信行, 水本良明, 米村豊
大腸癌腹膜播種に対する CRS 時腹水細胞診の臨床的意義の検討
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

森谷真子, 高尾信行, 三中敦史, 大江康光, 今神透, 寒川玲, 安炳九, 戸川剛, 城山理帆, 水本明良
臍部腫瘍を契機に診断された腹膜偽粘液腫の1例
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

伊藤鴻輝, 安炳九, 安部哲也, 大江康光, 三中淳史, 今神透, 寒川玲, 戸川剛, 高尾信行, 城山理帆, 水本良明
食道アカラシア術後に発生した食道癌の1例
第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月, 常滑

松永隆志, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 村田 聡, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 谷 総一郎, 森 治樹,
竹中裕一, 仁科勇佑, 内藤聖哉, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
胃悪性疾患に対する根治的切除術後の腹腔内感染性合併症予測因子についての検討
第 124 回 日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

今神 透, 三中淳史, 大江康光, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良
高度肥満症患者に対する腹腔鏡補助下尾側膝切除術の当院における工夫
第 28 回滋賀内視鏡手術研究会, 2024 年 4 月, 大津

今神 透, 城山理帆, 三中敦史, 大江康光, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良
術前化学療法にて, 漿膜下層にのみ腫瘍遺残がみられた進行上行結腸癌の 1 例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

高尾信行, 三中淳史, 大江康光, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 戸川 剛, 水本明良
左横隔膜, 胃大湾側, 膈尾部, 脾を合併切除した局所進行横行結腸癌の 1 例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

安 炳九, 富田圭司, 井上健太郎, 森 直子, 成田充弘, 伴 宏光, 菊井亮輔, 大江康光, 今神 透, 戸川 剛, 高尾信行,
寒川 玲, 三中淳史, 城山理帆, 竹村しづき, 水本明良
回腸浸潤により腸閉塞をきたした右尿管癌の一例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

大江康光, 三中淳史, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良
盲腸癌による腸重積症の術前診断にて緊急州術を施行し悪性リンパ腫の診断に至った一例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

寒川 玲, 松永隆志, 大江康光, 今神 透, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良, 竹村しづき, 米村 豊
鼠径ヘルニアを契機に発見された虫垂原発腹膜偽粘液腫に対して就学的治療を行った一例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

松永隆志, 貝田佐知子, 三宅 亨, 竹林克士, 大竹玲子, 小島正継, 谷 総一郎, 前平博充, 森 治樹, 新田信人,
全 有美, 前川 毅, 仁科勇佑, 竹中裕一, 内藤聖哉, 村田 聡, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
胃癌との重複癌に対してロボット支援下で同時手術を施行した 3 例
第 46 回日本癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

水本明良, 高尾信行, 今神 透, 安 炳九, 寒川 玲, 三中淳史, 大江康光, 戸川 剛, 米村 豊
腹膜播種に対する腹膜切除術の術後合併症の検討
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

今神 透, 三中敦史, 大江康光, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良
膈体部と膈鉤部に認めた同時性膈重複癌の 1 例
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

高尾信行, 三中淳史, 大江康光, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 戸川 剛, 水本明良
術前左腎動脈塞栓術を行い摘出し得た, オンコサイトーマ様の組織増を呈する左腎由来巨大後腹膜腫瘍の 1 例
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

安 炳九, 山本 寛, 大江康光, 戸川 剛, 島本和巳, 今神 透, 高尾 信行, 竹村しづき, 寒川 玲, 水本明良
FDG-PET/CT 検査にて高度集積を認めた食道貯留嚢胞の 1 例
第 78 回日本食道学会学術集会, 2024 年 7 月, 東京

Mizumoto A, Takao N, Imagami T, An B, Sogawa A, Oe Y, Togawa T, Yonemura Y
Surgical treatment outcomes for peritoneal mesothelioma: A single-center study
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

今神 透, 大江康光, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良, 米村 豊
 腹膜播種再発により水腎症をきたした低異型度子宮間膜内肉腫に対して切除術を施行した2例
 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024年10月, 福岡

戸川 剛, 大江康光
 術後通過障害が無く且つ細い胃管を作成する手術手技: Cross-Cut Sleeve Gastrectomy
 第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月, 横浜

戸川 剛, 大江康光
 GERD合併肥満症例に対する食道裂孔縫縮およびLigamentum Teres Cardiopexy
 第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月, 横浜

大江康光, 山本有香子, 戸川 剛
 LSG術後GERDに対するrevisional R-Y gastric bypass 8例の経験
 第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月, 横浜

松永隆志, 貝田佐知子, 水本明良, 大竹玲子, 竹林克士, 大江康光, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 谷 眞至
 神経性過食症に伴う過食後, 急性胃拡張で胃壊死を来し胃全摘術後, 二期的再建を行い自宅退院可能となった1例
 第121回滋賀県外科医会学術集会, 2024年10月, 草津

水本明良, 高尾信行, 今神 透, 寒川 玲, 松永隆志, 安 炳九, 大江康光, 戸川 剛
 大腸癌腹膜播種に対する治療戦略: Peritoneal cancer index と腹腔内温熱化学療法の意義
 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年11月, 宇都宮

今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 水本明良
 腹膜偽粘液腫に対するCytoreductive surgeryの治療成績
 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年11月, 宇都宮

水本明良, 高尾信行, 今神 透, 安 炳九, 寒川 玲, 大江康光, 戸川 剛, 松永隆志, 米村 豊
 P分類ならびにperitoneal cancer indexから見た大腸癌腹膜播種に対するcytoreductive surgeryの適応と治療成績
 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜

今神 透, 松永隆志, 大江康光, 寒川 玲, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛, 水本明良, 米村 豊
 当院にてcytoreductive surgeryを施行した腹膜偽粘液腫144例の検討
 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜

松永隆志, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 大竹玲子, 森 治樹, 仁科勇佑, 竹中裕一, 内藤聖哉, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
 緩和的ストーマ造設術の短期・長期成績 - 生活の質の改善に向けて -
 第22回消化器外科学会大会, 2024年11月, 神戸

戸川 剛, 大江康光, 今神 透, 寒川 玲, 安 炳九, 松永隆志
 当院における腹腔鏡下スリーブ状胃切除 (LSG) 後胃管縦郭迷入 (ITSM) の現状と対策
 第37回日本内視鏡学会総会, 2024年12月, 福岡

社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 消化器外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

中西彬人, 田村徳康, 代永和秀, 大出手慶, 園田寛道
虫垂神経腫の2例
日本大腸肛門病会誌, 78: 220-225, 2025

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 進士誠一, 代永和秀, 岩井拓磨, 武田幸樹, 上田康二, 栗山 翔, 宮坂俊光,
香中伸太郎, 吉田 寛
肝, 肺転移を併存している大腸癌腹膜播種症例における外科的切除の意義
日本大腸肛門病会誌, 77: 148-154, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

園田寛道, 箱崎智樹, 代永和秀, 田村徳康, 梅谷直亨
放射線治療機器を持たない地域一般病院で行う直腸癌に対する TNT
第102回大腸癌研究会学術集会, 2025年1月, 別府

吉田宇杏, 園田寛道
外科系医師を目指すにあたり
第49回日本外科系連合学会学術集会, 2024年5月, 東京

代永和秀, 園田寛道, 梅谷直亨, 田村徳康, 箱崎智樹, 中西彬人
胃 X 線検査後に生じた S 状結腸穿通の1例
第50回日本外科系連合学会学術集会, 2025年5月, 東京

園田寛道, 箱崎智樹, 代永和秀, 田村徳康, 梅谷直亨
地域一般病院で行う直腸癌に対する TNT
第46回日本癌局所療法研究会, 2024年6月, 長浜

園田寛道, 田村徳康, 代永和秀, 箱崎智樹, 中西彬人, 梅谷直亨
超高齢者大腸癌に対する手術適応を考える
第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

中西彬人, 田村徳康, 箱崎智樹, 代永和秀, 梅谷直亨, 園田寛道
成人腸重積症に対する手術症例の検討
第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

園田寛道, 伊藤 良, 藪田佳帆, 箱崎智樹, 代永和秀, 田村博康, 梅谷直亨, 武田幸樹, 山田岳史
一般市中病院における複雑性虫垂炎に対する低侵襲治療
第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜

園田寛道, 伊藤 良, 藪田佳帆, 箱崎智樹, 代永和秀, 田村徳康, 梅谷直亨, 山田岳史, 吉田 寛
働き方改革を見据えた一般市中病院における急性虫垂炎に対する治療戦略
第86回日本臨床外科学会総会, 2024年11月, 宇都宮

園田寛道, 箱崎智樹, 田村徳康, 梅谷直亨
中規模市中病院における消化器外科の働き方改革
第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

公益財団法人がん研究会 有明病院 大腸外科・直腸がん集学的治療センター

【著書】

山口智弘

第4章 手術療法 - 治療選択のアルゴリズムと技術的 Pit fall 4-2 低侵襲手術の実際と手技のコツ 4-2-2 ロボット支援下手術

直腸癌, 集学的治療戦略 がん研究会有明病院の実践, 2025年3月

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Kozu T, Akiyoshi T, Sakamoto T, Yamaguchi T, Yamamoto S, Okamura R, Konishi T, Umemoto Y, Hida K, Naitoh T.

Risk factors for local recurrence in patients with clinical stage II/III low rectal cancer: A multicenter retrospective cohort study in Japan.

Ann Gastroenterol Surg, 9(1): 128-136, 2025年

Sakamoto T, Mukai T, Noguchi T, Matsui S, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Kawachi H, Fukunaga Y.

Patterns of lymph node metastasis and long-term outcomes of splenic flexure colon cancer: A descriptive study from a Japanese high-volume center.

Surg Today, Online ahead of print, 2025年

Sato K, Matsui S, Chiba T, Noguchi T, Sakamoto T, Mukai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Fukunaga Y.

Prognostic impact of potentially curative resection for synchronous peritoneal carcinomatosis with lavage cytology positivity in colorectal cancer: A Retrospective observational study.

J Anus Rectum Colon, 9(1): 52-60, 2025年

Sato K, Fukunaga Y, Manabu T, Noguchi T, Sakamoto T, Matsui S, Mukai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T.

Short- and long-term outcomes of one-stage radical resection and anastomosis without preoperative decompression and diverting stoma between incomplete obstructive and non-obstructive left-sided colorectal cancer: A Retrospective observational study.

J Anus Rectum Colon, 9(1): 41-51, 2025年

Yamaguchi T, Tanaka K, Watanabe J, Hamamoto H, Nishimura A, Fujita F, Suwa H, Ito M, Kawai K, Hiro J, Yamamoto S, Nambara S, Ota M, Ito Y, Okuda J, Inomata M, Watanabe M, Naitoh T.

Short- term outcomes of intracorporeal anastomosis in laparoscopic colectomy for colon cancer: A nationwide, multiinstitutional cohort study in Japan (ICAN study).

Annals of Gastroenterological Surgery, Online ahead of print, 2025年

Sakurai T, Hiyoshi Y, Daitoku N, Matsui S, Mukai T, Nagasaki T, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Kawachi H, Fukunaga Y.

Risk factors for and prognostic impact of lateral pelvic lymph node metastasis in patients with rectal neuroendocrine tumors: a single-center retrospective analysis of 214 cases with radical resection.

Surg Today, 55(2): 144-153, 2025年

Yamaguchi T, Akiyoshi T.

Surgical anatomy of lateral lymph node dissection: landmarks and areas of dissection in minimally invasive surgery.

Tech Coloproctol, 29(1): 60, 2025年

Noguchi T, Akiyoshi T, Sakamoto T, Matsui S, Mukai T, Yamaguchi T, Koyama M, Taguchi S, Shinozaki E, Kawachi H, Fukunaga Y.

Features of lateral pelvic lymph nodes associated with pathological involvement after total neoadjuvant therapy in patients undergoing lateral pelvic lymph node dissection.

Dis Colon Rectum, 68(3): 316-326, 2025 年

Sano S, Akiyoshi T, Yamamoto N, Noguchi T, Sakamoto T, Matsui S, Mukai T, Yamaguchi T, Taketomi A, Fukunaga Y, Miyazaki N, Kawachi H.

Prognostic significance of desmoplastic reaction after neoadjuvant chemoradiotherapy in advanced rectal cancer.

Dis Colon Rectum, 68(3): 327-337, 2025 年

Sato K, Matsui S, Takamatsu M, Noguchi T, Sakamoto T, Mukai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T.

Appendectomy followed by two-stage right-sided colectomy with lymph node dissection for appendiceal cancer and risk factors for peritoneal recurrence: a single high-volume cancer center study in Japan.

Surg Today, Online ahead of print, 2025 年

Emoto S, Fukunaga Y, Takamatsu M, Kawachi H, Sano S, Tominaga T, Mukai T, Yamaguchi T, Nagasaki T, Akiyoshi T, Konishi T, Nagayama S, Ueno M.

Prognostic factors of para-aortic lymph node metastasis from colorectal cancer in highly selected patients undergoing para-aortic lymph node dissection.

Surg Today, 54(4): 356-366, 2024 年

Ito S, Tsukamoto S, Kagawa H, Kanemitsu Y, Hiro J, Kawai K, Nozawa H, Takii Y, Yamaguchi T, Akagi Y,

Suto T, Hirano Y, Ozawa H, Komori K, Ohue M, Toiyama Y, Shinji S, Minami K, Shimizu T, Sakamoto K, Uehara K, Sugihara K, Kinugasa Y, Ajioka Y.

Short- and long-term outcomes of surgical treatment for inguinal lymph node metastasis in rectal and anal canal adenocarcinoma.

Colorectal Dis, 26(7): 1378-1387, 2024 年

Ota E, Nagasaki T, Akiyoshi T, Mukai T, Hiyoshi Y, Yamaguchi T, Fukunaga Y.

Incidence and risk factors of bowel dysfunction after minimally invasive rectal cancer surgery and discrepancies between the Wexner score and the low anterior resection syndrome (LARS) score.

Surg Today, 54(7): 763-770, 2024 年

Ota E, Fukunaga Y, Mukai T, Hiyoshi Y, Yamaguchi T, Nagasaki T, Akiyoshi T.

Cytoreductive surgery without intra-peritoneal chemotherapy for metachronous colorectal peritoneal metastases.

World J Surg Oncol, 22(1): 205, 2024 年

Udagawa S, Osumi H, Kozuki R, Ooki A, Wakatsuki T, Kurihara N, Mukai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Fukunaga Y, Yamaguchi K, Shinozaki E.

Clinical utility of the carcinoembryonic antigen level in patients with stage III colon cancer after surgery and adjuvant chemotherapy.

Surg Today, 54(7): 692-701, 2024 年

Ando Y, Sakurai T, Ozaki K, Matsui S, Mukai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Nakayama I, Shigematsu Y, Oba A, Chino A, Fukunaga Y.

Integrating surgical intervention and watch-and-wait approach in dMMR metastatic rectal cancer with pembrolizumab: a case report.

Surg Case Rep, 10(1): 198, 2024 年

Mukai T, Matsui S, Sakurai T, Yamaguchi T, Akiyoshi T, Fukunaga Y.

Short-term outcomes of the minimal skin incision and no stoma procedure in needlescopic intersphincteric resection and delayed coloanal anastomosis for low rectal cancer.

Tech Coloproctol, 28(1): 110, 2024 年

Fujiyoshi K, Sudo T, Fujita F, Tanihara S, Ishida H, Shichijo S, Chino A, Nagasaki T, Takao A, Sasaki K, Akagi K, Matsubara T, Ueno H, Hirata K, Miyakura Y, Ishikawa T, Sunami E, Takahashi Y, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y.

Marital status after colorectal surgery in familial adenomatous polyposis: A nationwide multicenter study in Japan. *Int J Clin Oncol*, 29(9): 1274-1283, 2024 年

Numata M, Yamaguchi T, Shiomi A, Inada R, Shiozawa M, Kazama K, Hotchi M, Yamamoto D, Hasegawa S, Miguchi M, Ohnuma S, Uehara K, Munakata K, Kinugasa Y, Horie H, Yamaguchi S, Takeshima T, Hida K, Akagi T, Kagawa H, Oyamada S, Rino Y, Sakai Y, Watanabe M, Naitoh T.

Prospective multicenter comprehensive survey on male sexual dysfunction following laparoscopic, robotic, and transanal approaches for rectal cancer (the LANDMARC Study).

Ann Surg, Online ahead of print, 2024 年

Sakimoto Y, Kumegawa K, Matsui S, Yamaguchi T, Mukai T, Okabayashi K, Mori S, Kitagawa Y, Akiyoshi T, Maruyama R.

Single-cell RNA-seq analysis of cancer-endothelial cell interactions in primary tumor and peritoneal metastasis from a single patient with colorectal cancer.

BJC Rep, 2(1): 88, 2024 年

【論文発表】

〈和文学術論文〉

野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志

特集 進行・再発直腸癌治療の最前線 進行直腸癌に対する術前治療と non-operative management

消化器外科, 48(1): 89-98, 2025 年

佐藤健太郎, 山口智弘, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志

特集 エキスパートから学ぶ吻合法のコツ 下部消化管 回腸結腸吻合

臨床外科, 80(1): 46-50, 2025 年

甲津卓実, 山口智弘, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志

特集 ロボット支援大腸癌手術の術野展開－エキスパートに学ぶ手術の極意 ロボット支援結腸右半切除における術野展開のコツ

手術, 79(2): 139-146, 2025 年

南原 翔, 山口智弘, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介

ロボット支援結腸癌手術の現在地 II 各論 5) ロボット支援結腸癌手術における体腔内オーバーラップ吻合のコツと工夫

手術, 78(10): 1643-1650, 2024 年

坂本貴志, 山口智弘, 甲津卓実, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介

特集 2024 年最新版 外科局所解剖全図 II 下部消化管 直腸間膜全切除 (TME) に必要な局所解剖

臨床外科, 増刊号 79(11): 136-141, 2024 年

秋山貴彦, 福長洋介, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志

特集 エキスパートから学ぶ大腸癌に対するロボット支援下手術の実際 1. ロボット支援下腹腔鏡下結腸右半切除術, 外科, 86(13): 1357-1363, 2024 年

【学会発表】

〈国際学会〉

野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 河内 洋, 秋吉高志

進行下部直腸癌に対する当院の治療成績

第 102 回大腸癌研究会学術集会, 2025 年 1 月, 別府

山口智弘

大腸癌に対する低侵襲治療の臨床評価

第 102 回大腸癌研究会学術集会, 2025 年 1 月, 別府

松井信平, 野口竜剛, 坂本貴志, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志

直腸癌に対する術前放射線治療後側方リンパ節郭清を伴う根治手術後合併症に、Total neoadjuvant therapy の与える影響について

第 21 回日本消化管学会総会学術集会, 2025 年 2 月, 東京

神馬真里奈, 向井俊貴, 甲津卓実, 南原 翔, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志

直腸 GIST に対するロボット支援下上直腸動脈完全温存鏡視下括約筋間直腸切除術の有用性

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇都宮

甲津卓実, 山口智弘, 南原 翔, 坂本貴志, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志

肥満症例に対するロボット支援下直腸癌手術の治療成績

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇都宮

原口英里奈, 山口智弘, 甲津卓実, 南原 翔, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志

BMI 50 を超える高度肥満症例に対するロボット支援下直腸癌手術の周術期管理

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇都宮

山口智弘, 野間和広

ロボット支援手術を安全に行うために

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇都宮

松本 倫, 野口竜剛, 山口智弘, 南原 翔, 甲津卓実, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志

ロボット時代における当院での直腸癌手術の修練体制

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇都宮

野口竜剛, 秋吉高志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介

当院における側方リンパ節転移陽性直腸癌に対する術前治療の治療効果

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

向井俊貴, 松井信平, 櫻井 翼, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

局所再発直腸癌に対する鏡視下手術手技の定型化と治療成績

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

山口智弘, 秋吉高志, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 福長洋介

下部進行直腸癌に対する Totalneoadjuvanttherapy と Nonoperative management

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

山口智弘

括約筋間直腸切除術 (ISR)

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

秋吉高志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介, 河内 洋, 森 誠一

進行下部直腸癌における治療前生検検体のゲノム・トランスクリプトーム解析による術前化学放射線療法効果予測

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

坂本貴志, 向井俊貴, 野口竜剛, 櫻井 翼, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

隣接臓器合併切除を伴うロボット直腸癌手術の成績と手技の工夫

第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

松井信平, 秋吉高志, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介
術前放射線療法を施行した下部直腸癌術後の晩期合併症についての検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

尾崎公輔, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
系統的リンパ節郭清を伴う回盲部切除術を施行した虫垂神経内分泌腫瘍の 4 例
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

南原 翔, 松井信平, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
当院における直腸癌患者の術後排便機能の後方視的検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

甲津卓実, 松井信平, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
術前治療を施行した直腸粘液癌の治療成績
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

原口英里奈, 向井俊貴, 松井信平, 櫻井 翼, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
閉塞性大腸癌に対する SEMS の Bridgetosurgery の至適時期
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

小澤直也, 松井信平, 野口竜剛, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
大腸印環細胞癌の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

櫻井 翼, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 河内 洋, 福長洋介
直腸神経内分泌腫瘍における側方リンパ節転移の危険因子と予後への影響
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 名古屋

山口智弘, 秋吉高志, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 福長洋介
下部進行直腸癌に対する最適な術前治療～ TNT と NOM を行う立場から～
第 49 回日本外科系連合学会学術集会, 2024 年 6 月, 東京

野口竜剛, 秋吉高志, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 河内 洋, 福長洋介
進行下部直腸癌に対する、前治療と側方郭清を含めた治療戦略
第 101 回大腸癌研究会学術集会, 2024 年 7 月, 名古屋

秋吉高志, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介
TNT 時代における進行下部直腸癌に対する側方郭清の意義
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

尾崎公輔, 向井俊貴, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
左側大腸癌術後の骨盤内再発に対する腹腔鏡下骨盤内臓摘除術の治療成績
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

小澤直也, 山口智弘, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介
体腔内吻合を行った右側結腸癌手術における腸管前処置と SSI との関係
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

甲津卓実, 向井俊貴, 坂本貴志, 野口竜剛, 櫻井 翼, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
肥満症例に対する鏡視下直腸癌手術の治療成績
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

佐藤健太郎, 松井信平, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
腹水細胞診陽性の直腸癌腹膜播種に対する肉眼的 R0 切除手術の妥当性について
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

南原 翔, 松井信平, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
直腸癌患者の術後排便機能の後方視的検討
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

秋山貴彦, 松井信平, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
当院における急性虫垂炎に対する治療方針の検討
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

向井俊貴, 松井信平, 櫻井 翼, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
局所再発直腸癌に対する鏡視下手術の治療成績と課題
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

松井信平, 秋吉高志, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介
術前放射線治療を施行した直腸癌根治手術後の再発症例に対する治療戦略とその治療成績について
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

山口智弘, 秋吉高志, 野口竜剛, 坂本貴志, 櫻井 翼, 松井信平, 向井俊貴, 福長洋介
術前治療後に病理学的完全奏効となった直腸癌の長期成績と Nonoperative management の経験
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

山口智弘
大腸: 術前治療 2
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

山口智弘
直腸がん治療の未来を探る ～進行直腸がんを考える～
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

向井俊貴, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志
切除不能大腸癌肝転移に対する Conversion surgery の治療成績
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

山口智弘, 野口竜剛, 甲津卓実, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志
ロボット支援下直腸癌手術の短期・長期成績と次世代への技術伝承
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

秋吉高志, 篠崎英司, 田口千藏, 千野晶子, 小山眞道, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘,
山口研成
局所進行直腸癌に対する non-operative management (NOM) の現状と問題点
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

松井信平, 南原 翔, 野口竜剛, 坂本貴志, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
直腸癌術後の排便機能障害の長期的観察研究
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

甲津卓実, 篠崎英司, 秋吉高志, 坂本貴志, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 福岡聖大, 大隅寛木,
若槻 尊, 田口千藏, 河内 洋, 山口研成, 福長洋介
進行直腸癌に対する術前治療後の病理組織学的効果および腫瘍縮小パターンの検討
JDDW2024 KOBE, 2024 年 11 月, 神戸

坂本貴志, 甲津卓実, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
機械学習を用いた直腸癌術後再発予測モデルの構築
JDDW2024 KOBE, 2024 年 11 月, 神戸

安藤陽平, 櫻井翼, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 大庭篤志, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
Mismatch repair deficient の同時性肝転移を伴う下部直腸癌に対する PD-1 阻害薬, 手術, watch and wait を組み合わせた治療戦略

JDDW2024 KOBE, 2024 年 11 月, 神戸

野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 河内洋, 秋吉高志

進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法後の組織学的治療効果

第 28 回日本外科病理学会学術集会, 2024 年 11 月, 東京

野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 河内洋, 秋吉高志

進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法の治療成績 ~ TME と Watch and Wait ~

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

神馬真里奈, 坂本貴志, 河内洋, 甲津卓実, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

術前治療を行なった若年性直腸癌と非若年性直腸癌の背景および予後の比較検討

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024 年 11 月, 宇都宮

坂本貴志, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

機械学習を用いた直腸癌術後再発予測モデルの構築と評価

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

野口竜剛, 山口智弘, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介

腹腔鏡下結腸癌手術における体腔内吻合~術後合併症と予後に関する検討~

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

山口智弘, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介

結腸癌に対するロボット支援手術の現状と課題

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

松井信平, 秋吉高志, 野口竜剛, 坂本貴志, 向井俊貴, 山口智弘, 福長洋介

術前放射線療法後の直腸癌術後慢性期合併症に対する側方リンパ節郭清の影響について

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

南原翔, 松井信平, 野口竜剛, 坂本貴志, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

当院における直腸癌患者の術後排便機能障害の後方視的検討によるリスク因子の抽出

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

佐藤健太郎, 福長洋介, 高松学, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘

スコープ通過不能左側大腸癌に対する大腸ステント留置が長期予後に与える影響に関する検討

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

秋山貴彦, 松井信平, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介

大腸粘液性腺癌の補助化学療法効果の検討

第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

野口竜剛, 山口智弘, 甲津卓実, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介

ロボット支援下直腸癌手術の短期・長期成績~傾向スコアマッチングによる腹腔鏡下直腸癌手術との比較~

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

松井信平, 秋吉高志, 山口智弘, 向井俊貴, 坂本貴志, 野口竜剛, 福長洋介

術前放射線療法後の直腸癌腹腔鏡術後合併症に対する側方リンパ節郭清手技の影響について

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

甲津卓実, 山口智弘, 坂本貴志, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 秋吉高志, 福長洋介
ロボット支援下結腸癌手術に対する定型化の取り組み
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

原口英里奈, 向井俊貴, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
骨盤内悪性腫瘍に対する経肛門的鏡視下アプローチ併用 2 チーム手術の治療成績
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

神馬真里奈, 向井俊貴, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
直腸 GIST に対する上直腸動脈完全温存鏡視下括約筋間直腸切除術の有用性
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

坂本貴志, 甲津卓実, 野口竜剛, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
若手外科医から見た大腸ロボット支援手術教育の現状
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

尾崎公輔, 向井俊貴, 甲津卓実, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志
直腸癌術後骨盤内再発症例に対する低侵襲骨盤内臓摘除術の治療成績
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

安藤陽平, 野口竜剛, 甲津卓実, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
直腸癌手術の肛門側切離端決定における直腸診と術中内視鏡の比較
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

小澤直也, 野口竜剛, 甲津卓実, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
腹腔鏡下およびロボット支援下直腸癌手術における SSI を減少させる最適な腸管前処置の検討
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

竹中僚一, 向井俊貴, 甲津卓実, 坂本貴志, 野口竜剛, 松井信平, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
当科における局所進行結腸癌に対する腹腔鏡下他臓器切除術の治療成績
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

向井俊貴, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志, 福長洋介
Total Neoadjuvant Therapy 後の側方リンパ節郭清の治療成績と手技の要点
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

福長洋介, 三城弥範, 北川祐資, 櫻井翼, 野口竜剛, 坂本貴志, 松井信平, 向井俊貴, 山口智弘, 秋吉高志
結腸癌低侵襲手術後体腔内吻合の有用性と課題
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

山口智弘
下部悪性 ロボット手術 結腸 7
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 心臓血管外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

畔柳智司, 他

内外2重フェルト補強を用いて断端形成を行う急性A型大動脈解離の手術と成績
第52回日本血管外科学会学術総会, 2025年5月, 別府

畔柳智司, 他

KnitPatchを使用したダブルパッチによる断端形成
第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月, 浜松

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 呼吸器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

渡邊敦子, 余田 誠, 賀来良輔, 澤井 聡

周術期心血管合併症の高リスク症例に対する術後トロポニンIの測定の検討
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢

余田 誠, 渡邊敦子, 賀来良輔, 大塩麻友美, 澤井 聡

経気管支的腫瘍切除後、2期的に根治切除術を施行した気管支粘表皮癌の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢

賀来良輔, 渡邊敦子, 余田 誠, 大塩麻友美, 澤井 聡

同側異肺葉に部分肺静脈還流異常を伴う右下葉肺癌に対して、右肺全摘を施行した一例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年6月, 軽井沢

渡邊敦子, 余田 誠, 賀来良輔, 澤井 聡

気管支鏡下に切除した気管支腫瘍3例の検討
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

余田 誠, 澤井 聡, 賀来良輔, 渡邊敦子, 大塩麻友美

アスベスト暴露後に胸腔鏡検査で診断した胸膜原発MALTリンパ腫の1例
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

賀来良輔, 渡邊敦子, 余田 誠, 大塩麻友美, 澤井 聡

ロボット支援胸腔鏡下肺切除術における人工気胸法導入
第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年11月, 横浜

余田 誠, 渡邊敦子, 賀来良輔, 大塩麻友美, 澤井 聡

FDG/PET-CTで高集積を伴った化生性胸腺腫の1例
第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年11月, 横浜

余田 誠, 賀来良輔, 渡邊敦子, 大塩麻友美, 澤井 聡

絶対的無輸血希望の重症筋無力症患者に開胸下およびロボット支援胸腔鏡下に拡大胸腺摘出術を行った2例
第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年11月, 横浜

渡邊敦子, 余田 誠, 賀来良輔, 澤井 聡
石灰化を伴う肺腫瘍 3 例の検討
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

賀来良輔, 渡邊敦子, 余田 誠, 大塩麻友美, 澤井 聡
当科における肺癌術後再発に対してのニボルマブ・イピリムマブ併用療法
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

地方独立行政法人 公立甲賀病院 外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

吉村昂平, 岡田俊裕, 太田裕之, 中右雅之
体腔内腸間膜切離先行により腹腔鏡下に絞扼を解除し開腹移行を回避し得た絞扼性腸閉塞の 1 例
日本腹部救急医学会雑誌, 44(3): 525-528, 2024

【学会発表】

〈国内学会〉

内藤聖哉, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 谷 総一郎, 小島正継, 大竹玲子, 竹林克士, 貝田佐知子,
三宅 亨, 新谷修平, 稲富 理, 谷 眞至
膵癌術後 3 年目に発見され胃局所切除した needle tract seeding の 1 例
第 46 回癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

中右雅之, 吉村昂平, 吉田 祐, 岡田俊裕, 太田裕之
局所進行大腸癌に対する Bridge to Chemotherapy, Followed by Radical Surgery という選択肢
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

内藤聖哉, 三宅 亨, 谷 眞至
十二指腸周囲に癒着を伴う Persistent Descending Mesocolon 直腸癌の一例
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

寶子丸佳音, 吉田 祐, 吉村昂平, 岡田俊裕, 太田裕之, 中右雅之
大綱によって生じた絞扼性胆嚢炎の 1 例
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

吉田 祐, 吉村昂平, 岡田俊裕, 太田裕之, 中右雅之
Stage migration にご注意を! 進行大腸癌における腫瘍全割プロジェクトの推奨
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

内藤聖哉, 前平博充, 森 治樹, 石川 原, 新田信人, 前川 毅, 谷 総一郎, 小島正継, 大竹玲子, 竹林克士,
貝田佐知子, 三宅 亨, 新谷修平, 稲富 理, 谷 眞至
膵体部癌術後胃壁への needle tract seeding に対して胃部分切除を行った 1 例
第 55 回日本膵臓学会大会, 2024 年 8 月, 宇都宮

岡田俊裕, 吉村昂平, 吉田 祐, 太田裕之, 中右雅之
地方中規模病院での hinotori によるロボット支援大腸手術導入時の課題と短期成績
第 32 回消化器学会週間, 2024 年 10 月, 神戸

岡田俊裕, 吉村昂平, 吉田 祐, 太田裕之, 板谷喜朗, 中右雅之
hinotori による大腸癌ロボット支援下手術の導入と短期成績
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

社会医療法人天神会 新古賀病院 消化器外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

宇治祥隆

COVID-19 感染維持透析患者の敗血症性ショックに PMX-DHP 施行も脳梗塞を発症した 1 例
臨床と研究, 102(2): 202-206, 2025

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

宇治祥隆

TAPP 術後漿液腫の長期残存に対して五苓散が有効であった 1 例
第 22 回日本ヘルニア学会, 2024 年 5 月, 新潟

馬場活嘉, 池添清彦

思いがけず肝肥大・肝機能シフトを得ることができた 3 症例の検討
第 86 回日本臨床外科学会総会, 2024 年 11 月, 宇都宮

池添清彦

閉鎖孔ヘルニア 49 例の検討

第 86 回日本臨床外科学会総会, 2024 年 11 月, 宇都宮

柿本忠俊, 池添清彦

ICG 蛍光法と大網被覆術を併用し腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術を施行した巨大肝嚢胞症例の検討
第 86 回日本臨床外科学会総会, 2024 年 11 月, 宇都宮

中村祥一, 池添清彦

鼠径部膨隆で発見され鑑別を要した胃癌腹膜播種再発の一例
第 86 回日本臨床外科学会総会, 2024 年 11 月, 宇都宮

中村祥一, 池添清彦

当施設での腹腔鏡下腓体尾部切除術における腓圧縮に留意した腓切離の検討
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 乳腺外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

辰巳征浩, 梅田朋子, 村上智子, 油木純一, 澤田佳奈, 児玉創太, 木田陸士, 大恵匡俊, 山本 寛, 八木俊和, 来見良誠,
谷 眞至

乳癌化学療法 (FEC 療法) 中に網膜静脈閉塞症による片側性の黄斑浮腫を発症した 1 例
滋賀医科大学雑誌, 38(1): 18-21, 2024

中島滋美, 川崎 拓, 宝子明日香, 山中真由美, 梅田朋子, 目片英治, 杉本俊郎, 向所賢一, 伊藤俊之, 上本伸二
大学外勤務医師 (学外勤務医) の研究をサポートするためのアンケート調査
滋賀医科大学雑誌, 38(1): 36-49, 2024

富田 香, 城山理帆, 木藤寛敬, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 河合由紀, 梅田朋子, 石川 原, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至

T1a 乳癌の腋窩リンパ節再発に対して腋窩郭清と集学的治療を再施行した 2 例
癌と化学療法, 51(3): 1339-1341, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

梅田朋子, 早藤清行, 油木純一, 澤田佳奈, 児玉創太, 木田睦士, 大恵匡俊, 八木俊和, 向所賢一, 谷 眞至,
来見良誠

ソナゾイド造影エコーガイド下針生検により、サブタイプの変化した肝転移を診断し得た 1 例
第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024 年 7 月, 仙台

梅田朋子

乳腺外科医の乳腺外科医の生活と新専門医制度－キャリアアップとライフイベントを考えて－
第 22 回日本乳癌学会近畿地方会, 2024 年 11 月, 大阪

北村美奈, 辰巳征浩, 富田 香, 河合由紀, 森 毅, 梅田朋子, 谷 眞至

当院乳腺外科における BRCA 陽性乳癌症例の検討と今後の課題
第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024 年 7 月, 仙台

富田 香, 城山理帆, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 梅田朋子, 石川 原, 目片英治, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至
軽微な症状で発見された肉芽腫性乳腺炎の 2 例

第 33 回日本乳癌学会学術総会, 2024 年 7 月, 仙台

城山理帆, 富田 香, 辰巳征浩, 北村美奈, 坂井幸子, 森 毅, 梅田朋子, 石川 原, 能島 舞, 森谷鈴子, 谷 眞至
乳癌の転移再発と鑑別を要したシェーグレン症候群のリンパ節腫脹の一例

第 34 回日本乳癌学会学術総会, 2024 年 7 月, 仙台

森 毅, 辰巳征浩, 北村美奈, 富田 香, 坂井幸子, 梅田朋子, 塩原正規, 森谷鈴子, 谷 眞至

線維腺腫内に発生した浸潤性乳管癌の 1 例

第 35 回日本乳癌学会学術総会, 2024 年 7 月, 仙台

城山理帆, 富田 香, 木藤寛敬, 辰巳征浩, 廣畑吉昭, 北村美奈, 坂井幸子, 小幡峻平, 富田靖之, 石川 原, 梅田朋子,
谷 眞至

トラスツズマブエムタシンによる角膜上皮障害をきたした症例

第 22 回日本乳癌学会近畿地方会, 2024 年 11 月, 大阪

〈その他〉

梅田朋子

乳腺外科医の役割－当院でのキイトルーダ 使用経験－

MSD 講演会, 2024 年 11 月, 大津

独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Watanabe Y, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A.
Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on weight loss and metabolic improvement in subjects aged 65 years or older: A subanalysis of J-SMART study.
Diabetology International. 16(1):56-64, 2024

〈和文学術論文〉

上村 嘉誉, 油木 純一, 木田 睦士, 児玉 創太, 大恵 匡俊, 山本 寛, 梅田 朋子, 八木 俊和, 来見 良誠
反対側で偶発的に発見し, 二期的に修復した不顕性閉鎖孔ヘルニアの1例
滋賀医科大学雑誌, 38(1): 50-55, 2025

山本 寛

減量代謝改善手術 Update
滋賀医学, 47: 4-6, 2025

油木純一, 草野佑仁, 大恵匡俊, 山本 寛
Riedel葉が腹部診察と腹腔鏡手術に影響した急性虫垂炎の1例
日本腹部救急医学会雑誌, 44(5): 723-726, 2024

油木純一, 児玉創太, 八木俊和
膀胱上窩に欠損孔が存在するSacless sliding fatty inguinal herniaをTAPP法で修復した1例
日本ヘルニア学会誌, 10(2): 30-36, 2024

【全国学会 / 地方会 学会発表】

上村嘉誉, 油木純一, 大恵匡俊, 山本 寛
閉鎖孔ヘルニア嵌頓で反対側に潜在性閉鎖孔ヘルニアを認めた症例の治療経験
第61回日本腹部救急医学会, 2025年3月, 名古屋

大恵匡俊

身近で知らない肛門の病気
第7回医療セミナー(滋賀医科大学地域医療教育研究拠点市民公開講座), 2025年3月, 草津

油木純一, 児玉創太, 八木俊和
対側アプローチによりTAPP法で修復した不顕性閉鎖孔ヘルニアの1例
第22回日本ヘルニア学会, 2024年5月, 新潟

氷置佳也, 油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 山本 寛, 梅田朋子, 八木俊和
絞扼性腸閉塞に対する腹腔鏡用ICG蛍光法6例の使用経験
第86回日本臨床外科学会, 2024年11月, 宇都宮

氷置佳也, 油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 山本 寛, 梅田朋子, 八木俊和
膀胱上窩に欠損孔が存在するsacless herniaをTAPP法で修復した1手術例
第86回日本臨床外科学会, 2024年11月, 宇都宮

上村嘉誉, 油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 山本寛, 梅田朋子, 八木俊和
Riedel葉の存在によりポート位置を工夫した腹腔鏡下胆嚢摘出術の1手術例
第86回日本臨床外科学会, 2024年11月, 宇都宮

関連病院業績

山本 寛

減量・代謝改善手術 Update

第40回滋賀医学会総会, 2024年11月, 大津

山本 寛, 出村公一, 岡住慎一, 八木俊和, 大恵匡俊, 児玉創太, 木田睦士, 油木純一, 花田誠, 高原亜弥
高度肥満症患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除による閉塞性睡眠時無呼吸症候群の改善効果を検証する多施設共同研究

第9回JCHO地域医療総合医学会, 2024年11月, 仙台

山本 寛

当院の肥満外科治療におけるサステナブルなチーム医療のドライビングフォース

第45回日本肥満学会第42回日本肥満症治療学会, 2024年10月, 横浜

山本 寛, 中島健太郎, 堀切利香, 木田睦士, 花田 誠, 八木俊和

治療に難渋した高度肥満症例から学んだ患者 -アドボカシーの視点からみた当院の患者会の役割-

第45回日本肥満学会第42回日本肥満症治療学会, 2024年10月, 横浜

山本 寛, 有馬久富, 村澤秀樹, 吉岡貴史, 後藤 励

高度肥満症に対する肥満外科治療の費用対効果に関する研究 (令和6年度進捗状況)

第45回日本肥満学会第42回日本肥満症治療学会, 2024年10月, 横浜

八木俊和, 児玉創太, 油木純一, 木田睦士, 山本 寛, 梅田朋子, 大恵匡俊, 来見良誠

胃ろうカテーテル交換後急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の経験

第29回滋賀PEGケアネットワーク, 2024年11月, 草津

上村嘉誉, 木田睦士, 油木純一, 児玉創太, 大恵匡俊, 山本 寛, 梅田朋子, 八木俊和, 来見良誠
腹腔内出血で発症した小腸腫瘍の1例

第121滋賀県外科医会, 2024年11月, 大津

医療法人医仁会 武田総合病院 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hashimoto M, Shibata K, Suzumura Y, et al.

Intraoperative sclerotherapy with absolute ethanol of bronchogenic cysts considered difficult to resect (Technical report).

Respir Endosc, 3(1): 50-53, 2025

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

柴田康平, 他

気管支鏡で診断した稀な肺原発悪性黒色腫の1切除例

第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

橋本雅之, 柴田康平, 鈴木雄治, 他

無水エタノールによる硬化療法後に切除を行った縦隔気管支嚢胞の2例

第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

橋本雅之, 柴田康平, 鈴木雄治

当科におけるロボット支援胸腔鏡下肺区域切除術の導入について

第50回京都医学会, 2024年9月, 京都

橋本雅之, 鈴木雄治

胸腔鏡下前縦隔腫瘍切除術後に生じた右中葉肺捻転に対し3.5年後に同整復術を施行した1例

第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡

医療法人医仁会 武田総合病院 救急医療センター

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

藤田益嗣, 中谷壽男, 野村幸哉, 杉江 亮, 梅景柚希, 柿木大樹, 北出 聖, 谷原カトリーナモモ, 中田翔吾, 陌間廣大, 原田兼匠, 村上由陽, 大久保魁人, 岡田怜奈, 西原和美, 森川玲子, 磯田真紀

院内救急救命士の活動における諸問題

第50回京都医学会, 2024年9月, 京都

社会医療法人信愛会 暇生会脳神経外科病院 外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

津留俊昭, 龍田 健, 田中久富

腹部鈍的外傷で結腸間膜・小腸間膜の2カ所に損傷を来たした1例

第61回日本腹部救急医学会総会, 2025年3月, 名古屋

津留俊昭, 龍田 健, 田中久富, 村上耕一郎, 向所賢一

嚢胞変性をきたし診断に難渋した低悪性度胃 GIST の1例

第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024年9月, 宇都宮

医療法人総心会 長岡京病院 外科

【著書】

濱口絵里, 梅村淳史, 村上耕一郎

「家へ帰るとのこと」

京都私立病院報, 2024(752): 8-9, 2024

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Ngoc Nguyen H, Yamada A, Naka S, Murakami K, Tani S, Tani T.

Microwave scissors-based sutureless laparoscopic partial nephrectomy versus conventional open partial nephrectomy in a porcine model: Usefulness and complication.

Ann Surg Oncol, 31: 5804-14, 2024

【論文発表】

〈和文学術論文〉

村上耕一郎, 津留俊昭, 田中成幸, 石田美奈, 安藤ひみ華, 森愛梨沙, 清水勇帆, 浦木美里, 古谷友梨佳, 谷田京子, 東里加, 龍田 健, 田中久富

働き方改革を意識し在院日数短縮を目指した鼠径ヘルニア手術クリニカルパスの改定

滋賀医科大学雑誌, 38(1): 14-17, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

村上耕一郎, 水黒知行, 橋本京三

コロナ禍における遠方からの受療行動-直腸腔瘻、肛門括約筋機能不全を対象とした検討

第125回日本外科学会総会, 2025年4月, 仙台

村上耕一郎, 高谷陽子, 西川美雪, 和田茉奈美, 益川紗恵子, 成富勇夫

多職種連携により良好な食思とADLの改善を得て自宅退院が可能となった喘息症例

日本栄養治療学会(JSPEN)近畿支部第16回支部学術集会, 2024年7月, 京都

村上耕一郎, 水黒知行, 橋本京三

直腸腔瘻に対する領域抽出モデル作成のための術野画像 annotation の検討-希少疾患の手術手技普及を目的として-

第33回コンピュータ外科学会大会, 2024年11月, 東京

日本赤十字社 長浜赤十字病院 外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

中村誠昌, 張 弘富, 高尾浩司, 徳田 彩, 児玉泰一, 丹後泰久
軟部肉腫に準じた治療で術後 5 年間無再発生存した進行悪性乳腺葉状腫瘍の 1 例
日臨外会誌, 85(11): 1520-1524, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

中村誠昌
医療救護活動チームには是非とも避難所支援に関する学びをお願いしたい
第 30 回日本災害医学会総会・学術集会, 2025 年 3 月, 名古屋

中村誠昌, 酒井 正, 武田宣明, 押谷久美子, 近藤久禎, 富永隆子, 長谷川有史, 廣橋伸之
原子力災害時に活動する保健医療福祉活動チームの放射線防護措置に関する指針の提言
第 30 回日本災害医学会総会・学術集会, 2025 年 3 月, 名古屋

児玉泰一, 徳田 彩, 森 治樹, 木藤寛敬, 谷口正展, 丹後泰久, 中村誠昌, 長門 優, 張 弘富, 塩見尚礼
当院でのロボット支援下胃癌手術の現状と術後短期成績
第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 2025 年 3 月, 宇津宮

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 内藤聖哉, 竹中裕一, 松永隆志, 大竹玲子, 森 治樹, 前平博充,
竹林克士, 貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
当院における BRAFV600E 変異陽性大腸癌 9 例の検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 愛知

木藤寛敬, 若松宏昌, 大場大樹, 大嶋宏一, 森未奈子, 中川 愛, 伊藤璃津子, 廣中 優, 齋藤光里, 角谷和歌子,
今西利之, 閑野知佳, 閑野将行, 采元 純, 菅野雅美, 川畑 建, 康 勝好, 大橋博文, 清水正樹
家族歴より神経線維腫症 1 型との鑑別を要した Fanconi 貧血の 1 例
第 127 回日本小児科学会学術集会, 2024 年 4 月, 福岡

谷口正展, 中村誠昌, 原田吉将
単孔式腹腔鏡下手術で腹膜透析カテーテル閉塞を解除した一例
第 70 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024 年 6 月, 横浜

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 新田信人, 森 治樹, 大竹玲子, 貝田佐知子, 清水智治, 谷 眞至
直腸癌術前治療における効果予測因子としての腫瘍浸潤リンパ球数の検討
第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2024 年 7 月, 東京

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 全 有美, 貝田佐知子, 石川 原, 清水智治, 谷 眞至
大腸癌傍大動脈リンパ節転移に対する治療成績の検討
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 山口

松田明久, 丸山 弘, 木内祐介, 赤木真治, 井上 透, 上村健一郎, 小林美奈子, 塩見尚礼, 下田 貢, 渡邊 学,
菅野仁士, 高木 剛, 本間重紀, 松橋延壽, 問山裕二, 川上雅代, 宮本裕士, 佐々木 健, 石塚 満, 北川雄光
日本外科感染症学会臨床研究支援委員会
大腸癌手術における遠隔感染のリスク因子および予後への影響 日本外科感染症学会多施設研究から
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

木藤寛敬, 坂井幸子, 廣畑吉昭, 谷 眞至
メッケルシンチグラフィ偽陽性後に Crohn 病と診断された 1 歳女児例
第 60 回日本小児外科学会近畿地方会, 2024 年 8 月, 兵庫

仁科勇佑, 三宅 亨, 小島正継, 谷 総一郎, 貝田佐知子, 前平博充, 竹林克士, 井上明星, 清水智治, 谷 眞至
直腸癌 MRI における壁外静脈管侵襲と tumor deposit に関する検討
第 32 回日本消化器関連学会週間, 2024 年 9 月, 神戸

児玉泰一

どうしよう、救急受診!?! ~救急外来を正しく上手に利用するために役立つ話~
湖北医師会 第 432 回健康教室, 2024 年 9 月, 長浜

安藤文彦, 松田明久, 丸山 弘, 赤木真治, 井上 透, 上村健一郎, 小林美奈子, 塩見尚礼, 下田 貢, 水内祐介,
渡邊 学, 新井洋紀, 牧野浩司, 吉田 寛, 北川雄光
胃癌における術後感染症は再発後の予後に影響するか?
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 10 月, 東京

水内祐介, 田村公二, 永吉絹子, 藤本崇聡, 松田明久, 丸山 弘, 赤木真治, 井上 透, 上村健一郎, 小林美奈子, 塩見尚礼,
下田 貢, 渡邊 学, 種本和雄, 北川雄光, 中村雅史
大腸手術における表層 SSI と術前腸管処置についての検討
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 10 月, 東京

松田明久, 水内祐介, 上村健一郎, 赤木真治, 井上 透, 下田 貢, 塩見尚礼, 小林美奈子, 渡邊 学
大腸手術における腸管処置の変遷について
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 10 月, 東京

松田明久, 丸山 弘, 木内祐介, 赤木真治, 井上 透, 上村健一郎, 小林美奈子, 塩見尚礼, 下田 貢, 渡邊 学, 菅野仁士,
高木 剛, 本間重紀, 松橋延壽, 問山裕二, 川上雅代, 宮本裕士, 佐々木健, 石塚 満, 北川雄光
臨床研究支援委員会主導『大腸手術における腸管前処置に関する全国アンケート調査』
第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2024 年 10 月, 東京

中村誠昌, 児玉泰一, 富岡康弘, 伊吹好弘, 岡田勇次郎, 松村晟仁
初動から日赤に期待されていた役割は「避難所情報管理と支援対応」だった
第 60 回日本赤十字社医学会総会, 2024 年 10 月, 仙台

中村誠昌, 酒井 正, 武田宣明, 押谷久美子, 近藤久禎, 富永隆子, 長谷川有史, 廣橋伸之
原子力災害時における日赤救護班活動基準の適正性に関する検討
第 60 回日本赤十字社医学会総会, 2024 年 10 月, 仙台

中村誠昌, 白川 努, 児玉泰一, 日野篤信
救急搬送困難事案がほぼ無い地域の現状とその要因
第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024 年 10 月, 仙台

Nishina Y, Miyake T, Kojima M, Tani S, Zen Y, Muramoto K, Mori H, Otake R, Maehira H, Takebayashi K, Kaida S,
Ishikawa H, Shimizu T, Tani M.
直腸癌に対する術前治療が腫瘍浸潤リンパ球や癌周囲の繊維化に与える影響
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

丹後泰久, 高尾浩司, 新田信人, 徳田 彩, 児玉泰一, 長門 優, 谷口正展, 張 弘富, 中村誠昌, 塩見尚礼
直腸癌術後孤立性脳転移に対し、局所治療により無再発生存中の一例
第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024 年 10 月, 福岡

丹後泰久, 木藤寛貴, 高尾浩司, 新田信人, 森 治樹, 徳田 彩, 児玉泰一, 長門 優, 谷口正展, 張 弘富, 中村誠昌,
塩見尚礼
透析患者に発症した門脈ガスを伴う急性腹症の一例
第 121 回滋賀県外科医会, 2024 年 10 月, 滋賀

丹後泰久, 塩見尚礼

コロナ禍での急性胆嚢炎診療～自施設での対応を振り返って～
第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024 年 10 月, 愛知

児玉泰一, 中村誠昌, 白川 努, 高尾浩司, 丹後泰久, 谷口正展, 新田信人, 徳田 彩, 長門 優, 張 弘富, 塩見尚礼
自転車転倒による鈍的腹部外傷の 3 例

第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024 年 10 月, 仙台

木藤寛敬, 坂井幸子, 廣畑吉昭, 谷 真至

稀な腸管形態異常により発症し胎児診断がつかなかった胎便性腹膜炎の 1 例
第 40 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2024 年 10 月, 東京

谷口正展, 高尾浩司, 徳田 彩, 児玉泰一, 長門 優, 丹後泰久, 中村誠昌, 塩見尚礼
当院で経験した虫垂癌症例の検討

第 32 回日本消化器関連学会週間, 2024 年 11 月, 神戸

黒川美知代, 塩見尚礼, 横江正道, 大石美枝, 行木希美

グループ病院全体での多職種による転倒・転落予防活動
第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

児玉泰一, 丹後泰久, 谷口正展, 中村誠昌, 徳田 彩, 新田信人, 高尾浩司, 長門 優, 張 弘富, 塩見尚礼
鼠径部ヘルニア嵌頓緊急手術における腹腔鏡を用いた一期的にメッシュ留置を行う工夫

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

のじまバスキュラーアクセスクリニック

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Takai K, Nojima T, Taguchi H, Hasegawa K, Yamauchi T.

Efficacy of using a vessel dilator during surgery to evaluate vein diameter and predict radiocephalic arteriovenous fistula maturation and patency.

Surgeries, 5(4): 948-955, 2024

【論文発表】

〈和文学術論文〉

野島武久, 本宮康樹

高難度 VAIVT 症例への対応と工夫

腎と透析, 97: 43-45, 2024

野島武久, 本宮康樹

アクセスクリニックにおけるシャント管理の現況

腎と透析, 97: 49-51, 2024

野島武久, 本宮康樹

TCC (カフ型カテーテル) 挿入手技と盲点

腎と透析, 97: 67-69, 2024

野島武久, 本宮康樹

AVG 流出路静脈狭窄への VIABAHN 治療成績と著効例

透析 VAIVT, 6: 95-98, 2024

【学会発表】

〈国際学会〉

Nojima T.

Proper care for high flow AV access.

Saving Vessels, Saving Lives in ESRD Patients, 2024年9月, Busan, Korea

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

野島武久, 本宮康樹

NSE PTA, Aperta NSE PTA の特徴と使用経験

第30回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会総会, 2025年3月, 東京

野島武久, 本宮康樹

ステントグラフト導入による AVG 手術戦略の変容

第30回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会総会, 2025年3月, 東京

Takai K, Nojima T, Takai N, Taguchi H, Hasegawa K, Yamauchi T

Efficacy of using a vessel dilator during surgery to evaluate vein diameter and predict radiocephalic arteriovenous fistula maturation and patency

第44回日本静脈学会総会, 2024年6月, 軽井沢

野島武久, 本宮康樹

AVG 手術の適応・デザイン・作製の工夫

第28回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2024年10月, 京都

野島武久, 本宮康樹

シャント手術でのナイトメア

第28回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2024年10月, 京都

野島武久, 本宮康樹

難治症例の検討

第20回究道会, 2024年11月, 大阪

医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院 心臓血管外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

西村知起, 榎本匡秀, 鈴木友彰

リードペースメーカー留置中にガイドワイヤーが抜去困難となり外科的抜去と三尖弁形成術を要した一例

第55回日本心臓血管外科学会, 2025年2月, 下関

医療法人社団 昂会 東近江市立能登川病院 外科

【学会発表】

〈国内学会〉

伊藤 文, 中村一郎, 長谷川 均
急性期病院勤務医が行う癌終末期患者に対する訪問診療の検討
日本緩和医療学会第6回関西支部学術大会, 2024年9月, 大津

中村一郎, 森田幸代, 木本美由紀, 川嶋頼子
模擬・臨床倫理カンファレンス
日本緩和医療学会第6回関西支部学術大会, 2024年9月, 大津

独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Ukai Y, Yamamoto M, Ozaki Y, Akazawa A, Ohuchi M, Inoue S, Moritani S, Fujimoto N.
Two cases of Birt-Hogg-Dube syndrome (Hornstein-Kinckenberg syndrome) with fibrofolliculoma and fibrous papules.
European Journal of Dermatology, 34(3): 1-3, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

大塩恭彦, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美, 花岡 淳
安全技術認定の評価に耐えうる単孔式手術をめざして
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 赤澤 彰
胸腔鏡下生検で診断した原発巣切除後約40年を経過した甲状腺癌肺転移の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年6月, 軽井沢

大塩恭彦, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美, 仲川宏昭, 山口将史, 中野恭幸, 花岡 淳
単孔式手術と呼吸筋力の低下について
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 赤澤 彰
Endobronchial Watanabe Spigot (EWS) による気管支充填術を繰り返し行い治療した膿気胸の1例
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

尾崎良智, 赤澤 彰, 大内政嗣, 井上修平
気管支扁平上皮乳頭腫の1例
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

大塩恭彦, 石原大悟, 齊藤弘紀, 白鳥琢也, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美, 花岡 淳
単孔式肺癌手術におけるより良好な視野を得るための工夫
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 10 月, 横浜

赤澤 彰, 井上修平, 尾崎良智, 大内政嗣
ナブパクリタキセル単剤投与で長期無増悪生存を得た非小細胞肺癌の 2 症例
第 65 回日本肺癌学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

川崎誠康, 亀山雅男
直腸癌手術における一時回腸 stoma の閉鎖に関連するリスクの検討
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

土橋洋史, 宮内智之, 福尾飛翔, 川崎誠康, 他
後期高齢者に対するロボット支援下直腸癌手術の中期成績について
第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024 年 4 月, 常滑

川崎誠康, 宮内智之, 濱野玄弥, 他
大腸癌大動脈周囲リンパ節転移症例に対する腹腔鏡下郭清
第 46 回癌局所療法研究会, 2024 年 6 月, 長浜

川崎誠康, 土橋洋史, 宮内智之, 他
脾彎曲部授動を要するロボット支援下結腸癌手術における工夫
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

土橋洋史, 宮内智之, 川崎誠康, 他
後期高齢者に対するロボット支援下直腸癌手術の短中期成績について
第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024 年 7 月, 下関

川崎誠康, 土橋洋史, 奥村 哲, 他
ロボット支援手術におけるトラブル対処と安全対策
第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024 年 11 月, 横浜

川崎誠康, 玉田聡, 小松弘明, 宮 武崇
ロボット支援手術安全体制の構築 当施設の取り組み
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

土橋洋史, 宮内智之, 川崎誠康, 他
市中病院における初期ロボット支援下直腸癌手術の短中期成績について
第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024 年 12 月, 福岡

社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 乳腺センター

【論文発表】

〈和文学術論文〉

鎗山憲人, 水谷麻紀子, 大原亜子, 阿部 元
Anthracycline 系抗瘤剤による心機能障害から回復し得た乳癌の 1 例
乳癌の臨牀, 40(1): 29-37, 2025

鎗山憲人, 水谷麻紀子, 大原亜子, 米田玄一郎, 阿部 元
G-CSF 産生乳癌の 2 例
乳癌の臨牀, 39(3): 275-283, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

鎗山憲人, 水谷麻紀子, 大原亜子, 阿部 元, 米田光里
肝生検でペンプロリズマブの免疫関連有害事象 (irAE) による, 肝機能障害と診断された 1 例
第 32 回日本乳癌学会総会, 2024 年 7 月, 仙台

水谷麻紀子, 鎗山憲人, 大原亜子, 米田光里, 阿部 元
患者希望で摘出した巨大乳腺脂肪腫の一例
第 32 回日本乳癌学会総会, 2024 年 7 月, 仙台

大原亜子, 鎗山憲人, 水谷麻紀子, 阿部 元
高齢者における TNBC の周術期治療の検討
第 32 回日本乳癌学会総会, 2024 年 7 月, 仙台

阿部 元, 大原亜子, 鎗山憲人, 水谷麻紀子, 米田光里, 米田玄一郎
ホルモン陽性乳癌と混在していた化生癌の 1 例
第 32 回日本乳癌学会総会, 2024 年 7 月, 仙台

米田光里, 鎗山憲人, 大原亜子, 水谷麻紀子, 阿部 元
乳癌術前化学療法後より発症した難治性両側涙小管閉塞の一例
第 32 回日本乳癌学会総会, 2024 年 7 月, 仙台

独立行政法人国立病院機構 南京都病院 呼吸器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

大塩恭彦, 斉藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美,
花岡 淳
安全技術認定の評価に耐えうる単孔式手術をめざして
第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024 年 5 月, 軽井沢

余田 誠, 渡辺敦子, 賀来良輔, 大塩麻友美, 澤井 聡
経気管支的腫瘍切除術後、2 期的に根治切除術を施行した気管支粘表皮癌の 1 例
第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024 年 5 月, 軽井沢

賀来良輔, 渡辺敦子, 余田 誠, 大塩麻友美, 澤井 聡
同側異肺葉に部分肺静脈還流異常を伴う右下葉肺癌に対して、右肺全摘を施行した一例
第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024 年 5 月, 軽井沢

橋本雅之, 渡辺敦子, 余田 誠, 賀来良輔, 大塩麻友美, 鈴木雄治, 澤井 聡
無水エタノールによる硬化療法後に切除を行った縦隔気管支嚢胞の 2 例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

大塩恭彦, 齊藤弘紀, 柴田康平, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 川口 庸, 大塩麻友美, 仲川宏昭,
山口将史, 中野恭幸, 花岡 淳
単孔式手術と呼吸筋力の低下について
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

余田 誠, 澤井 聡, 賀来良輔, 渡辺敦子, 大塩麻友美
アスベスト暴露後に胸腔鏡検査で診断した胸膜原発 MALT リンパ腫の 1 例
第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024 年 6 月, 大阪

医療法人社団緑成会 横浜総合病院 心臓血管外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

Higashita R, Nakayama Y, Miyazaki M, Yokawa Y, Iwai R, Funayama-iwai M.
Dramatic wound closing effect of a sigle application of an iBTA-induced autologous biosheet on severe diabetic foot ulcers involving the heel area.
Bioengineering, 11: 462-71, 2024

Ohura N, Kimura C, Ando H, Yuzuriha S, Funakawa M, Higashita R, Ayabe S, Tsuji Y, Fujii M, Terabe Y, Sakisaka M, Iwashina Y, Nakanishi A, Susaki S, Hasegawa T, Kawauchi T, Hisamichi K.
Efficacy of autologous platelet-rich plasma gel in patients with hard-to-heal diabetic ulcers: A multicentre study in Japan.
Journal of Wound Care, 33(7): 484-94, 2024

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

東田隆治, 宮崎真奈美, 余川陽子
CLTIにおける生体内組織形成術を用いた Biotube および Biosheet の臨床応用
日本医工学治療学会第 40 回学術大会, 2024 年 5 月, 名古屋

東田隆治
透析患者における下肢動脈疾患 (LEAD) の治療ストラテジー
第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024 年 6 月, 横浜

東田隆治, 宮崎真奈美, 余川陽子, 中山泰秀, 岩井良輔, 船山麻理菜, 坂上倫久
多能性幹細胞集積器 (鋳型) による生体内組織形成術で得られるバイオシートを用いた難治性足潰瘍の治療経験
第 16 回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2024 年 7 月, 金沢

医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 呼吸器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会〉

北村将司, 堀本かんな, 一瀬増太郎

胸腔内に押し込むことにより胸腔鏡下アプローチのみで切除できたダンベル型前胸壁神経鞘腫の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢

堀本かんな, 北村将司, 一瀬増太郎

大動脈瘤との鑑別が問題となった孤立性線維性腫瘍の1例
第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年6月, 軽井沢

堀本かんな, 北村将司, 一瀬増太郎

A群β溶結性レンサ球菌による急性膿胸に対して胸腔鏡下膿胸腔搔爬術が有効であった1例
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

北村将司, 堀本かんな, 一瀬増太郎

悪性リンパ腫治療後の左上葉肺癌に対して肺機能温存を目的に胸腔鏡下左肺上区+S6部分切除術を施行した1例
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024年6月, 大阪

北村将司, 堀本かんな, 一瀬増太郎

気胸を契機に診断に至った肺肉腫の1例
第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年10月, 横浜

堀本かんな, 北村将司, 一瀬増太郎

術後15年に孤立性腫瘍の形で発見された乳癌胸膜播種再発の1例
第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年11月, 横浜

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会

■ 役 員

■ 賛助会員一覧

■ 広告掲載ご協力

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会役員・委員

2026年1月1日現在

(理 事 長)	・谷 徹		
(副 理 事 長)	・平 野 正 満		
(理 事)	・谷 眞 至 (2025年度会長)	・鈴木 友 彰	・庄 司 文 裕
(理 事) (教育・学術)	・小 玉 正 智	・浅 井 徹	
(広報)	・目 片 英 治	・浅 田 佳 邦	
(会計)	・梅 田 朋 子	・白 石 昭 一 郎	
	・木 築 野 百 合	・花 岡 淳	
(監 事)	・加 藤 弘 文	・来 見 良 誠	
(代 議 員)	・一 瀬 増 太 郎	・江 口 豊	・大 内 政 嗣
	・大 塩 麻 友 美	・太 田 裕 之	・尾 崎 良 智
	・貝 田 佐 知 子	・北 村 将 司	・畔 柳 智 司
	・塩 見 尚 礼	・清 水 智 治	・鈴 村 雄 治
	・高 島 範 之	・竹 林 克 士	・富 田 香
	・内 藤 弘 之	・仲 成 幸	・松 林 景 二
	・三 宅 亨	・村 田 聡	・山 口 智 弘
(事 務 局 長)	・仲 成 幸		
(事 務 局)	・三 宅 亨	・富 田 香	
	・高 島 範 之	・川 口 庸	
(会計・総務)	・清 水 智 治	・神 谷 賢 一	
(選挙管理委員会)	・小 島 正 継	・近 藤 康 生	・岡 本 圭 伍
(企画(教育・学術))	・村 田 聡	・三 宅 亨	
(広報)	・山 口 剛	・榎 本 匡 秀	・白 鳥 琢 也

名 誉 会 員 ・小 玉 正 智 ・浅 井 徹 ・(故)岡 田 慶 夫

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 賛助会員一覧

2025年12月1日現在

赤穂市民病院
医療法人医仁会 武田総合病院
医療法人恭昭会 彦根中央病院
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院
医療法人京都翔医会 西京都病院
医療法人社団浅ノ川 心臓血管センター 金沢循環器病院
医療法人社団昂会 日野記念病院
医療法人社団昂会 湖東記念病院
医療法人社団昂会 東近江市立能登川病院
医療法人社団美松会 生田病院
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
医療法人仁生会 甲南病院
医療法人総心会 長岡京病院
社会医療法人東和会 第一東和会病院
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院
医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院
医療法人芙蓉会 南草津病院
医療法人 マキノ病院
医療法人よつば会 くろづ外科医院
近江八幡市立総合医療センター
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
公益財団法人 豊郷病院
公立甲賀病院
国民健康保険 小松市民病院
社会医療法人誠光会 淡海医療センター
社会医療法人信愛会 暇生会脳神経外科病院
社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
社会医療法人天神会 新古賀病院
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター
独立行政法人地域医療推進機構 滋賀病院
長浜市立湖北病院
長浜赤十字病院
医療法人社団志高会 三菱京都病院

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会の活動に、ご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。
会員相互の親睦活動に加え、外科に関する学術の研鑽、若手外科医の育成、および地域の外科医療の発展になお一層尽力する活動を行っていく所存でございます。

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 広告掲載ご協賛

(滋賀医科大学外科同門会誌)

日本ライフライン株式会社

中外製薬株式会社

泉工医科工業株式会社

テルモ株式会社

オリンパスマーケティング株式会社

ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

大鵬薬品工業株式会社

株式会社ジェイ・エム・エス

エア・ウォーター・リンク株式会社

武田薬品工業株式会社

コヴィディエンジャパン株式会社

(申し込み順)

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会誌発行にあたり、多くの皆様からご協賛いただきました。
ここに深く御礼申し上げます。

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会



FOR AORTA
FROZENIX
4 Branched

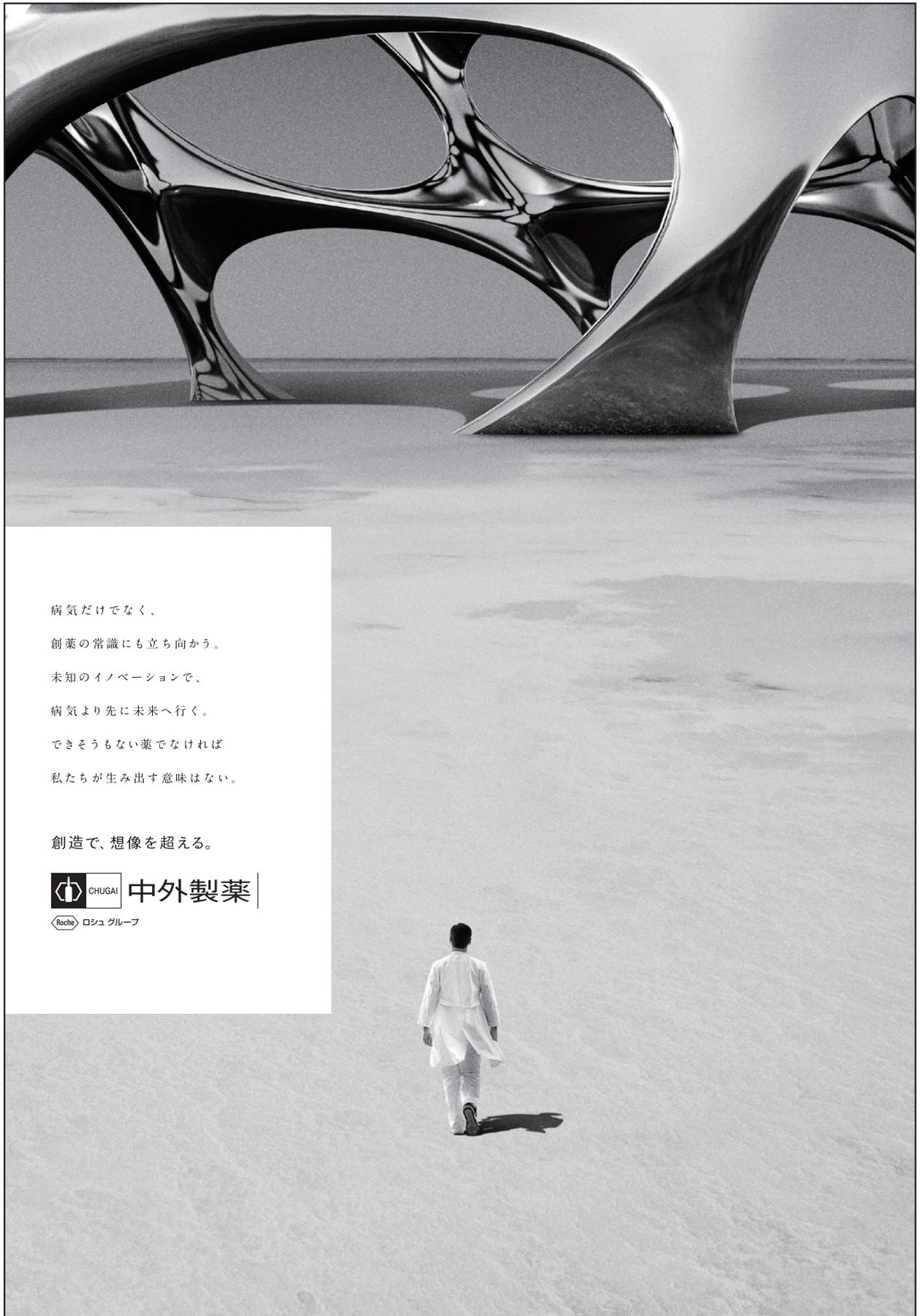
4分岐管一体型オープンステントグラフト

販売名：J Graft シールド OPEN STENT GRAFT 一般的名称：大動脈用ステントグラフト(ゼラチン使用人工血管) 医療機器承認番号：30200BZX00378000

製造販売業者

日本ライフライン株式会社
〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
<https://www.jll.co.jp>

JLL Japan Lifeline



病気だけでなく、
創薬の常識にも立ち向かう。
未知のイノベーションで、
病気より先に未来へ行く。
できそうもない薬でなければ
私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。



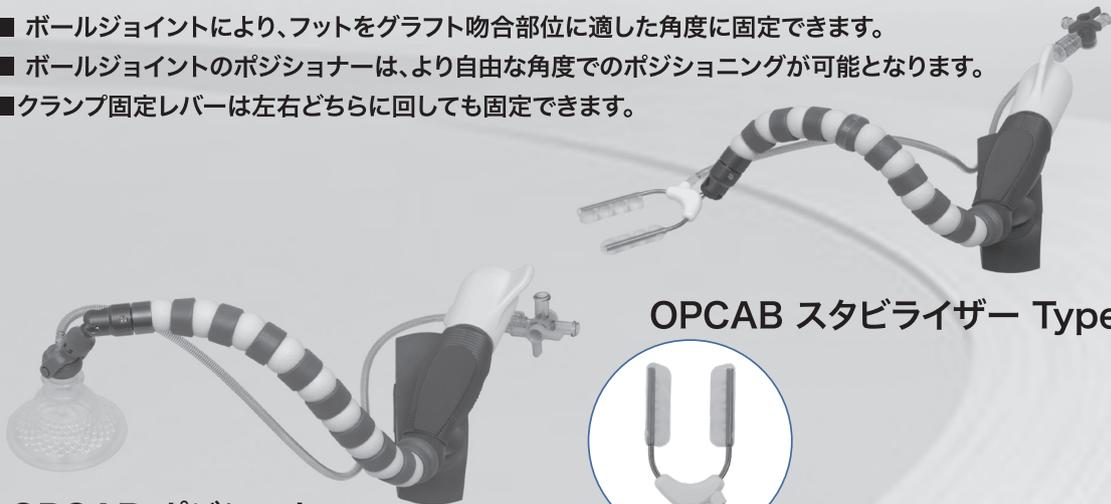
CHUGAI

中外製薬

Roche ロシュグループ



- フルディスプレイのOPCAB用スタビライザーとポジショナーです。
- クランプベース接続部でアームの角度を変えることができます。
- ボールジョイントにより、フットをグラフト吻合部位に適した角度に固定できます。
- ボールジョイントのポジショナーは、より自由な角度でのポジショニングが可能となります。
- クランプ固定レバーは左右どちらに回しても固定できます。



OPCAB スタビライザー Type B

OPCAB ポジショナー

OPIOPCAB プロシージャースystem

製造業者



OplInstruments ドイツ

認証番号: 301ADBZX00082000

ON-X Prosthetic Heart Valves Designed for Life

画期的な素材技術とデザインにより、
血液に優しい機械式人工弁が完成しました。

ON-X 機械式人工心臓弁

医療機器承認番号: 22200BZIO0014000

外国特例承認取得者



ON-X Life Technologies, Inc.
オンエックス ライフ テクノロジーズ (アメリカ)

製造販売業者

MERA 泉工医科工業株式会社

■ 問い合わせ先: 本社商品企画: TEL.03-3812-3254 FAX.03-3815-7011

■ 営業拠点: 札幌支店・東北支店・青森・盛岡・福島・関東支店・松本・新潟・首都圏東支店・つくば・東京支店・横浜支店・中部支店・静岡・金沢・関西支店・中四国支店・岡山・四国・九州支店・南九州

■ 常に研究・改良に努めておりますので、外観及び仕様の一部は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。www.mera.co.jp

TERUMO

スプレーなら、狙いやすい

癒着防止 吸収性バリア

Ad Spray

一般的名称:癒着防止吸収性バリア 販売名:アドスプレー 医療機器承認番号:22800BZX00234

製造販売業者 テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

TERUMO Ad Sprayはテルモ株式会社の商標です。
テルモ、アドスプレーはテルモ株式会社の登録商標です。
©テルモ株式会社 2016年5月

OLYMPUS

Surgical Energy Platform
USG-410 & ESG-410

両開きかつメリーランド型の先端形状



製造販売元	オリンパスメディカルシステムズ株式会社
型番名	登録商標番号
小売コード名	30400BZX00265000
高周波手術装置 ESG-410	30400BZX00264000
超音波刀柄二手用装置 USC-410	30200BZX00265000

POWERSEAL

快適性を追求した高周波シーリングデバイス

POWERSEALは、シーリングデバイスに求められる多様なニーズをもとに設計されました。高い封止能をはじめ、人間工学に基づいたハンドルとメリーランド型の先端形状により直感的かつ快適な操作をサポートします。

主な特長

- Strong Sealing** 7mm以下の血管封止
- Multi-functional Design** 把持・剥離・止血など、さまざまな機能で手術をサポート
- Improved Ergonomics** 人間工学に基づいたハンドルデザインにより、手の疲労軽減をサポート

オリンパスマーケティング株式会社

www.olympus.co.jp

R885U

患者さん自らが持つ免疫力を、
 がん治療に大きく生かすことはできないだろうか——。
 小野薬品とプリストル・マイヤーズ スクイブは、
 従来のがん治療とは異なる
 「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

 小野薬品工業株式会社

 プリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社

2023年3月作成



私の免疫力に、
 がんと闘う力を。



Immuno-Oncology

未来をひらくがん免疫療法



抗悪性腫瘍剤

劇薬、処方箋医薬品(注意一医師等の処方箋により使用すること)

ロンサーフ® 配合錠 T15
Lonsurf® combination tablets

トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠 薬価基準収載

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報は電子添文をご確認ください。

製造販売元



文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
 TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

2023年2月作成

高度管理医療機器 体外式膜型人工肺

オキシアACF

ラインフィルタ内蔵人工肺



リザーバー
Operability
ポートの集約
術者側への配置

Stirring
フィルタ面積拡張
袋状構造による
液面応答性の向上

販売名：オキシアACF
医療機器承認番号：227008ZX00124000
高度管理医療機器：クラスII
特定保険医療材料：124 ディスポーザブル人工肺（膜型肺）
※1 体外循環型（リザーバー機能あり 一般用）
※2 体外循環型（リザーバー機能なし 一般用）
127 人工心肺回路（個別機能品 ラインフィルタ）



※1 リザーバー機能あり

人工肺
Compact
異物接液面積
充填量
圧力損失の低減



※2 リザーバー機能なし

Simple & Flexibility
シンプルな回路構成
最適なレイアウト



Originality
より簡単な
セットアップ

製造販売業者
株式会社 **ジエイ・エム・エス**
〒730-8652 広島市中区加古町12番17号 <https://www.jms.cc>



詳しい情報はWEBから
▶<https://medical.jms.cc/products/index.html?m=ProductsIndex&catid=12>

Our Synergy for Your Solutions.

つながる力を、あしたの医療のために。

医療現場のニーズに、
ワンストップでお応えする、総合医療パートナー。

私たちエア・ウォーター・リンクは
医療現場のあらゆるご要望やお悩みを
スピーディーに解決いたします。

地球の恵みを、社会の望みに。

 **エア・ウォーター・リンク株式会社** <https://www.awlink.co.jp>

本社 〒612-8418 京都市伏見区竹田向代町132番地1
TEL: 075-694-1052 FAX: 075-694-1066

●京都支店 ●大阪支店 ●滋賀支店 ●奈良支店 ●津出張所 ●東京営業所
●北陸支店 (金沢営業所/福井営業所/富山営業所, 滅菌センター/七尾出張所)



事業拠点詳細



Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



やっぱり、 LigaSure™

確かな結紮の追求
共に歩み続けるテクノロジー



使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意点等の情報につきましては製品の添付文書をご参照ください。

お問い合わせ先
コヴィディエンジャパン株式会社
Tel : 0120-998-971
medtronic.co.jp

© 2021 Medtronic. Medtronic、Medtronicロゴマーク及びFurther, Togetherは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。

SI-A344

販売名：Force Triad エネルギープラットフォーム
医療機器承認番号：21900BZX00853000
販売名：Valleylab FT10 エネルギープラットフォーム
医療機器承認番号：22800BZX00157000

Medtronic
Further, Together